

秋のブナ林 (声生)

中川 光郎

# 世界の山旅 辺境の旅

世界の山旅を手がけて32年目

—実績と体験に基づいた旅作り—  
「一人では行けない、でも、行きたい」  
アルパインツアーがお応えいたします。

新ハイキングクラブ関西支部  
創立10周年記念 海外山行  
**マレーシア最高峰  
Mt. キナバル登頂 6日間**  
10月31日(水)~11月5日(月)  
〈閑空発着〉  
旅行代金(特別価格) ¥150,000  
募集定員: 20名(残席4)  
※8月末締め切り!  
※お申し込みはお早目に!

**アルプス山小屋めぐりと氷河ハイキング**  
9日間 〈閑空発着〉

出発日 ●9/10

Aコース ¥456,000 Bコース ¥392,000

**スバル山・サベリツと山上の村、氷河展望  
ハイキングと氷河特急8日間** 〈閑空発着〉

出発日 ●9/8 ●9/22

¥315,000~¥325,000

**マウントロブソンとシャドーレイク  
ロッジ 9日間** 〈閑空発着〉

出発日 ●9/1

¥448,000

**ボリネオ・アデスの山旅5,300m峰登頂と  
チチカカ湖 11日間** 〈閑空発着〉

出発日 ●9/12

¥398,000

**カナダの大人気のロッジに滞在、  
アシニボイン・ロッジとレイクルイズ**  
9日間 〈閑空発着〉

出発日 ●9/6

¥436,000

**ボルネオ島の自然をいっぱい楽しむ。  
マレーシア最高峰Mt. キナバル登頂と  
ジャングル・クルーズ8日間** 〈閑空発着〉

出発日 ●9/19

¥226,000

うるわしに島の最高峰に登頂!  
**台湾最高峰・玉山登頂 5日間**

出発日 ●10/10-24 ¥176,000 〈閑空発着〉

台湾五岳の2名山に登頂!  
**玉山と雪山、台湾の2座登頂7日間**

出発日 ●10/10-24 ¥196,000 〈閑空発着〉

**海外トレッキング〈特設説明会〉**

◆ネパール・ヒマラヤ・トレッキング説明会  
〈9月5日・9月27日〉

会場: 大阪科学技術センター **入場無料**  
時間: 昼 14:00~16:00 夜 18:30~20:30  
(地下鉄西つ橋線本町駅下車・北へ徒歩5分)

ネパール・ヒマラヤ・トレッキング (ツアー便運行決定) 10/29-11/2・5・9・16発 9日間 閑空発着

**出張説明会** 山仲間がお集まりのときに、経験豊かな当社社員がスライド上映をまじえ説明します。国内・海外のハイキング・登山を問わずいつでもお気軽にご相談ください。

お問い合わせ・お申し込みは

**アルパインツアーサービス株式会社**

大阪支店 / 〒550-0004 大阪市西区初本町1-10-22 (A'DOCビル64階)  
TEL: 06-6444-3033 / FAX: 06-6444-3032  
広島サテライトステーション (大阪支店転送) TEL: 082-542-1660

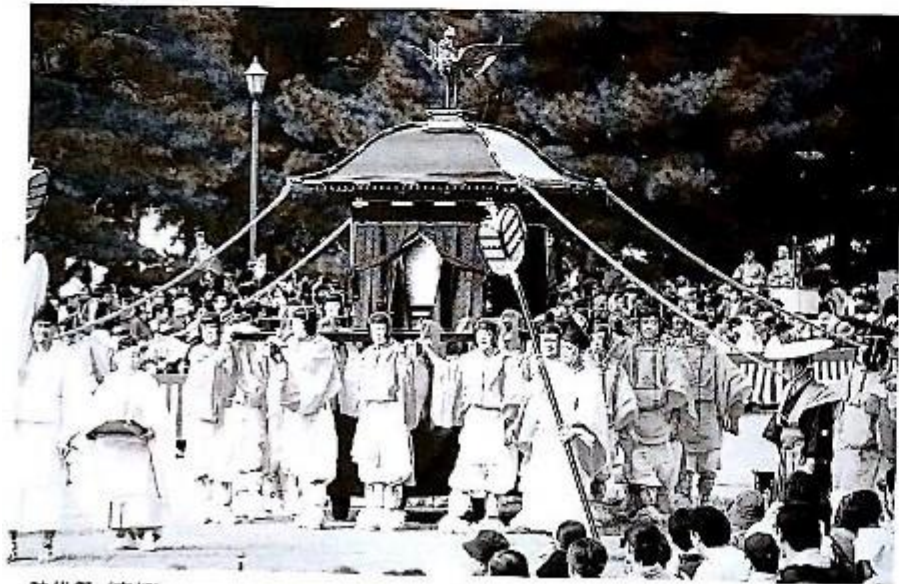
**ご請求下さい!**

アルパインツアー、総合  
ツアーカタログ、  
「世界の山旅・辺境の旅」  
秋号、海外・国内のハイ  
キング・トレッキング・  
登山コース満載!



月下美人

萩の一群 萩をなつかしき  
萩を惜しむかのように  
紅紫色の可憐な花を開き  
ひっそりと散りこぼれる  
月下美人は夜の花  
華やかな姿と香りで魅了する  
花の命は短くて  
残り香が昨夜を思い出させる  
遠くから聞こえる笛の音  
「京都復興」の願いを込めて  
明治28年平安遷都1100年に  
千年以上も栄え続けた  
雅やかな京都を後世に残す為に  
四海平安の祈りを込めて  
建礼門前から行列がスタートした

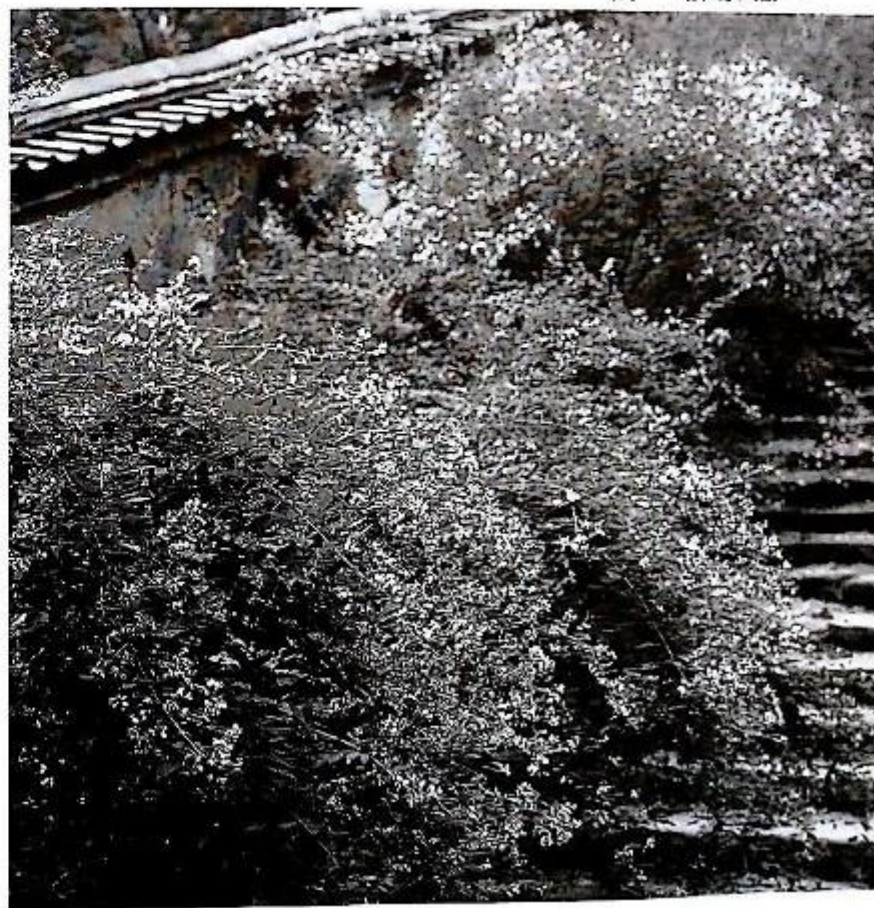


時代祭(京都)

Photo essay

# 秋の唄

題字 中田 蘭 石  
撮影 由井 収  
文 松 永 恵 一



萩(白毫寺)

# 初秋の山 陰路

初秋

撮影 武市通治



ラッキョの花 (鳥取砂丘)



松江城 (お堀)



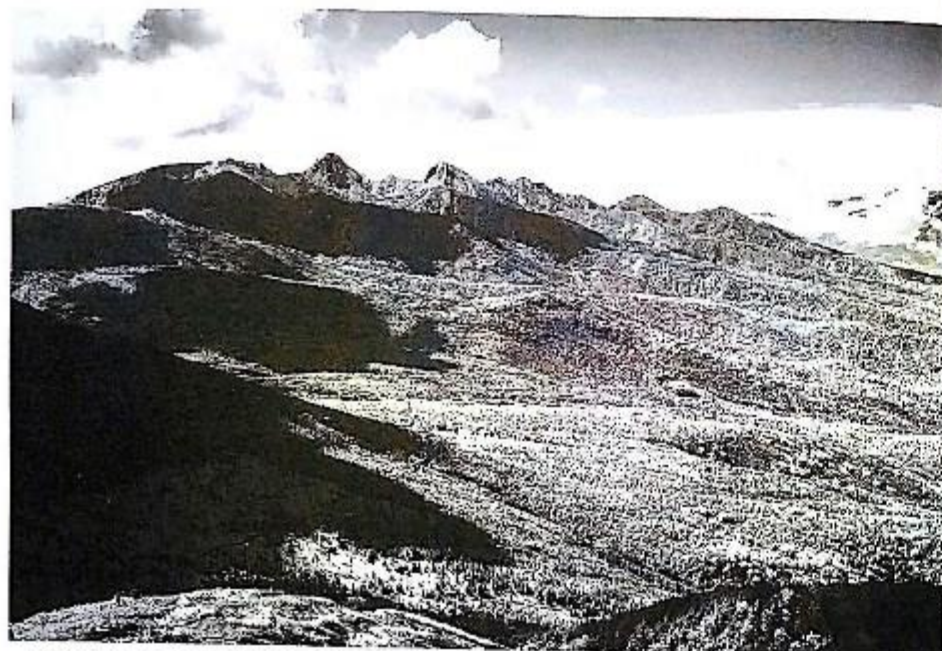
央道湖



大山



大山



北八ヶ岳・横岳からの展望①（八ヶ岳）

松浦 隆康



ジャングルムから西穂高岳・焼岳・乗鞍岳方面を望む（北アルプス）

神原 計四



北八ヶ岳・横岳からの展望②（八ヶ岳）

松浦 隆康



スキの延峰高原

中川 光郎

# 山の幸 キノコ (戸隠高原)

奥田 英一郎



キノコ味噌鍋



ナラタケ



クワタケ

新刊 奥田 英一郎  
山の幸 キノコ (戸隠高原)  
2019年9・10月 初秋 第60号

## ●目次

表紙：松田敏男「奥岳千町尾根の湿原」(北アルプス)

●作者プロフィール ●1949年、京都市生まれ。京都府立芸術大学卒。1987年より山岳登山、山岳史の調査研究に従事。(京都市立美術館、南アルプス山岳博物館、東京エッセイラー会、山岳史と登山の歴史研究会代表、日本山岳会会報、一般山岳文化研究会)

紀行	写真	文
● グラビア 秋の頃……………撮影 由井 俊 (口絵) 中川光郎 神原計昭 松浦隆康 奥田英一郎 随想(山のエッセイ) 浦島太郎、比良山と再会する……………平 一郎 ツチノコと銀山……………黒田 豊平 「山と酒」考……………西村 善行	間名古の頭(白川)……………松田 敏男 高葉山登山とキノコ狩(奥岳)……………奥田英一郎 車坂峠より黒山(上尾越)……………木村 太郎 西穂高岳(北アルプス)……………繁見 守康 平家岳(越後国)……………内田 嘉弘 瀬戸内の小島と遍路寺(瀬戸内海)……………多摩 管雄 四万十川源流点(四国)……………尾鈴山(南九州)……………紀平 龍雄 尾鈴山(南九州)……………尾鈴山(南九州)……………紀平 龍雄 運搬) 三角点を訪ねて②……………尾鈴山(南九州)……………紀平 龍雄 紅葉尾から不老堂を経て水木野へ(鈴鹿)……………磯部 純 運搬) 比良を歩く②(最終回)……………磯部 純 朽木から蛇谷ヶ峰・富坂へ……………磯部 純	● 旗振り通信の研究④……………三重県中部ルート……………柴田 昭彦 ● 1等三角点峰(5000以上) 548座完全の記録(第27回)……………坂井 久光 ● 平成4年夏の北海道の山旅……………中村 敏文 ● 青根ヶ峰より百貝山(吉野)……………中村 敏文 ● 文学歴史探訪ハイイク④「生駒の聖天さん」を訪ねて……………松永 恵一
コース ガイド	1) 大倉畑山(南紀)……………西尾 寿一 2) 柳ヶ瀬山(中尾山)(湖北)……………豊原 清司 3) 白六山と高野辻(大峰)……………山形 隆 4) 滋ノ森山と半作嶺(南紀)……………山形 隆 5) ハイイカ岳・綿向山回遊ルート(鈴鹿)……………磯部 純	沿線ハイキングガイド……………05 81 サービスチェーン……………05 81 せせらぎ……………11211090
新ハイ関西山行計画と報告……………11211090 バス時刻表(鈴鹿)……………11211090 編集後記・広告案内……………11211090		

## 巻頭言

ハイキングを楽しみたいが、登りが苦しいので長靴を履きませんか。と、よく耳にします。では、何がそうさせるのでしょうか。

引力に逆らって重い身体を上上げるのが、登山に決まっています。苦しいのは当たり前で、それを我慢しながらひたすら忍の一字で登るのが、山登りの醍醐味だ。などと悟り切っている人もあります。

その苦しさは、心臓から来るものと考えられます。「あえきながら息を登り切った」といいますが、まさにこれは心臓の苦しさを表現しています。この心臓から来る苦しさを和らげてくれるのは、呼吸法であろうと考えられます。

どのようなスポーツでも呼吸が大事で、勝負の必要な競技は無酸素運動、マラソンや登山のような持久力は有酸素運動がよいといわれます。息を吸って、ゆっくり長く時間をかけて口から吐き出す。いわゆる腹式呼吸法です。これで最大酸素摂取量はかなり増加します。口頭からこれを実践し、登る時、腹式呼吸でゆっくり歩きましょう。まっとうにままでより楽に登ることができるでしょう。

新ハイキング関西(代志) 村田 智彦



克

### 浦島太郎、比良山と再会する

平 一郎

「あなたの最も好きな山はどこですか」と山歩きの仲間が質問された時、とっさに「比良山が一番好きな山ですよ」と無意識に答えてしまった。

一番好きな山とは言ったものの、山歩きを再開してからまだ一度も行っていない。三十年近くの間、山歩きから遠ざかっていた浦島太郎の私は、自分のホームグラウンドともいえるべき比良山のことまで忘れてしまっていた。

思い返してみると、かつて比良山へは数十回行っている。北方の釣瓶岳・蛇谷ヶ峰から南の権現山・靈仙山まで、ほとんどくまなく歩いている。

昭和38年11月22日のケネディ

大統領暗殺のニュースは、蓬萊山からの帰りに朽木谷の坊村で耳にしたし、東京オリンピック開会式の日(昭和39年10月10日)には、武奈ヶ岳を歩いてきた。比良山へ最後に行ったのは、いつだったか覚えていない。いつの間にか行かなくなった。と同時にどの山へも行かなくなっていた。

比良山を初めて歩いたのは、高校の先生に連れられて行った時だった。教えてもらった英語は忘れてしまったが、同時に学んだ山歩きのおもしろさは、それから四十年経った今になってやっとわかり始めてきた。

ホームグラウンドの比良山へ行こう。武奈ヶ岳に会いに行こう。というわけで、三十数年ぶりに山歩きのふるさとともいえるべき比良山へ出かけることにした。

浦島太郎の永い冬眠中に、比良山へのアプローチは、時代と

ともに変貌していた。その当時、比良山へ行くには、江若鉄道を使うしかなかった。京阪三条から京津電車で浜大津へ出て、登山客でこったがえす江若鉄道に乗り換えるのである。湖畔をゆっくりと走る列車の中は、若さと大きなリュックサックであふれていた。

琵琶湖の裏側、つまり西側から比良山に登る場合には、鑛街道と異名のある朽木谷の地道を京都バスに揺られて行ったものだった。

江若鉄道が廃線になり、JR湖西線が完成して、京都駅から比良山へ直行できるようになった。

そして、マイカーの時代を迎えたのである。湖岸道路(国道16号線)に加えて、有料の湖西道路を利用すれば、またたく間に比良山麓へ行き着ける。

リフトやロープウェイは、当時すでに開通していたが、私に



克

### 随想

(山のエッセイ)

は緑のない存在であった。横目でチラリと見るだけで、まったく無視をして、ひたすらに歩いて登った。別に、修業僧や修験者のような心境になって来らなかつたわけではなく、当時の収入では、利用するお金がなかっただけのことである。

自宅からマイカーで1時間30分、さらにリフトとロープウェイで20分と、2時間足らずで北比良峠に立つことができた。このようなことは、浦島太郎にとって画期的な出来事である。

体力が衰え、要領しに収入が増えた。横着きとせいたく心とが、山を登ることから山を歩くことに変化させた。

ともあれ、昔の半分以下の時間と労力で北比良峠に達した。あとは、八雲ヶ原を経て武奈ヶ岳までひと息である。

歩く労力は少なくなったが、腹立たしきは多くなった。ロープウェイ山頂駅から比良

ロッジを経て八雲ヶ原へ至るコースは、スキー場として観光開発されているため雪のない季節には山肌や赤土が露き出しになっでいて、工事現場を歩いているような気分である。

八雲ヶ原の湿地帯は、かつては比良山を歩く者にとって憩いの場であった。が、いまや観光公園化して見聞遊べるほどに自然破壊が進んでいる。間もなく八雲ヶ原の湿地帯も干上がってしまうにちがいない。

武奈ヶ岳は三十数年経っても、ほとんど変わらぬ私を迎えてくれた。以前に見慣れた、頂上を示す木製の立派な案内板が、だれか登山者がつくったらしい手づくりのものに変わっているだけだった。

あいにくの曇り空で、頂上付近はガスがかかっている。武奈ヶ岳の360度の眺望は期待はずれになってしまった。それでも、しばらく二面におおっ

るガスを見ていると、その向こうに北陵から尾根続きの釣瓶岳、琵琶湖の対岸には近江富士の異名のある三上山、南には常楽岳のガン場など、さえぎられていた。山頂にたまたまずで景色を想像している、三十年間の時の経過を忘れて、この前にここへ来たのが、つい先日のことのように思えてきた。

あのころは、独身だった。毎週山を歩いていた。単独行が多かった。結婚して子どもができ、教育費や住宅ローンの支払いと仕事の忙しさに追いかけられた。山歩きのことをすっかり忘れてしまっていた。

「あなた、そろそろおりましたよ。うよ」。突然、後ろから妻に声をかけられた。

私は懐かしい思い出を左右頬にしようような気持ちで、武奈ヶ岳をあとにした。



### ツチノコと銀山

黒田 豊年

電燈が点ることなく、昭和40年に産村となった鈴鹿最奥の茨川集落。交通の不便さと集落成立の礎から多くの人々の関心を誘った。

私はホームページで茨川特集を組んでいるが、経緯調査のため三つの課題を持って、ある五月晴れの一日、茨川を訪ねた。

茨川へ入るには、ノクノ坂越または治田峠越が礼儀と心得るが、本日は第一課題として焼野に用があるので車で失礼する。焼野とは折戸トンネル手前の茶屋川左岸台地付近である。

滋賀県出身のエッセイスト山本栄石は、「元不・逃げるツチノコ」の中で、昭和36年にこの地でツチノコが捕獲されたことを述べている。

ここは昔、茨川の家屋の屋根葺き用の炭炭であったが、今は何の必要からかアスファルトで固められている。わずかに隙間から生えているススキが当時を偲ばせる。

私は車を駐め、捕獲の現場となった炭窯を探したが発見できなかった。斜面を登っていくとカモンカが逃げた。適当な場所を朝買ってきたスルメをちぎってコンロで焼やした。ツチノコはタンパク質の焦げる匂いに寄ってくと書いてあったからである。

こちらでも少し切れ端を載せながら待っているとハエが寄ってきた。その数は次第に増してエライことになってきた。私は閉口してその場を逃げ出した。ここは帰りに寄るとしよう。

茨川への道すがら、野犬捕りの檻のようなものを見つけた。すわツチノコ捕獲器かと、車を停める。野獣捕獲器と書いてあ

る。厥除ではなく発信機をつけて生感調査をするので、罠が掛かっていたら連絡をくれ、と記されている。人間は何でも調べたがる生き物だ。私は猫より人間に発信機をつけたほうがおもしろいと思うのだが。

第二の課題は茨川の全景写真の撮影だ。私の手元に産村前のモノクロ全景写真がある。この撮影現場を探し出して、同じアングルの写真を撮って比較したいのだ。

対岸の小沢をしぼるく登って尾根に取りつき、まず間違いないだろうというポイントを見つけた。しかし密林におおわれて写真にならない。トラバースしたり木に登ったりしたが無駄であった。たぶん当時この斜面は伐採されていたのだろう。

第三の課題は茶屋川支流沓谷銀山跡の探索。銀山の始まりは弘仁元年、永承年間、天文十八年の諸説あるが、一時は日本の



### 随想

(山のエッセイ)

克

全生産量の七割を占めたと言われるほど大規模だったらしい。

通行して石組みのある左岸台地で昼食をとった。ここは飯場跡と推定される。銀山があったと聞く左股へ入る。水流は細くなり、滝を攀じると岩盤が露出していた。

仔細に見るときらきら光っている。これが銀鉱石なのか。カケラをザックに放り込んだ。ついでに強引に斜面を登って758坪の標高点に登ってみた。手前のコルには古い道跡があり、これをおりると飯場跡に出た。このあたり一帯には鉱石の屑が散乱していた。

鉱山があったことは確実だが、この小さな谷からは昔の賑わいを想像することはできなかった。帰りに寄った焼野ではスルメの残骸に唾がたかっていた。茨川の元住人は、ツチノコの話など聞いたことがない、ということだった。

### 「山と酒」考

西村 善行

ハイキングの必要装備ではないのだが、カメラと酒はいつも必ず用意している。これだけはザックが重たくなろうと嵩高くなるうと昔にはならない。カメラは若いころから登山とともに同時進行してきた趣味だが、登山同様、何の進歩もないまま飽きもせず続けている。

山に酒を持って行くようになったのは、いつのころからかよく覚えていない。私が所属していた山の会には呑んべえが多かったことはたしかで、これも同時進行してきたものと思う。

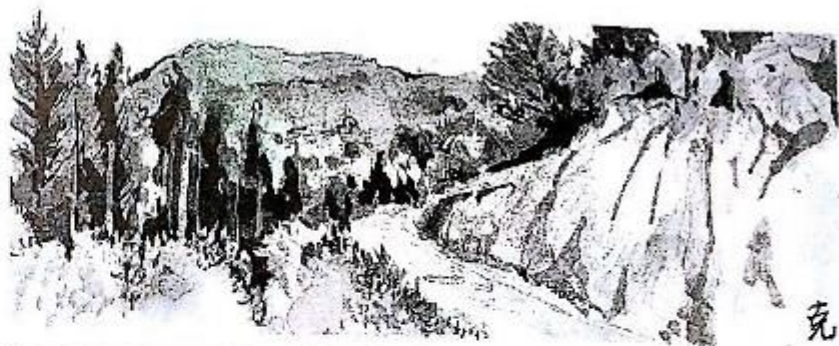
山頂に着くと、さあ飯だということで適当な場所に着き、シートを広げ、ザックから弁当とよく冷えた缶ビールを取り出し、仲間といっしょにまずは乾

杯。登りでさんざん汗をかいたあとでもあり、これが実に旨い。「いや極楽、極楽」というわけで、私のいつものパターンとなっている。

冬ならば日本酒と小さなコンロを必ず用意する。気の合った仲間とワイワイ言いながら呑むのは本当に楽しいものだ。食事も進むし、まさに至福のひとつである。

山からおおると、バス停近くに酒屋があれば缶ビールを買って、道端に坐りこんで、バス待ちの間にまた一杯ということもよくある。

私のある友人は、これを「雲助酒」と言って笑っていた。江戸時代、飯籠かきや馬方等、人足たちが街道沿いで酒を酌みかわしたさまに似ているというのである。何となく人聞きの悪いことだが、彼の説によると、実際の「雲助酒」は、街道の片すみにかきんと煙を敷き、往來



克

の邪魔にならないように気を配るなど、案外マナーが良かったらしい。所かまわず坐り込んで動かなくなってしまう我々の、「雲助酒」以下なのかもしれない。

山頂の道標のそばに陣取ってワイワイとやっていたら、記念写真の邪魔になると、他の登山者からひんしゅくを買ったことがある。マナーは弁えなければならぬと反省した次第である。山で酒を楽しむには、昼食はなるべく山頂の近くで、時間もできれば1時間位はほしいと思う。さらに下りのコースに特に危険な箇所がないこと。量も少なめで間違っても酔っ払うほどには飲まないこと。まわりの仲間にすめるのはよいが、けっして無理強いはいはしないこと。酒量や酒癖は個人差があるので、いちばんよく知っているはずの当人の自覚に任せるしかないが、酒癖の悪い人には遠慮してもら

うこと。

山に酒を持って行く人はけっこう多いように思うが、ハイキングの会によっては、飲酒を禁じているところもあるようだ。山行のスタイルや、時と場合、同行者にもよるし、また、酒気帯び運転がご法度であるように、「酒気帯びハイキング」に問題がないとは言えない。しかし、私の場合、ハイキングというのは、極論すれば物見遊山であり、節度をもって臨む限り、ハイキングに酒の楽しみがあってもよいのではないかと思っ

ている。また、ハイキングはピークハントだけにこだわるのではなく、もっと行程を楽しむべきものと思っ

ていて、せっかく貴重な余暇を利用して訪れた山である。この山に、また来るとはならないかもしれない。山や仲間との一期一会を大切に、できるだけ余裕をもってしみじみと山行を楽し

しみたい。

近頃の中高年登山者、特にグループのハイキングは、何かとせかせかしすぎるような気がする。例えば昼食時にしても、食事さえ済めばすぐ出発というところがよくある。コースタイムを必要以上に気にしすぎているようにも思う。で、結果として駆け抜けるだけの山行に終わってしまう。ハイキングで酒を楽しむくらい余裕は必要であると思

う。何も山で宴会をしると言われないが、酒は仲間との雰囲気づくりに役に立つ。酒に限らず、例えばお茶を点てることでもよい。要は、そのような時間的、精神的なゆとりを持つことが大切。

ハイキングは競争ではない。記録をつくるためのものでもない。もっとのんびり歩こう。酒でも呑んでゆっくりしようではないか。

## 紅葉の森を求めて

### 間名古の頭

10月初めの連休に紅葉を求めるとなれば、高い山かまたは北方の山へ行かねばならない。しかも金曜日の夜出発で山中一泊という日程に限定されると、そう遠出はできない。

1999年は南アルプスの塩見岳(これは山中一泊)、98年はロープウェイのリニューアル工事中の静寂をねらって木曾駒ヶ岳、97年は新雪が一夜でどと降った奥沢(これも山中一泊)、96年は南アルプス池口岳、95年は白山の三ノ峰から別山、94年は中央アルプス御釜山から南駒ヶ岳、93年は南駒ヶ山・火打山・妙高山(これも山中一泊)……。こんなふう

に毎年紅葉を追い求めて秋の山行を繰り返してきた。さて今年はいずこへと考えあぐねているうちに、白山北方の山域に目がとまった。98年のこの時期は白山(新道)を往復したが、その時の紅葉の美しかったことを参考に、その東方の根拠主稜線にある間名古の頭へ(中宮温泉から登るというコースを思い出した)。このコースには静かで美しい遊歩小屋があるという情報が決り手となった。少し地味なコース設定だが、上記のようにいろいろな所を経験したからには、徐々にマイナーな所に目が向くというのは自然の流れである。ここなら静かに紅葉を愛でることができると、車を出してくれる時高さんの意向

## 松田敏男

### 白山

も汲んでの結論である。

間名古の頭は、白山へ登るべく行く長い道のりにあるちよつとしたピークで、三角



間名古の頭

点はあるがルートからはずれていて、白山大峰の登り下りにはまず立ち寄りやすい。それがあってこのピークを選ばせる重要な要素となった。

保田さんを含めた3人で中宮温泉へと向かった。中宮温泉の手前には大きな駐車場があり、秋の行楽シーズンと言えども車間を大きくとって駐車でき、そばにテントを張った。右まわりのピールで乾杯し、あすの美しい光景を夢見ながらシュラフに入った。

翌日はスパー林道との分岐点から右へ折れてすぐの中宮温泉駐車場に車を置き、7時15分に出発する。谷沿いのやや土ぼこりの道を進むと、右手の橋を渡った所に登山口の標識を見る。すぐに





## 戸隠高原の休日

# 高妻山登山とキノコ狩

奥田 英一郎

濃信奥

なんば発の夜行高速バスに乗る。交通費が安く、宿泊料が省けて、行動が余分にこれるのだからメリットは大きい。三列トイレ付き、29人乗りに乗客は約半数だった。リクライニングをいっばいに倒して、ノンストップ。途中、一度目を覚ましただけで、5時20分ちようどに長野駅に着く。

合宿で室内楽を勉強するという大阪のピアノ教室のお嬢さん方といっしょだった。戸隠高原に入ると色づいた紅葉がやわらかい秋の陽に映えていた。縦ノ木山荘での朝食に、焼き立てのパンと自家製のブルーベリージャムをいただいたあと、しばらくくつろいで散策に出る。裏庭の

芝生に朝露が光っていた。夏に来た時はマツムシソウが風に揺れていたのだが、高原の秋は早い。白樺の疎林の間から戸隠連山の黒い岩肌が透けて見えた。

旧越後道を歩いて雑木林を抜けると、奥社への入口に出る。年ふりた杉の巨木がびびっている。森厳な趣のなかを歩くと中程に随神門があった。芽吹きを待たせる屋根に雑草が目につく。歴史の重みを感じさせる奥社は大きな山に抱かれるような格好であった。ご神体は後ろに岬岬とそびえる岩山のことだった。

奥社に詣でたあと、随神門まで戻って森林植物園に入る。自然の森である。ナ

戸隠連峰と鏡ヶ池



ラ・モミ・イテイ・ブナ・カヤなどの混じる森をさまよって歩くのは気持ちがいい。枯れた大木の枝にボールのような寄生木がおもしろかった。このあたりは近年、熊が出るということだった。

「居は極意さんという宿が経営する店での宿である。『戸隠の絵本』を思い出す。父親が宿を燃やすそばで、母親に寄り添

うように眠っている子を持つたのが好きだった。中社橋の裏山に文学碑があった。

越後道を歩いて山荘に戻る途中、だいたい坂道から、林間にピアノの音が透明な空気を通して聞こえてきた。演奏がもう始まっていたのである。パイオリン、チェロとのトリオで、モーツァルト・メンデルスゾーン・シューマン・ブラームスな



奥社参道

ど多彩な曲を、窓の外の白樺の木を眺めながら聴かせてもらった。戸隠の休日に思わぬプレミアムが付いたのである。

欧風料理の夕食のあと、主人から高妻山について話を聞いた。日帰り登山はけっこう厳しくて、一不動の遊難小屋で仮眠をとって登る人が多いらしい。早発ちはするが、遅くなる時は遊難小屋で仮眠することも念頭において、念のために無線機を用意してもらおう。

主人は長野県連の会員で、近いうちにダウラギリ付近の登山を計画していると話していた。薪ストーブのあるウッドイナフロントロビーにはスパールの土産物が所狭しと飾られ、書架にはぐっすり

と山岳書が並んでいた。

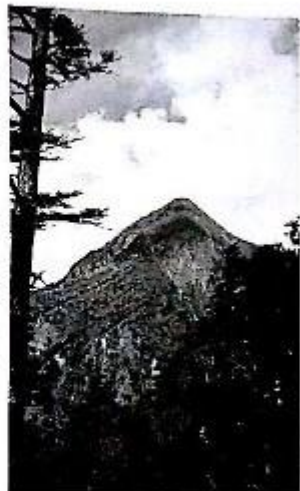
翌朝、弁当を二食用意してもらって、5時過ぎに牧場の登山口まで送ってもらった。羊の群れに送られ、白樺林を横に見て落ち葉道を行く。沢沿いの深い森林のなか、何度か流れを渡り、支谷に入って間もなく大きな一枚岩の前で、濡れた笠の横に長い鎖が、これを使って20分ばかり

登る。急坂をしばらく捲くようにして登ると磐石の大きなバンド(岩壁)の横に出る。ハーケンを使って新しい鎖が、2層間隔に10本ばかり横に並んでぶら下げられている。雨に濡れているとイヤな所。これを順にこなしてトラバース(横断する)。最後の不動滝におつかった所は、まっすぐ岩をよじ登って落口に出る。

ホップして間もなく、一杯清水の水場に着いて朝食をとる。弁当にしては朝食が豊だ。フルーツにブラムが付いていておしゃべりな弁当だった。冷たい水を補給して、小さな滝沢を登った所が、一不動の遊難小屋のある鞍部、戸隠山と高妻山を結ぶ接点である。

山は普通、一日目、二日目、三日目……としたいに高度を上げてゆくが、高妻山では、一不動・二穀池・三文沢……と頂上まで信仰に因んで区切られている。一不動が一合目に当たるとすると、すいぶん長く高い所である。ここから後線伝いの道となる。道脇にはイワカガミか、イワウチワのつやつやした紫褐色の葉が群がっていた。二穀池への途中、振り返ると北アルプス北部の山並が淡い紺色に望まれた。眼下には多彩な紅や黄のじゅ





高妻山

にして登るのだから、岩滑の岩登りをやっているようなものである。九勢至を登り切ると、やっと平坦な尾根道となる。が、それもつかの間で、草地はすぐに岩尾根に変わる。

十菩薩には古銅の鏡が据えられていた。ところが、三角点のある高妻山の山頂(2866m)は、さらに北へ100mほどばかり

うたんが広がっていた。三文殊への道は小ザサの道。前方遠くに三角錐のきれいな高妻山が突っ立って見えた。四菩薩を過ぎると、長い登りのあとクマザサのなかに洞があった。五地蔵山である。残念ながらガス(霧)が出てきて眺望はなかった。

六彌勒、七観音あたりにはまだ高木が残っていて木蔭の道がよかった。このあたりから一不動を早急ちした人だらう。山頂からくだってくる人に出会う。八丁ダルミのアップダウンはイヤだった。頂上までの高い登りを見ながらの長い下りが続くのである。

八葉師を過ぎると、さらに険しい急斜面となる。岩角の突き出たのをホールド

の所だった。風雪が激しいのか、三角点標石は隠れていて文字は読めなかった。360度の展望所なのだが、ガスが濃くて眺望はだめだった。曾遊の山の妙高・火打・焼山・金山、そして雨飾山が見えるはずなのに……、それどころか、すぐ近くの乙妻山すら、それに好きな黒姫山も飯綱(連)山も全く見えなかった。ただ鬼無里だらうと思われるあたりが、ガスの切れ目から見下ろせた。

二度目の弁当を食べている間にだれもいなくなった。頂上をあとにしてくだる。お尻が岩に擦りそうな坂だった。砂礫で滑る所、粘土質で滑る所……など、ずつと気の抜けない下りだった。登りとは反対に九勢至、八葉師……と数えるように

してくだるのだが、一つ一つが長く感じられた。

一不動にはそれでも何とか短い秋の日もまた明るいうちに着いた。かなり疲れていたのだが、遊舞小屋で眠ってもよいと思っただが、15人ばかり休める小屋は残念ながら登山者であふれていて、高妻山が深田久彌の百名山に選ばれてから、今まであまり登られなかった山だったのに……、この日は連休だったせいもあったか、この大勢のなかでは休むのはイヤだった。

持ってきた無線機はたいそう役立った。山頂でも、ずつと山荘と連絡を交わしてきた。結局ここでも、何とか日が暮れる前に常磐の箱場を越せると連絡をとって、遊舞小屋での仮眠をやめることにした。

箱場の下りは登りに比べて気を遣ったが、何とか明るいうちにおりることができた。しかし、状況はなかなか厳しかった。月のない暗い谷道は予想に反して時間がかかった。渡渉、段差、大石、木の根……など、ずつと緊張続きで、時間だけはやたらに過ぎた。

ヘッドランプの光電が気になさるころ、

前方から呼ぶ声が聞こえてきて、間もなくチラチラしていた明かりが大きくなって迎えの主人と会う。黒々とした牧場をよぎりながら覗き見た星雲。ホッとした気持ちに銀河がまばゆかった。

翌日、ゆっくりと目覚めて、あらかじめ頼んでおいた民宿のMさんと会ってキノコ狩りに出かけた。以前は飯綱山とか、黒姫山の山裾で採取したこともあったが、この日は鏡ヶ池近くの雑木林に入った。何度かキノコ採りに来ていても毒キノコとの識別はむずかしい。たぶん大丈夫だろうと思っただけのを見てももらったら食用にできるのは三分の一だったこともある。この日は、Mさんからあまり離れない所を探し歩き、すぐ教えてもらえるようにしたのだが、かえって効率は悪かった。

それでも3時間ばかりで、そこそこの収穫だった。ナラタケ・チョコタケ(現地でもそう呼ばれていた)、いろいろなシメジなど10種ばかり、量としてはカラマツタケ・クリタケなどが多かった。ほとんど、Mさんが採ったものだった。それでも、たぶんだめだろうなあと思ったのが、

大丈夫食べられると聞いたときは嬉しかった。

お昼は鏡ヶ池のそばのあずまやで、早速キノコ鍋にする。採ったばかりのキノコを水洗いして豆腐・豚肉を入れて味噌味をつける。それぞれのキノコの味が混じり合って、なかなかおいしかった。同行のK君などほとんどおぼろげで何杯も食べていた。前面の鮮やかな紅葉・黄葉の微妙な色が鏡ヶ池に映え、屏風のように立ちほだかる大岩壁の戸隠山を眺めながらMさんの奥さんが作ってくれた野菜入りのオヤキを、キノコ鍋といっしょに食べる味は格別で、ついお代わりが進んだ。

クラシックの生演奏を聴き、厳しい高妻山の登山を果たし、キノコ鍋を賞味するという、少々せいたくな戸隠の休日であった。(平成10年10月探訪)

△参考タイム▽

- 縦ノ木山荘5・15(車)牧場登山口5・25
- 一杯清水7・50
- 8・50
- 9・05
- 五地蔵山10・10
- 10・20
- 高妻山12・25
- 13・15
- 五地蔵山15・45
- 50
- 11
- 不動17・05
- 15
- 牧場19・55

△宿泊▽

縦ノ木山荘(越水ヶ原)  
026(254)2100  
A1泊2食 8500円▽

民宿みや川(中社宮前)  
026(254)3117  
A1泊2食 6500円▽

△地図▽昭文社「妙高・戸隠」  
△参考▽

夜行高速バス  
なんば発22・30 → 長野駅着5・20  
長野駅発22・30 → なんば着5・20  
(片道8800円)

観光バスなら 確実第一の  
太陽観光開発(株)へ!!



- ・小型 (20人・24人)
- ・中型 (28人乗り)
- ・中2階 (45人乗り)
- ・大型 (55人・60人)
- いづれもサロンカーからデラックスまで

スキーバスもあります

〒578-0971 東大阪市瑞池本町1-20 オカダビル4F  
電話 06(6745)3911・FAX 06(6745)3983  
夜間・電話 06(6242)2371・FAX 06(6242)2372

若山牧水の風景を歩く

# 車坂峠より黒斑山

木村 太郎

上信越

わが良き山友の信田恵介と計画を立て、今年秋の山行は上信越の山々へ出かけることに決めた。前夜発つ泊3日の日程で、高峰高原と草津温泉を宿泊地に選んだ。一日目は黒斑山と高峰山。二日目は西阿山と根子岳。三日目は草津白根山と本白根山に登ることにした。

カラマツやツガの自然の息吹。ダケカンパの黄葉の装い。燃え立つ山野の紅葉と神秘的な火口湖の水の色。山々はそれぞれの表情で僕たちを迎えてくれるであろう。

名神道は夜間工事で通行止めとなり走れない。やむなく吹田から近畿道に入り、名坂道経由で目的地に向かうことになった。

た。

近畿道八尾インターに近い信田邸車庫に、私の定代わりの軽自動車を預けさせてもらう。山歩きに理解ある奥方のおかげで、彼はピカピカのRV車に乗り換え、嬉しそうにしていた。車内は8人乗りの広さでゆったりとくつろげる。加えてカーナビ付き仕様なので、彼の車に乗って行けば、楽しい山旅は約束されたようなものだった。

ハイウェイの上空に、十字星を光らせていた白鳥座も見えなくなり、夜の明けた長野道から上信越道へと走る。小諸インターを出てチェリーパークラインを通り、車坂峠に到着した。車坂峠(197

を舞台に美しい筆致で八ヶ岳をも書いた。

見はるかす信濃の風土の上に、連絡と文学的遺産は積み重ねられた。この車坂峠から見下ろす風景は、この地を素材にした文学のプロトタイプを覗くようなものだった。これから登る黒斑山の本峠と呼ぶべき浅間山も、古くには宗良親王や在原業平に詠まれた。近代の北原白秋や若山牧水が詩歌に残したものは、長く愛誦されている。

車坂山荘の広場に車を駐めて、登山靴に履き替え身仕度を整える。道路を横切った向こう側に、黒斑山の登山口がある。中コースを選んで山道に入ると、頭上一帶は針葉樹の林であった。

からまつの林を過ぎて、からまつをさびしかりけり。たびゆくはさびしかりけり。

ごく自然に北原白秋の「落葉松」の一文が胸の裡に浮かんでくる。恋文だけの恋人にやと邂逅できたような懐かしい情景が広がる。



車坂峠・黒斑山付近略図



車坂峠登山口

3月)に降り立てば、眼下に小諸の町と佐久平が見渡せる。さらに南西の方向には、優しい旋律を奏でる八ヶ岳の秀麗な姿を望むことができる。

細密画のように下に見えている小諸を題材に、島崎藤村は「千曲川旅宿のうた」を書いた。堀辰雄は「信濃路」に、八ヶ岳山麓の野辺山を歩いた情景を綴っている。また「風立ちぬ」では、富士見高原

今度の山旅に何か思い入れを持っていったのか、相棒の信田は無口であった。私と彼は「さあ歩き始めよう」と、暗黙の合図を目で交わし合って林のなかへ進んでゆく。その時、彼は私に「素敵な雰囲気じゃないか」と、胸のなかで言っていたのかも知れないが。

葉色を薄くした寂しげなマツムシソウを道の辺に見つける。去りゆく季節を惜しんで草地に咲き残る花は、羽を傷めた蝶のように、細くなった花片を風に揺らましている。時には愛らしい小動物のリスにも出会える山の小道。コムクドリやカケスなどの野鳥が遊び戯れている緑の林間。

けれども、きょうは禽獣だけでなく、前からも後からも、ハイカーの気配すらしない。私たちが暗路に歩こうと選択した、車坂峠を経る表コースに他のハイカーは流れたようだ。

カラマツの林を過ぎるとツガの林になる。倒木が密着している湿地を過ぎる。岩石が密集したガレ場が出てくる。急傾斜地をどう乗り越えようかと迷っていると、焦れた信田は私を尻目に先に歩き出した。私は彼の背高い後ろ姿を追いかけ

黒斑山から浅間山を望む



る。

カヤトの草地を気持ちよく進んで、黒斑山の西斜面を登りつめ、シラビソの林を抜ける。景色は一変する。赤ゾレの頭からのびてくる道は、噴火の名残の荒涼とした地肌を露にしている。トミーの頭から黒斑山はもう目の前に見える。片刻の山肌をもぎとられた黒斑山の悲しい姿に対して、浅間山は山裾にカラマツの黄葉を身にまとった優雅であった。

蛇骨岳よりJバンドへの横走路を進むことは禁にされている。行き止まった台地状のピークが黒斑山(2404m)の頂である。頂上には数組の先客がいた。湯の平お花畑の斜面を隔てた高台に坐り、浅間山の豊饒な山容と顔を見合わせている。ちょうどオペラハウスの様敷席から見るように、私たちは浅間山の輝の流を観察していた。

この日は頂に雲の影がかかり、噴煙が見え隠れする。それにしてもわが相棒の信田は、哲学者然として静かであった。特にきょうはいつも以上に寡黙である。私たちの場合、マイカー登山の主たるエリアは京阪神近郊である。この日は、遠くに来たという山旅の感慨に言葉を無く

麓の歌が詠まれた。

浅間山山鳴きこゆわがあぐる

瞳のおもさ海にかも似る

火の山のいただきちかき森林を

過ぎつむとしてこころいためり

(歌集「路上」より)

明るい「海の声」の海の色は、暗い色調の海に横変わりしている。「路上」の巻頭には「海底に眼のなき魚の棲むとい



黒斑山より蛇骨岳への道

していたのだろうか。自然派を信条とする信田にとって、この日の山歩きは満足のいくものだったのであろうか。

歴史もしくは文学的な伝承の山々を訪ね歩いてみたい私にとって、浅間山は一度は訪れてみたい山の一つであった。いま黒斑山の頂に坐しながら唐突に、旅を愛した歌人、若山牧水(明治18年〜昭和3年)の一首が口をついて出た。

幾山河越えさきり行かば寂しさの  
はてなむ国ぞけふも旅ゆく

人生の大半の時間を旅に過ごした若山牧水は、浅間山とその周辺を素材にして多くの歌を残している。私が長年愛読してきた牧水歌集の中の浅間山の風景を、この黒斑山まで来て初めて目にすることができた。牧水の風景を歩いたことで、牧水短歌への理解が深まったようにも思えてきた。

火を噴けば浅間の山は樹を生まず

茫として立つ青大地に

大ぞらに星のふる夜を火の山の

裾に旅寝し妻をしぞ思ふ

(歌集「独り歌へる」より)

牧水の短歌歌集「海の声」は、鮮烈な恋愛歌集である。園田小枝子という謎の

ふ……」の歌を置く。光のとどこか暗闇の世界に、ふたたび光が射すのは、最愛の妻とした太田喜志子の出現まで待たねばならなかった。

歌集「死か芸術か」には、歌人太田水穂の紹介で喜志子と知り合い求婚した当時の歌が載る。「信濃より甲斐へ旅せし前後の歌」という詞書きのある連作がそれである。

山恋ふるさびしきころなにもに

めぐりあひけむ涙ながるる

絶望から立ち直ろうとする時に、山の存在そのものが再起への契機になる場合がある。一坵の土と岩、一樹一草が傷ついた魂を癒してくれる。牧水の旅は「みなかみ紀行」の旅をはじめとして、自然とふれあうことに原点があった。後年牧水は、妻喜志子と沼津市千本浜の松原の陸に移り住んだ。歌に詠んで愛した千本松原の伐採に反対して運動を興し、自然景観を守ることに尽力した。

牧水は目的がなくとも地図を見ることがを交しんでいた。地図の上には「山があり、川があり、海があり、島がある。それ等の間に人間の悲哀を感じる」と、紀行文集「旅とふる郷」に述べている。旅

ある女性と恋におちた時代に、あの「白鳥は哀しからずや空の青……」の名歌を生んでいる。その当時「山を見よ山に日は照る海を見よ海に日は照るいざ時を君」と歌って、光り眩しい青春を謳歌する牧水がいた。だが牧水の初恋は破綻する。恋の対象である女性が人妻であると知ったからである。

歌集「独り歌へる」の世界は、恋に傷ついた魂で詠まれた。手酷く裏切られたが、それでも恋人を忘れ得なくて、小枝子を恋い思う悲哀の歌で編まれている。傷心を癒すために、夏の軽井沢に来た折に三十五首の歌は草された。星降る大地に寝て、妻と思っていた恋人小枝子の面影を追っていた。

歌集「別離」に「白鳥は哀し」等の歌が再収録された時、「女ありき、なれと共に安房の渚に渡りぬ、われその傍にありて夜も昼も絶えず歌ふ」と詞書きされている。「海の声」の燃える青春絵巻は、外房州根本海岸の明るい太陽の下に展開された。だが恋を喪失して以来、暗い旅が続いた。歌集「路上」でも、苦恋の続きが詠まれている。健康を害して秋の小諸に滞在した折には、九十六首の浅間山

に出た牧水はコンパスを携帯し、当時の参謀本部の地図を幾枚もいじり破っている。牧水は私たち以上に山歩きの人のように思えてならない。

なにゆえに旅に出づるやなにゆえに

旅に出づるや何故に旅に

牧水は自らの歌に自問自答している。

汝が夫は家にはおこな放にあれば

命光ると人の言へども

歌人でもあった妻喜志子は、他人の言葉に軋みしつづ旅歩くのは命光る行為だと詠んでいる。牧水の旅を足踏した歌といえよう。

牧水の歌は平易に書かれているが、我々に訴えかける力を秘めている。浅間山を詠んだ歌にも、自然への畏怖と憧憬が見られ共感を呼ぶのである。牧水の歌についての我が断片的で取り留めのない認識を知ってか知らずか、浅間山は煙を噴き続けている。(平成12年10月6日歩く)

△コースタイム▽

車坂峠登山口(中コース1時間30分) 黒

斑山(表コース1時間30分) 車坂峠(40

分) 高峰山(30分) 車坂峠

△地形図▽2万5千1:1車坂峠





西穂への稜線から望む焼岳と乗鞍連峰

日には、笠ヶ岳はもちろん、雲海の間こうに白山・中央アルプス・南アルプス。甲斐駒ヶ岳の右に富士山。八ヶ岳連峰。さらには恵那山。そして何と能郷白山(たぶん?)まで見えたことがあった。近くにそびえ立つ奥穂高と前穂高は圧倒的な偉容を見せ、御嶽と乗鞍岳はあくまでも秀麗で、朝日を浴びて刻々と表情を変化させる焼岳の美しさは言葉にならない

ほどであった。

間もなく穂高でも折りのお花畑をもつ大斜面のガレ場に入り、前方には独標がそびえ立っている。岩稜歩きに変わり、クサリ付きの絶壁を登ると独標である。

夏にはハイキング客で独標は清員となり、ここから折り返す人が多い。が、さすがに秋は西穂まで進む人がほとんどだ。

独標からの道は、穂高の第一級の岩帯である。最初の一步がほとんど垂直に切れ落ちていく。岩にペンキの○印や↑印がなければ、ルートをとるとればよいのか迷うばかりだ。独標をくだってから、上高地側に垂直の断崖をもった小岩峰の稜線を歩く。圧倒的な高度感で、高所の苦手な人なら足がすくんでしまうかもしれない。

独標と西穂山頂との中間地点のピークをピラミッドピークと呼ぶ。よく山頂と間違えられるけれど、それだけに形もきれいで、見晴らしもよい。

このピラミッドピークまで達すると、背後に乗鞍岳と焼岳が灰青色に広がり、眼下には上高地が澄みわたる。険しい岩峰が幾重にも中空に浮かび、西穂のすば

らしい景観が展開して、だれもが穂高の岩稜歩きの独特の雰囲気と胸打たれる。「山の格が違う」と感嘆した人もいたし、新ハイメンバーの中には「夢を見ているようだ」と唸った人もいた。

山は高きをもって尊しとせず、低山といえども、一つ一つの山にはそれぞれの良さがあると私は考えており、山のランク付けには抵抗を感じるのだが、穂高の魅力は率直に認めざるを得ない。

8時15分、西穂山頂に立った。今まで見えなかった槍ヶ岳など、北アルプスの展望が一気に開ける。西穂山頂からの景観は筆舌に尽くし難い。大自然の厳粛なまでの美しさを見つめていると、心深くしみじみとした感動が広がってくる。

コーヒィを味わい、ゆっくりしていると、イワヒバリが目の前にやってきた。手に取れる距離で地面をホッピングし、餌を探している。彼らは人間を恐れないのだ。飛び廻るイワヒバリを眺めていた視界の隅に、突然、直下の岩壁から白い鳥が三羽舞い上がり、あっという間に谷底へと消えていった。

何だろうか? カッコいい鳥だ。鳩のよ

うな大きさが違っていただけ、わけがわからないうまま幻覚を見たような気分であった。

山頂で休息している人々は、ほとんどだれもが西穂で折り返すようだ。ここから先、奥穂への縦走路はアルプスで一、二を争うほどの難路と言われ、切り立つ岩稜帯と6時間程も格闘することになる。体力も要るし、精神力も必要だ。西穂山荘には「遭対竊」などのポスターが張られ、西穂から先がどんな世界か知っているのか、どんな所か承知で行くのか、などと強い調子の警告がなされていた。遭難が多いからだろうが、本当にどんな所か知らずに行く(安易に入り込む)登山者がいるとしたら、それはとても恐いことだ。

いつしか雲が出てパラパラと雨が降った。気がつくく、3人の若い男性パーティが奥穂へ向けて歩を進め、続いて単独行の重装備の若い男性も動き出した。少し天候が気がかりだ。彼らの後ろ姿を見送りながら「自分もまた再び挑むことがあるのだろうか」と、ぼんやり思った。

30分後に下山を開始。慎重に岩場をくぐる。イワヒバリがあちこちの岩峰で飛

び廻っている。

ピラミッドピークの手前で、レンズを私の方に向けてビデオカメラを廻している登山者がいた。私が途惑っているとき登山者はカメラを下げて「そこにライチョウがいますよ」と声をかけてくれた。岩峰を廻り込むと三羽のライチョウに遭遇。冬毛への衣替えの途中で白と茶褐色の斑模様姿だ。なかにほほほ、白の個体もある。私が大接近しても平気で、脚の爪の根元まで白毛がびっしり生えているのを確認。喜々として観察を続けていると、私の存在がうとましくなったのか、いきなり中空に飛び立った。

「そうか! ライチョウだったのか!」初めてライチョウの飛行を目撃し、私は大感激であった。翼を広げた姿はいかにも凛々とし、飛翔は颯爽としている。

「うあー! すごい!」私はすっかり興奮し、人目もはばからず歓声をあげていた。そんな私の歓声に反応するかのごとく、ライチョウはそれから岩峰のあちこちで姿を見せては、何度も宙に舞った。

ピラミッドピークを通過すると、今度は、岩峰の支稜線にある岩峰に一頭のカモシカを見つけた。「ええ! 一体どこ

から来たのだ」と唸ってしまった。何ともすごい険悪な岩壁を登ってきたようだ。

気がついた登山者は立ち止まり、カメラを向けている。一流クライマーをも凌ぐ脚を持つカモシカの動きに興味津津。どうするか、動き出すのを待ってみたが、なかなか動かないばかりか、とうとう坐り込んでしまった。

ライチョウにもカモシカにも心を残し、独標に戻って穂高の岩稜歩きは終わった。西穂山荘に戻ったのは10時半であった。

(平成12年10月14日〜15日歩く)

#### △参考タイム▽

- 【10月14日】新穂高ロープウェイ駐車場 13・00(ロープウェイ)千石平14・30
- 西穂山荘15・45(泊)
- 【10月15日】西穂山荘6・30
- 西穂高岳 独標7・10
- ピラミッドピーク7・35
- 西穂高岳8・15
- 独標9・45
- 西穂山荘10・30(昼食)
- 11・15
- 千石平12・10(ロープウェイ)
- ロープウェイ駐車場 13・10

△地図▽昭文社「上高地・槍・穂高」

永瀬八郎ルート

# 平家岳

内田嘉弘

## 越美国境

平家岳山頂にて、永瀬八郎氏



前日は雨のなか、傘をさしながら驚駭(おどろおどろ)岳に登り、冷えきった身体を「平成の湯」で温めたあと、九頭竜湖を渡り、夕方、荷暮の公民館に着いた。

荷暮の公民館で泊まることにしたのは、数年前に新聞記事で読んでいたからだ。この公民館を使用するときの連絡先は、現在浜松にお住まいの永瀬八郎さんと聞いて、手紙を出した。私たちは、面谷川から登る計画を立てていた。1996年の5月にこのルートから登っていたので、その旨、手紙にしたためた。

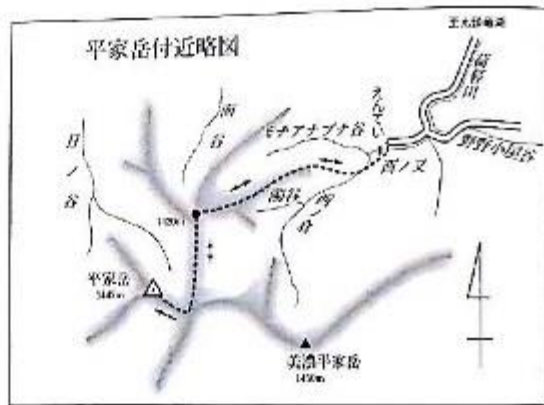
「どうぞ荷暮公民館は使ってください。ただし、あなた達が登られる面谷川からのルートは、今年はスズメバチが多いから避けられるほうがよい。代わりのルートとして、荷暮川をつめた二股からの尾根道を切り開いているから、それで登られたらいかがですか。もし、よろしければ、私がご案内致します」と親切な返事が返ってきた。私たちはそれに甘えることにした。

荷暮は三十数年前に廃村になったが、夏のシーズンだけの仮住まいらしい家屋が十数軒あって、電気も来ている。公民館は30畳程の板張りに台所とトイレがあった。座卓と座布団・台所用品・食器類も整っていた。夕食を始めるころ、永瀬さんが来られ、直径40センチの大鉢にイワナを入れ、燗をした日本酒をなみなみと注

ぎ、骨酒を振る舞ってくださった。当日、朝方まで降っていた雨は7時頃にはやみ、荷暮の里に朝日が差してきた。荷暮川沿いの林道を車を走らせている。野野小屋谷への林道を見送ると道は荒れてくる。前を走る仲間の車がパンク。予備のタイヤに付け替え、林道終点に駐車。

永瀬さんを先頭に出発。すぐ渡渉して右岸へ、寒峠がある。堰堤を過ぎ、モチアナブナ谷の出合の少し先で谷は南へ曲がった。その地点で渡渉して対岸(左岸)へ。杉林の杣道を登る。左の濁谷から吹き上げてくる冷やかな風が、急坂でほてった身体に心地よい。幹や灌木をつかみながらの急登もある。

1300メートルあたりで尾根に出ると植林から丈の低い植生に変わり、展望が開け



て平家岳が望める。足元にはリンドウが見られ、1420メートルのピーク(「ギョリ」という、永瀬氏談)にかけての斜面には70〜80センチのササに混じってコマツツジやイヌツゲが密生して登りづらい。シイズンには、このコマツツジの白い花とニッコウキスゲが一面に咲くという。11時30分、1420メートルの草地の斜面で昼食。

再びやぶに足を取られながら左斜めに被褥に掛け出ると、面谷からの道に合流、すぐに旧ヘリポートに出た。平家岳が右下から上がってくる日ノ谷左股線流にそびえている。ピークは近い。送電線の巡視路も兼ねている整備されたこの道は県境ピーク(1400メートル)の手前で美濃平家岳に向かっていく。それを見送って県境ピークに登り、日ノ谷左股線頭の鞍部にくだつて、最後の急坂をがんばって登ると、平家岳山頂(1442メートル)であった。360度の展望で能郷白山・屏風山・日永岳・荒島岳等が望めた。

下山して、林道終点から帰る途中、野野小屋谷出合の手前で今度は私の乗っている車がパンクした。野野小屋谷出合から奥は四輪駆動車で入るのが望ましい。(平成13年10月1日歩く)

### 参考タイム

荷暮公民館7・30(車)林道終点8・40  
1420メートルピーク11・30  
1451メートル平家岳  
12・30  
501メートルヘリポート13・25  
林道終点15・15(車)荷暮公民館16・00  
八地形図V2方5千1平家岳・越前朝日

## 山・旅・友―私が歩んだ道

石村陽正 著

A5判・二二〇〇円

著者の半世紀を越える山歴の中から、印象に残る登攀や、南米・ヒマラヤ・アルプス等の外国の山旅の記録。そしてかけがえない山友達への思いを綴る。

## 北摂の山(上) 東部編

慶次次盛一 著

四六判・二〇〇〇円

昔から三郷り、家族連れで親しまれてきた北摂の山々を写真・地図と共に案内。道標の有無や交通機関を示し、寺社や史跡等も紹介したハイキングガイド。

\*表示の価格は消費税を含みません

ナカニシヤ出版

京都市左京区吉田二本松町2  
075-751-1211 千606-8316



## 1等三角点のある

# 瀬戸内の小島と遍路寺

多摩雪雄

## 瀬戸内海

**因島公園**  
青、瀬戸内の水軍は、因島村上・能島村上・米島村上とあって、瀬戸内で帆別銭を徴収し、また朝鮮・中国・東南アジアにまで威を振るって倭寇の名をとどろかせていた。

現在、因島の南端土生町の天狗山は、全山因島公園となって整備されている。第三公園には水軍大将の銅像が東の弓削瀬戸を睨んで立ち、遊歩道はここで南の長崎と東の沖波に分かれる。

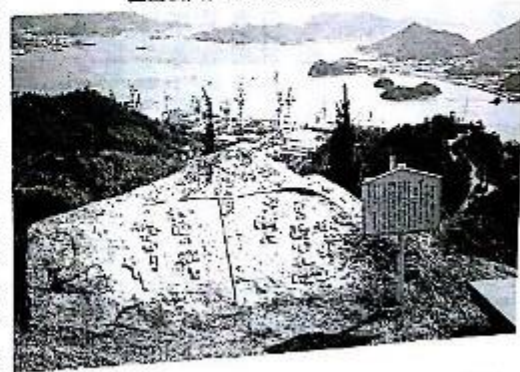
尾道からバス1時間、終点土生港に待機しているタクシー10分で、天狗山西の車道終点に着く。ここへは西の江ノ内から遊歩道があり、展望広場Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを

経て登ってきている。この小広場には山上公園の全貌が図解されている。天狗山の北腹を巻く道は、展望広場Ⅳを経て南を巡り一周している。

そこから見える島々を指呼して説明してくれる運転手と別れて、舗装路をゆっくりに10分、天狗山頂上には因島TV塔の裏手に207・5mの4等三角点が埋定してある。狭いながら広闊な展望が得られる。説明板によると、昭和十五年(紀元2500年)土生町民の奉仕によって整備され、同三十二年に瀬戸内海国立公園特別地域に指定された。

南中波の国民宿舎「因島ロッジ」に向かう稜線をジグザグにくだる道は「つれ

因島公園、吉井直歌碑と弓削瀬戸



しおの石がみ」として、歌人・俳人・文人等十九氏の文学碑が各氏の経歴を添えて設置してある。

頂上から南の下り口には、大師道と陰彫した自然石とロッジへ0・2キロとした指標もある。吉井勇は因島を多く詠んでいる。

船工場ある島なれば夕潮に  
異国の船も船がかりせり

島のほぼ中央、外浦町にある本因坊秀策の碑は彼の生家跡であり、この文学の道第二番目に碁盤の一部として展示されている。

酔うてもたれて正月の屏風 聖梧桐  
きぬぎぬやかすむ迄見る妹が家 一茶

村上水軍の戦旗を掲げた倭寇船は、大石に陽刻された見事なもので、ここで車道に出ると目前に立派なロッジを見る。その前面に因島八十八ヶ所の石仏に囲まれた嬉大師青銅像があり、傍らの大師堂に嬉大師(弘法大師)が安置してある。碑文を写すこと30分。

車道と分かれてロッジの西脇の道は、すぐ先のわずかな高みに、小字田観測地、の第三公園を見る。その前面から南にくだって行くと、孔雀明王を祭神とする大岩大神を拜し、眺望すぐれた遊園地風の第二・第一公園と過ぎる。高野山奥ノ院に出ると、真下に町家の瓦屋根が綿比して見える。ロッジより港までは40分だ。

△地形図V2万5千II備後土生

### 魚島へ

春一番の強風のため、町営船「ニューおしま」は一・二・三便共欠航した。風のおさまるのを期待して最後の四便10時32分発を待っている間にも、リーダーは港周辺の宿泊所に関い合わせだが、どこも1、2名分より空室がなく、23名が分宿する術はなかった。

本隊は、前夜東京駅発の「ムーンライトながら」で、大垣から普通列車に乗り継ぎの「青春18きっぷ」で尾道から因島に来島し、15時35分発の三便で魚島に渡る予定であった。

私ほか2、3名は新幹線で合流した。

魚島港前の観光センターは新築の鉄筋四階建てである。板さんがわれわれといっしょの四便で土生から来て腕を振るってくれた。

点名・伊沖ノ島1等三角点(169・85m)の紹介は、新ハイキング(関東・関西共)にはなく、「1等三角点研究会」の年報に三編あるだけである。いずれも登路不明で、猛烈なシノ竹の密生に悩まされている。その内の一編に、ただ一軒の宿が紹介してあるのみだったが、その

後に観光センターが開業したようだ。

翌朝、5時30分に宿前に集合。装備をととのえ、20分後に女将に見送られて出発した。

たいして寒くない海岸沿いの舗装路を西に向かう。漁に出る仕度中の女性に「こんな暗いのに」と声を掛けられるが、街灯が連続しているのでヘッドランプを点灯する者はいない。

大木集落から舗装路は徐々に高度を上げて東に向かう。宿からちょうど30分で、左下に鉄筋三階建ての大きな小中学校が見え、ガードレールの切れ目の右手山側に落ち葉に埋まった踏み跡を発見する。ここは地図上の△から南東へ160mの小コブから北東にくだる支線が、学校の建物記号から東西に150mの曲折点のわずかに北寄りに合した所である。

先行者3人共、密生したシノ竹をがむしゃらにこいでおり、平成五年の「点ノ記」にも「途中より怪なし」とあるが、幸運にも、ごく最近地理院の測量隊が入ったらしく、規指程もある密生シノを刈ってルート工作がしてあるので、労なく登頂できた。

(詳細)舗装路面よりわずかの間、樹木



のなかを急登してから支稜上をゆるやかに登ると、10分程で細いシノ竹密生中の切り開き道となる。なおも5分で作り小屋の脇を通

る。前方左下方に山畑が見える。そこより灌木の急登10分。北西より南東に連なる主稜に出て、太いシノ竹の切り開きをわずかくだて登ること10分、7時ジャストに魚島最高峰に着いた。地図上でもわかるとおり、小広い中央部は広く刈り払われ、標高杭も真新しい。1等三角点標石の南北面は18°、東西面は16・7°の変形ではあるが、取柄のないきれいな貌を見せていた。標石の磁北は60度。時に無風。高層雲10、高曇り。6℃。下り25分で登り口に出て、今度は東への道をたどると、地図上二分する道の手前にトラロープを張った急斜面がある。

これは山畑から出作り小屋へのルートである。

この上部舗装路の両側には、島人によってスイセンが植えられていて心なごむ思いであった。

三便に乗船すれば、その日のうちに「羅塚さん」と親しまれている亀居八幡から、城山の展望台に登ることができたのだが、二便に乗船予定だったので残念ながら割愛せざるを得ない。城山以外に魚島には山の固有名詞はないようである。

港から学校へのルートは民家の間をくねくねとたどらねばならぬので、往路には不向きである。この時、3人の先生と中学生女子2人、男子3人は周辺山城の落ち葉をかき集め、排水溝や路面の清掃活動をしていた。

8時に宿に帰着して朝食後、9時25分発の二便で比岐島をめざした。

△地形図V2万5千II魚島  
魚島観光センター  
0897(78)0015

#### 比岐島

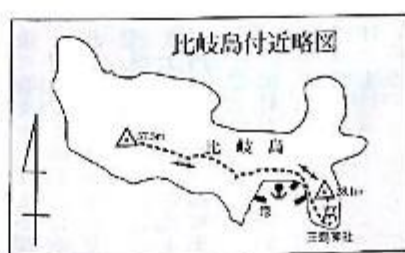
本島から見ると全くの離れ小島である

が、四国今治港からは9km、海上タクシー20分の近きである。

魚島からの町営船を引港港で芝子観光フェリーに乗り換え、今治港に11時25分着。昼食後、第一桟橋を12時20分に出た36人乗りのきれいな船は比岐島の飯後橋に着く。小型モーター船が五隻、湾内に繋留してあった。

港に面して十軒余の家屋があり、住人は7名だが、常住はわずかな菜園をもつ壮年夫妻とやはり壮年の男性2人だけで、ミカン栽培を生業としていた。

船中から見えていた西の高みの灯台に向かう狭い簡易舗装路をゆっくり登って行く。手が入ってない自然林と孟宗竹林とわずかな梅と神が目についた。



ちょうど、灯台の整備点検中で、内部に入ってくれた。垂直階段を登ることもOKであったが、時間がなく

辞退した。フェンス外の自然林のなかに、この島の最高点3等三角点57・53mを確認。当然取柄はない。港より15分。

港に戻って今度は東の1等三角点に向かう。小さな小学校(産校)の建物を見て、そのすぐ先の鳥居をくぐり、わずかに急登5分で三島神社に詣でる。明治天皇御夫妻の御真影を正面に、きれいに整理清掃されている。

神社裏手の高みに1等三角点比岐島(28・13m)が、シノ竹を刈り払ったなかに、ほんのわずかな殿礎はあるが18°の深い刻字を見せていた。磁北は100度。時に13時30分。微風。高層雲10、高曇り。12℃、暖かい。

新設の太陽光受光施設があり、港から10分。

△地形図V2万5千II今治東部

#### 道路二寺

今治駅で本隊と別れ、特急に乗り継いで志度町の富士屋旅館に投宿。鉄筋四階建ておすすめの宿。

翌朝、荷を預けて空身で西へ向かう。平賀源内旧宅は大改造中であつたが、遺品館でエレキテルや多数の文獻類他と銅

像を見たあと、多和神社を石段下で押して琴電八栗駅からタクシーで15分毎に発車するケーブル下駅へ。

昔の人は、五剣山岩根のわずかな平坦地にかくも豪華な寺院を建立したものと感心する。

八十五番八栗寺本殿右に大師堂、左に歓喜天と寺務所がある。南西平坦狭段は旅館・土産物・飲食店が立ち並び表参道で、ケーブル下駅前から「四国のみち」が登ってきている。また琴電八栗新道からケーブル八栗山上の本坊まで舗装車道が通じ、教台のタクシーが待機している。

奥ノ院から五剣山岩峰群の裾を一巡する行者道もあり、或いは岩稜伝いに女体山(2660・3m)へのルートもある。

琴電駅へくだって行くと、駅近くの源平合戦慰門跡に出る。

「安徳天皇を奉じた平氏は屋島の遺ノ浦行宮の出来るまで六万寺を行在として門を構えて海辺防備をした總門はその遺跡であり、当時この付近は海浜であった」と、どこか石碑が建っていた。

志度に戻って今度は東の八十六番志度寺へ。門前の白性院は志度寺の塔頭で、

植家に平賀氏もあり、源内の墓も門内右手にある。

志度寺庭園は五百年前曲水式地割の古い形式を備えた廻遊式池水庭園であり、昭和三十六年に室町初期の石組みを参考に復元された。この庭の隅に「お止の井戸」がある。講談で名高い田宮切太郎の乳母が水垢離をとって仇討ち本懐を祈念した跡である。

広大な寺域ゆえに建物の管理や庭の手入れが悪く残念だが、総門脇の五玉塔橋手に成子の長男、高浜年尾の

盆に来て海女をとむらふ心ありの大きな句碑がある。海女とは、藤原不比等が身分を隠して恋仲となつた女性で、不比等との間に房前を得る。海女は、龍神に奪われた不比等の秘玉を取り戻したが、負傷して真珠島で落命した。のち、房前は志度を訪れ、千葉の石塔を建てて母の冥福を祈った。

立派な海女の墓の脇には五輪の塔と経塚があり、それらは小広い一帯の中にある。

両寺共、観光バスや大勢の遍路者で賑わっていた。(平成13年3月初旬歩く) △地形図V2万5千II五剣山・志度

# 四万十川源流点

四国

## 生駒 聳 峰

2000年の秋、私の所属する「一等三角点研究会」の例会山行が、四国愛媛県の三本杭(滑床山)で行われた。当然関西からは日帰りできない距離なので、例会参加をかねて周辺の観光や山登りを計画し、車を走らせた。

行程は、山陽道で福山に行き、前年開通した「しまなみ海道」に入り、途中の島々を観光しながら今治から松山・大洲・宇和島経由で三本杭に至るコースである。

紅葉のシーズンでもあるので、例会後は面河溪から石鏡山にでも登ろうと計画した。実のところその時点では、四万十川のことなど考えてもいなかった。

平日のことでもあり、都市圏を離れて山陽道に入ると、車の数も少なく快適なドライブが楽しめた。福山インターで降り、西瀬戸自動車道に入る。四国の今治まで高速道路が接続していると思っていたが、山陽道からいったん一般道に出て、西瀬戸自動車道に入る。また瀬戸内の島の中でも、生口島・大島では一般道を利用していた。もちろんまだ今治は松山自動車道とはつながっていない。

次いで大三島の大山祇神社を見る。この宝物殿の国宝級の刀や鎧は見事で、一見の価値がある。日も傾いたので、今夜は大三島の道の駅「多々羅」に泊まる。ここは海辺の駅で、多々羅大橋の景観が素晴らしい。

二日目は大島に渡り、亀老山の展望台から瀬戸内の島々を眺める。眼下には来島大橋が長々と四国につながっている。

大橋を渡って四国に上陸する。後は松山・大洲と経由し、宇和島ではお城も見学。夕刻には集合場所の成川溪谷高月温泉に到着した。

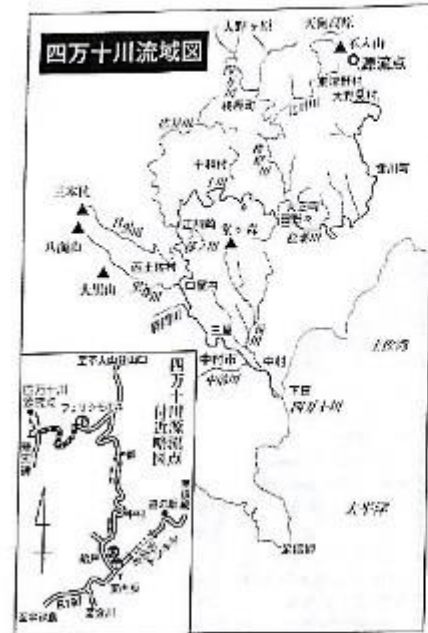
私たちの会は全国に会員が散らばっており、例会も春秋二回しかなく、久しぶりに会う人たちと旧交を温めた。翌日は滑床溪谷から三本杭に登る。一等三角点の山は、特に展望がすばらしかった。解散後、石鏡山を目指して地図を眺めると、宇和島は四国も西南の端。簡単には石鏡山に行けそうもない。ともかく

少しでも近づこうと、国道320号線を走った。しかし橋原町では西に傾いてきた。そこで橋原の道の駅を今夜の泊まり場にした。

翌日改めて地図を調べると、まだまだ石鏡山は遠い。ここからでは高知の方が近い、高知観光にしようかと妻と相談した。橋原から国道197号線を須崎に向かい、東津野村に入る。国道の所どころに「四万十川源流」の看板がやたらと目につく。

日本一の清流。ダムのない川として名を上げている四万十川の源流がこの村にあるらしい。それならば、この機会に源流点を見ようと思った。

高知県の西南部を流れる四万十川は四国第一の川で、西国カルスト台地近くの不入山(1336m)に源を発し、東津野村から大野見村、窪川町、十和村、西土佐村を経て中川市で



太平洋に注ぐ。窪川町あたりでは太平洋近くまで迫りながら再び山地に大きく蛇行している。河口から源流まで190km余り、主な支流は35、支流総数は345にも及ぶ。

ダムがなく、落差の少ない日本最後の清流と言われ、たくさんの魚類の生息することでも有名である。また沈下橋や伝統的な漁法が残り、洪水に見舞われることも多い暴れ川でもある。洪水が多いということは河川の新規代謝にもつながっている。

私たちが今回登った「三本杭」も、その支流の巨黒川の源流にあり、名勝の滑床溪谷を抱えている。

四万十という奇妙な、そして何か郷愁をそそるその響きは、多くの人たちの印象に残る。アイヌ語のシ・マムタ(たいへん美しい川の意)から名付けられたとか、また多くの支流を持つ意味との説があるようだ。

建設省の呼び名は渡川で、国土地理院の地形図には四万十川と二つの名が記されている。

東津野村の道の駅で道を尋ねてパンフレットをもらう。ここから車で15分位走

四万十川源流之碑





# 牧水のふるさと山の

## 尾鈴山

ふるさこの尾鈴の山のかなしきよ  
秋もかすみのたなびきてをり

牧水

とりたてて秀歌とも思えぬが、若山牧水が好きだし、牧水が泳むと何がなし叙情がありロマンが漂う。いつか一度は尾鈴山をこの目で眺めてみたい、できれば登ってみたいと思っていた。そして今回やっと念願を果たした。

山仲間が私の定年退職を待っていてくれたかのように車を改造し、中に二つのベッドをこしらえてくれた。これに寝泊まりし、九州の山々を登り歩こう。そしてミヤマキリシマを存分に見て廻ろう。一週間か二週間、期間は問わない。10万

## 紀平龍雄

### 南九州

円の予算、体力の続く限りの旅というところで出発した。

とりあえず湧蓋山(大分1500m)・傾山(大分1602m)・尾鈴山(宮崎1405m)・大窪柄山(高隈山・鹿児島1237m)・韓国岳(霧島・宮崎1700m)・開闢岳(鹿児島922m)・国見岳(熊本1738m)を登山予定とした。

出発の日は雨時どき曇り、大分の坎珠まで車を走らせた。夜中、うとうとするなかで雷を聞いた記憶がある。ホトトギスの鳴き声に目を覚ます。雨は止んでいるが、あいにくの曇天。急ぎよ予定を変更して霧島に足をのばし、韓国岳に登った。期待のミヤマキリシマはまだ三分咲

その向こうに太平洋が広がっている。声を呑んだ。煙草の煙が新緑に吸い込まれる。ただマムシには閉口した。

五日目が待望の尾鈴山である。4時起床、簡単に朝食を済ませ、5時過ぎに出発した。山また山を分け入り、これは車でないと来られそうにない。車はもちろん免許もない私は、彼に口には出さない感謝をした。

登山口に着いたのは6時半だった。曇り空で、それに時どき小雨もばらついてる。山麓の尾鈴神社の神城なのだろうが、人の手が入らない原生樹林がいい。とりわけ樹齢数百年だろうと思われる大



尾鈴山から尾鈴山歌碑  
山頂(一等三角点)も木立に  
視界はな

峰にわたって雲に下界は見えずなりの  
ただ親しきは星のまたたき  
(尾鈴に夜泊して) 牧水  
牧水が中学時代に尾鈴山に登ったときの歌が残されている。いちだんと牧水を親しく感じた。下山後、山を半周して車を東郷町坪谷へ走らせた。牧水の生地である。当時の生家がそのまま保存され、隣に記念館がある。

生家裏の山の中腹に大きな自然石があり、牧水は郷郷の都度、この岩にもたれて尾鈴山を眺めたという。ここに「ふるさと」の尾鈴の山」の歌が記念に彫られている。すぐ前を坪谷川が流れ、そしてその後方に「ふるさと」の尾鈴の山」がかぶさっている。数時間前にその頂に立った山を今度は下から眺め、館長に記念写真を撮ってもらった。出発前に読んだ本によれば、この短歌は曲がつけられ、東郷町の町歌になっているらしいが、これを聴かせてもらうのを忘れた。それでも充分に満足だった。

牧水の尾鈴の山のかなしきよ

今もほの聞くほととぎすの声

どうやら天気があやしく、九州は梅雨入りが近いらしい。予定の七山のうち、

き。霧のため眺望は全くきかない。しかし午後にはすっかり晴れ上がり、錦江湾を半周する間、左手に桜島が大きな姿を見せてくれる。四十年ぶりに見る桜島は今も堂々と、そしてのんびり坐っている。

そのかみの狂き煙の鏡まりて

やさしく坐れる桜島山

宮入に泊まり、次の日は開闢岳に登った。麓から見るといかにも気持よきそうに簡単に登れそうな山だが、火山特有の巨岩が多く少し難渋した。山頂からの眺めは太平洋が一望できて文句なし。下山後、長崎県からもう一度開闢岳を眺めた。海辺から立ち上がる山は標高以上に雄大で、二十七年間のサラリーマン生活の疲労がビリビリと離れていくのが自分でもわかる。古里温泉につかり、桜島に泊まった。不気味で荒々しかった溶岩の、大半がおおわれるほどに、樹木が成長していた。

四日目は大隅半島の大窪柄山。地理的な不便さのためだろう、扶暗の土曜日というのに一人の登山者にも出会わなかった。西に桜島と錦江湾、北に霧島連峰、東に志布志湾、そして南に連なる山々、

まだ四山しか達成していない。どうにか天気もつかもしれない六日目、いかにもきつそうな傾山と国見岳に登る体方は残されていない。これは次のお楽しみに残し、最後は湧蓋山で打ち止めということにした。

鹿児島の開闢岳と大窪柄山山頂からは海の眺望が楽しめたが、湧蓋山からは山また山。南東から西へ目を移すと左から湯布岳・九重連山・阿蘇の峰々、そしてはるか後方に祖母・傾山が広がっている。傾山以外ははずれもかつて頂上を踏んだ山で、そんな山を別の山から眺めるのは格別の感慨がある。快晴、この展望ではまことに去りがたい。五分咲きのミヤマキリシマが新緑のなかに点在するのも春らしい。

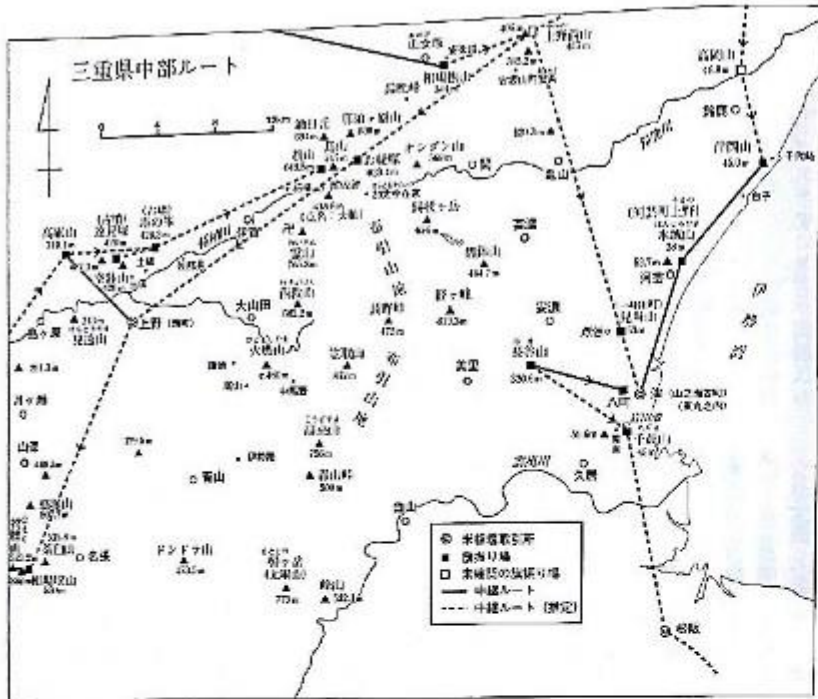
九州の山はそれぞれ個性があり、いい山が多い。それに下山後のご褒美に温泉がある。九州で五つ目の温泉、この日は湯湯温泉を楽しんだ。

途中もう一泊し、七日目に無事帰宅した。民宿に一泊した以外は車の中で寝たうえに、予定より早く帰ったので財布には一万円札がまだ四枚残っていた。

(平成13年5月23日〜29日歩)

# 三重県中部ルート

柴田昭彦



★大阪から桑名・津方面へ伝送する場合、京都市・滋賀県を経由して桑名へ、さらに四日市を経て、津へ伝えるルートが明治時代に盛んに用いられた。しかし、江戸時代から明治時代にかけては、大坂から生駒山系、大和を経て伊賀、伊勢、津・松坂へ通信するルートが存在していたようである。残念なことに、あまり資料が残っておらず、そのルートを解明した文献は皆無に等しい。しかも、桑名の米相場の影響が大きくなった明治前期ごろには、その相場を伝えるため、伊賀を経て、大阪へ通信する別のルートが設けられたと推測される。従って、通信ルートが交錯していて、わかりにくい状況にあるが、これらのルートを探ってみたいと思う。

【桑名から津へのルート】

★植柳雪湖「信号通報の歴史」(『民族』第二巻、昭和二年一月)には「東は京都、近江、桑名、四日市を経て阿野津に達してある」とあり、桑名から四日市經由、津(阿野津)への通信ルートがわかる。

★吉津顯二編「白子郷十史後編」(昭和35年)によると、明治の中頃から、桑名の米相場を、「朝日(三重郡)」、日永、高岡山(河野郡)、岸岡山、上野の山(松坂郡)、津の順に旗振りで知らせたと

在したのかも

しれない。

★『鈴鹿市史 第三巻』(平成元年)によると、「伊勢の米相場は、桑名・四日市・津・山田などの米市場で行われ、大坂堂島を中心とした米相場とも連絡していた」という。従って、松坂米穀取引所(明治27〜37年開設)や山田米穀取引所(明治27〜30年開設)でも、旗振り通信が行われたようである。

「通信協会雑誌」(大正3年

う。

●朝日と日永の中継所については前回は述べた。筆者は朝日町内のポイントが91・0分二角点ではないかと推定していた。ところが、朝日町歴史博物館の浅川充弘氏からの平成13年7月6日付の返信によって、朝日町内のポイントが明らかとなり、筆者の推定は誤りであることが判明した。浅川氏によると、町内のかなり高嶺の方(昔、農家に開闢していた人)に旗振り通信について尋ねたところ、ご存じであって、大字織生にある天神山(面代神社の北側の裏山、標高40分余)と大字埋籠にある八幡山が旗振り山であったという。八幡山は現在では毛地化されて残っていないが、善照寺の南東150分のあたりだという。中継ルートについては明らかでない。立地から考えると、桑名取引所と天神山は連絡でき、天神山から日永中継所(豊城山)へ伝送されたのである。天神山から八幡山および養生中継所へは連絡できないが、八幡山から養生中継所への見通しはきく。従って、桑名取引所と養生中継所をどうやって連絡したのかは謎のままということになる。また、知られざる中継ポイントが存

2月号)の記事の中の旗振り通信の行われた場所のリストに、松阪と山田の地名が見えることから裏付けられる。松阪市と伊勢市の教育委員会に問い合わせたが、資料が見当たらないとのことであった。なお、取引所の設立年と消滅年については、上林正矩「商品取引所の知識」(中央経済社、昭和29年)に詳しい。『桑名市史』(昭和34年)には三重県内の取引所一覧がある。

●高岡山(鈴鹿市) 中継所は、鈴鹿川の北側、高岡町の高岡神社のある山で、高岡山の南側になる。46・8分三角点がある。旗振りが行われたのは頂上であろうか。

●岸岡山(鈴鹿市) 中継所は、岸岡町にある45・0分三角点のある山である。前方後円墳(岸岡山二号墳)があり、旗振り山(一名、旗山)である。もとは、高い一本松があって、漁夫が海上から見当をつけるよい目標であったという。織の子代崎では、明治中期から館善次郎という人が旗振りを行ったという。その真鍮製の遠眼鏡(全長48センチ)は、のちに買い取られ、浜中家に所蔵されている(鈴鹿市史第三巻)。角川地名大辞典にも、旗





旗山頂上付近の鉄塔からの展望  
(左が錫杖ヶ岳、中央に標山が見える)

塔から布引山地の山々を展望して、「錫杖ヶ岳」「標山」「笠取山東方1kmの鉄塔付近」が中継地点の候補地となることを確かめた。今のところ、標山での旗振り伝承は確認できていない。だから、地元の古老に聞き取りをして、布引山地の旗振り中継地点を明らかにしてくれないものだろうか。

●旗山中継所は伊賀町柘植の東方にそび

え、鴉山池の北にある山(油日岳の南方の649・533三角点)である。伊賀町教育委員会によると、米相場の旗振り場であったという。鴉山というのは山名でなく地名であり、鴉山池や旗山付近を指しているという。その東方の7177峰は、山口温天・山口昭共著『鈴鹿の山』(山と溪谷社、昭和41年)には烏山と記載されている。ヤマケイアルペンガイド22『鈴鹿・美濃』や『マイカー登山ベストコース』『名古屋周辺』(山と溪谷社)には小平山とあるが、実際に登ってみると、頂上には「こべらやま」という読み方も示されている。西尾寿一氏は旗山の別称に柘植で採取された「コベラ」を示しており、これが烏山の方に流用されているようである。

★旗山の呼称は富本時次郎編纂『帝國地名大辞典』(明治35年)の山谷の項目(二五六頁)にすでに見られ、鈴鹿のガイド・地図にも記載が見られる。西尾寿一『鈴鹿の山と谷6』(ナカニシヤ出版、平成4年)では「合戦の時に物見が旗を振っていたのであろうか」と想像しており、本誌50号の記事もこれにならっているが、一般には由来が全く知られていないことがわ

かる。西山秀大編『続・ひと味違う名古屋からの山旅』(全賢出版、平成7年)や西内正弘『鈴鹿の山ハイキング』(私家版、本誌50号参照)にも旗山のガイドがあるが、山名の由来にはふれていない。

★筆者は、『京阪神近郊ハイキングすいせん100コース』(日本交通公社関西支社、昭和28年)の柘植駅周辺をめぐる「余野・メリーカントリーコース」の案内の中に次のような記述を発見したので紹介しておこう。「北に進むとすぐ右手に旗山が望まれる。通信設備の幼稚な時代、大阪の米相場を伊勢各地へ伝えるため、山頂から山頂へ旗章によつて送信したもので、この山もそれにより旗山の名がある。」残念なことに、前後の旗振り場の位置に関する情報は得られない。

●塔の案中継所は、上野市十橋の北方にある426・333三角点の山頂で、古墳がある。ここが中継点であることは、上野市教育委員会事務局文化課文化財係、山崎肇子氏の指示によつたものである(上野市の文化財専門委員の山本さんが山崎氏に教えた話に基づく)。なお、伊賀町教委からの返信ハガキには、旗山の西方の通信地点は、「佐那具の山か?」とある

史(1)とある。

★青谷山(勢州)の位置はよくわかっていないが、千歳山の西方に青谷の地名を見つけることができる。今は半田という町名だが、バス停名に青谷口と青谷がある。二重池の北に、59・633三角点があるが、ここは青谷山ではないようである。岩田池は津市丸山字百谷にある(角川地名大辞典)。津市教育委員会事務局文化課の松尾篤氏によれば、江戸期の絵図に「青谷山」はないが、「青谷池」はあり、岩田池に同定できるという。つまり、千歳山が青谷山である可能性がある。林英夫氏は、はじめ青谷山を長谷山の書き誤りと思われるようだが、のちに、青谷の地名に注目され、筆者に知らせてくださった。

●長谷山(津市・安濃町・美里村)は、標高320・637の山である。「津市史第二巻」(昭和35年)には「堂島の相場をくらがり峠にてうつし夫より大和伊賀の山々へ取りつまり本郡長谷山にて行ふを八町の某家へ取ると云ふ」とある。大和伊賀の山々をどのように中継して長谷山に連絡したのかは不明であるが、「併著職業界」に布引山とあるので、布引山地の可

能性が高い。

★伊賀の布引山地といえば、笠取山(842・433)の南東から高坐山(高坐山、756・033、本誌35号参照)を経て、青山峠にかけての布引(青山)高座をいうが、大山田村教育委員会の坂本氏によると、村域では旗振りの伝承は確認できないとのことであった。ただ、大山田村指定文化財「地誌取調上申書」(明治16年)の「伊賀国田郡出後村」には、「火燃山」があり、坂本氏によると「雨乞いをして山をのぼるのですが、その昔はのろしを上げたりしていたという話もあります」とのことであった。出後の南、広瀬の西の山(450・803)であろう。

★津市教委の松尾氏は布引山地の笠取山を旗振りの候補地とするが、伝承は確認できていない。一方、美里村教育委員会の谷口竜二郎氏によると、「地元の美里村史編集委員さんに聞いてみたところ、『そのような話は聞いたことがない。笠取山の標高や、頂上での風の強さを考えると、旗を視認できたかどうか疑問である』とのことでした」という。

★筆者は、布引山地に属する、錫杖ヶ岳

(6777峰)、高坐山、鴉ヶ岳(元取山、779・033)の可能性も考えてみたが、青山町教育委員会では、旗振り伝承については把握していないといひ、安濃町・白山町にも問い合わせたが返信はなく、おそらく、資料がないものと思われる。関町では、お経塚での旗振り伝承のみで、錫杖ヶ岳付近での伝承はないようだ。

★長谷山と旗山(伊賀町)は同一の中継ルートのポイントと考えられるが、その両方を見通せる中継地点を示す文献が見当たらない。地形図から読み取ってみると、標高600以上のある布引山地の大平(笠取山を含む)が不適と判断され、錫杖ヶ岳が候補として可能な地点と思われるが、どうも割り切れないものを感じていた。

★筆者は、平成13年3月14日に古書店から入手した「養老・鈴鹿・青山高原」(エアリアマップ35、東海自然歩道4、昭文社、1976年)を見ていて、布引山地の東にある経ヶ峰の北東に位置する摺鉢山(464・733)が条件にぴったりな山であることに気がついた。筆者は、平成13年5月4日に旗山に登り、頂上直下の鉄





お経塚（経塚山）の山頂

【桑名から大阪へのルート】  
 ●お経塚中継所は、関町加太地区にある山（那須ヶ原山の南方の623・4が三角点）である。中島②によれば、関町教育委員会の聞き取り調査で、加太の在家（論文に中在寺とあるのは誤植）の人が、お経塚の上で旗振りをしていったといひ、東の御足山から送られてきた名古屋からの米相場を望遠鏡で受けて、柘植の<sup>（お経塚）</sup>山へ送り、柘植から生駒山へ送られて大阪へ届いたという。坂森政太郎さん（明治35年生まれ、昭和35年没）の先々代だといひ、中島氏はこの地点を関西本線加太トンネル南方の418・6が三角点（点名「大和」と推定していた。北北東に大和池がある。近鉄資料室（上本町）で、関町小字図（鈴鹿関町支店）昭和39年、所収を調べてみたところ、623・4が三角点「御経塚」となっていた。旗山とお経塚は近い位置にあるが相互に通信できず、独立した通信ルートであることを証明しているように思われる。

★伊賀町教育委員会に問い合わせたところ、伊賀町内の「経塚」という地名は鴉山池の南西にあるが、山麓に位置している。通信できる地点ではないといひ。

★西尾孝一「鈴鹿の山と谷」(ナカニシヤ出版、平成4年)で「お経塚」を調べてみると、623がの山(経塚山)を指して「御経山」の俗名を持ち、少し気取って「御経塚」とも呼ばれているとある。山頂やや向に経塚があるのが山名の由来といひ、写真も掲載してある。仏ヶ平(オシダケ山、569g)も経塚山と呼ばれる

ころ、京阪地方の米相場をいち早く知る手段として、手旗信号が用いられていた。(中略)上野に一番近い信号所は、高旗山であった。高旗山の北の合図を、取引所の梅の上から観望して見て、相場の変動に対処していた」とある。筆者は平成13年5月6日に御寄時から高旗山の山頂を訪れた。内田「京都滋賀南部の山」にあるとおりのルートである。頂上直下で南方の展望がよい。頂上では塔の峯が見えたが、旗山はかすんでしまい確認できなかった。

★高旗山でどこから信号を受け取ったかは明らかではない。筆者は、天保13年(1842)の資料にある笠置山が鍵ではないかと見て、調査を進めた。その結果は、次回以降に述べることにしたい。

★近藤論文に「観音寺山より田川山を経て伊賀上野に至るもの」とあるが、山名や位置関係が奇妙で、こんな遠回りのルートが存在したとは思えない。「大津、田上山(大神山)、高旗山、伊賀上野」というルートは想定できるが裏付けはない。中島伸男氏によると、上田上での旗振り伝承はないという。ただし、太神山については資料もなく不明である。

が、お経塚とは呼ばれておらず、中在家からはかなり東方になる。一方、418がの山には、山名は記録されていない。

★お経塚(623・4)から、野登山の南東に位置する上野西山(筆者の仮称、旗振り場と推定)への見通しはきく立地にある。坂森さんの話では、雲山へ送ったというが、雲山寺に照会しても旗振りの伝承が残っていないという(中島②)。筆者は、お経塚は、桑名から大阪方面への中継地点の一つと考える。そして、伊賀上野の取引所方面に直接、通信できる立地であり、その方向に送った場合、雲山の右側に通信する形になり、証言との矛盾が少なくなる。奈良原山辺郡室生村の相塚取山(次回に紹介する)は奈良・上野間の通信取次きをなしたといひ、しかも通信方向からいうと、雲山の山頂を乗り越えた向こう側にびたり位置していることは興味深い。

★筆者は平成13年5月5日にお経塚(経塚山)に登った。加太駅から西へ1時間丁度R線をくぐってすぐ、登山口の北在家中津川林道に入る。最初の分岐で右をとり(まっすぐ左をとると地形図の道だが途中で消える)、ほどなく右に登り口

が、担当者の個人的見解である旨が書き添えてあった。塔の峯は、佐那具の北西に位置しているので矛盾しないと考えられる。なお、旗山から高旗山はよく見えており、相互に見通しがきくので、塔の峯を経ずに直接、通信した可能性もある。塔の峯は分枝コースであったのかも知れない。

●遊見家(上野市三田)については、「角川地名大辞典(三重県)」の上野市三田の解説に「空鉢山には米の相場を知らせたという遊見家がある」とあり、山崎氏が聞き取りをした方の話からも、旗振り地点だったのではないかと。高旗山とは、直接通信できる立地にはなく、むしろ塔の峯と通信できる立地である。

★遊見家古蹟と呼ばれる方墳がある地点は、上野市野間の北方、376・2が三角点の北北西500gである。池ヶ谷池(池の谷池、野間の北方)の西南西300gの小尾根上に位置している(標高420g)。明治期には遊見家周辺は茶畑であったといひ。上野盆地が一望でき、何らかの連絡(たぶん、相塚の連絡)場として用いられたという。空鉢山は常住寺の山号で、空鉢寺ともいひ、池ヶ谷池の南40

0gにその廃寺址がある。遊見家の位置については、山崎氏にいただいた、市田進一「遊見塚古蹟」(伊賀盆地研究会会報NO.14、1980年11月1日)に詳しい。

★筆者は、平成13年5月6日、上野市東高倉(東出)から北へ東高倉川の東側に沿う道をたどり、分岐で右をとって、尾根伝いの林道(地形図に記載されていない)に入り、送電線を過ぎてすぐ(石標が現れたら行き過ぎなので引き返す)、戻るように右の巡視路に入り、二つ目の鉄塔から谷をはさんで北に遊見塚を眺めてみた。付近で東に塔の峯が見えていた。古蹟の切石を見るには北方から尾根を下する方法しか考えられないが、獣道しか期待できないようなので、断念した。

★上野市西方、鳥ヶ原村境に近い、三軒家の北に国有林、見遠山(313・0g)がある。見当・遠見を連想させ、物見・旗振りとの関連を感じさせるのだが、何かの目印となった山なのであろうか。資料は全く不明である。

●高旗山中継所は、信楽町・上野市境にあり、山頂(710・1g)付近と思われる(中島②)。「上野市史(昭和36年)」に、「明治初年、西町に米穀取引所があった

ころ、京阪地方の米相場をいち早く知る手段として、手旗信号が用いられていた。(中略)上野に一番近い信号所は、高旗山であった。高旗山の北の合図を、取引所の梅の上から観望して見て、相場の変動に対処していた」とある。筆者は平成13年5月6日に御寄時から高旗山の山頂を訪れた。内田「京都滋賀南部の山」にあるとおりのルートである。頂上直下で南方の展望がよい。頂上では塔の峯が見えたが、旗山はかすんでしまい確認できなかった。

★高旗山でどこから信号を受け取ったかは明らかではない。筆者は、天保13年(1842)の資料にある笠置山が鍵ではないかと見て、調査を進めた。その結果は、次回以降に述べることにしたい。

★近藤論文に「観音寺山より田川山を経て伊賀上野に至るもの」とあるが、山名や位置関係が奇妙で、こんな遠回りのルートが存在したとは思えない。「大津、田上山(大神山)、高旗山、伊賀上野」というルートは想定できるが裏付けはない。中島伸男氏によると、上田上での旗振り伝承はないという。ただし、太神山については資料もなく不明である。

## 紅葉まっさかりの秋山へ出かけよう!

<b>一足早く紅葉を求めて北海道へ</b>	
<b>大雪山縦走と愛山溪 4日間</b>	期間 9/13(木)~16(日) 代金129,000円
<b>羊蹄山・ニセコアンヌプリ・樽前山</b>	期間 9/28(金)~30(日) 代金89,000円
<b>7十が美しい東北の紅葉</b>	
<b>岩手山と八幡平</b>	期間 9/14(金)~16(日) 代金99,000円
<b>八幡平大縦走</b>	期間 10/13(土)~14(日) 代金79,000円
<b>ランプの宿 乳頭温泉</b>	
<b>秋田駒ヶ岳・栗駒山・焼石岳</b>	期間 10/11(木)~14(日) 代金109,000円
<b>白神岳・岩木山・八甲田山</b>	期間 10/3(水)~6(土) 代金112,000円
<b>吾妻連峰大縦走</b>	期間 10/19(金)~21(日) 代金89,000円
<b>安達太良山・磐梯山・吾妻山 4日間</b>	出発日 10/6(土), 10/12(金) 代金112,000円
<b>絶好おすすり上信越の山</b>	
<b>日光白根山・男体山・皇海山</b>	期間 10/6(土)~9(日) 代金96,000円
<b>高妻山・火打山・妙高山</b>	期間 9/29(土)~10月2(日) 代金99,000円
<b>谷川岳と上州武尊山</b>	期間 9/28(金)~30(日) 代金84,000円
<b>荒船山と妙義山中間道</b>	期間 10/26(金)~28(日) 代金68,000円
<b>甲武信ヶ岳・金峰山・瑞穂山</b>	期間 10/18(木)~21(日) 代金73,000円
<b>尾瀬・燧ヶ岳と会津駒ヶ岳</b>	期間 9/28(金)~30(日) 代金84,000円
<b>尾瀬 至仏山と燧ヶ岳</b>	期間 10/7(日)~9(火) 代金87,000円
<b>ゆったり尾瀬 至仏山・燧ヶ岳・赤城山</b>	期間 10/4(木)~7(日) 代金89,000円
<b>荒船山と妙義山中間道</b>	期間 10/26(金)~28(日) 代金68,000円

~~~~日帰りから海外までの総合カタログがあります。ご請求下さい。(送料無料)~~~~  
お問い合わせ・お申し込みは、国土交通大臣登録旅行業第1366号(社)日本旅行業協会 ボンド保証会員

## 紅葉の美しい山々へ!

|                          |                               |
|--------------------------|-------------------------------|
| <b>紅葉の仙人池~標平縦走</b>       | 期間 10/12(金)~15(日) 代金73,000円   |
| <b>黒部峡谷 下の廊下</b>         | 期間 10/20(日)~22(月) 代金73,000円   |
| <b>白馬三山縦走と麓温泉</b>        | 期間 9/21(金)~24(月・祝) 代金67,000円  |
| <b>霧岳~常念岳縦走</b>          | 期間 9/27(木)~30(日) 代金69,000円    |
| <b>紅葉の橋沢・氷河公園をゆったり歩く</b> | 期間 10/5(金)~7(日) 代金84,000円     |
| <b>紅葉の酒沢カールをゆったり歩く</b>   | 期間 10/5(金)~8(日) 代金72,000円     |
| <b>風洞三山縦走</b>            | 期間 10/12(金)~14(日) 代金63,000円   |
| <b>木曾駒ヶ岳~空木岳</b>         | 期間 10/5(金)~7(日) 代金89,000円     |
| <b>北八ヶ岳縦走</b>            | 期間 10/25(木)~28(日) 代金69,000円   |
| <b>大峰山縦走</b>             | 期間 10/19(金)~21(日) 代金52,000円   |
| <b>フェリーで行く紅葉の石鏡山</b>     | 期間 10/19(金)~21(日) 代金17,800円   |
| <b>阿蘇山・祖母山・久住山</b>       | 期間 11/23(金・祝)~25(日) 代金82,000円 |
| <b>宮之浦岳~縄文杉縦走</b>        | 期間 10/25(木)~28(日) 代金130,000円  |
| <b>どっぴり屋久島大縦走</b>        | 期間 11/15(木)~18(日) 代金130,000円  |

**ベストシーズン トレッキング**

|                                                |                                                   |
|------------------------------------------------|---------------------------------------------------|
| <b>ロッジ泊で歩く ヒマラヤ大展望<br/>アーンヒルトレッキング 9日間</b>     | 出発日 10/23(火), 11/4(日), 11/11(日)<br>旅行代金282,000円より |
| <b>ホテル シャンボチェバ/ラマ泊<br/>エベレスト展望トレック 9日間</b>     | 出発日 10/23(火), 11/4(日), 11/11(日)<br>旅行代金305,000円より |
| <b>ロッジ泊で歩く 世界で最も美しい谷<br/>ランタン谷ヘリトレッキング 9日間</b> | 期間 11/11(日)~19(日) 旅行代金348,000円                    |

がある。尾根伝いに送電線巡視路をたどる。急坂を登り、地形図の403峰ピークを乗り越えて、北西へひたすら赤テープとビニールひもに導かれて楡林の急斜面をよじ登る。平坦な尾根に出て倒木の多いなかにイワカガミを見つけた。再び急登し、登山口から1時間20分で展望のない山頂に着く。西にくだると、下は原石山(保石尾)で展望がある。南にくだると山名の由来となった経塚があるが、その先の地形図にある道はたどれない。北尾根の道は雰囲気がいかがやぶとなる。登りに用いた道を引き返したが、楡林のなかの急降下の際、目印のテープを見失い、右よりに真南へくだって尾根伝いの踏み跡をたどると、丸太の渡しである所に出た。左側で流れが合流している。明瞭な道をつたって板橋を渡り、巡視路の登り口に戻った。所要1時間。目印がないのでわかりにくいのが、こちらの道を登りに使うほうが403峰ピークをわざわざ乗り越える必要がないのでよいかもれない。人工林に閉ざされて展望がなく、樹間から透かしても見通しが悪く、上野西山や上野盆地は隠れてしまっていたが、頂上が開けていた時には、両方向が見通

せるという立地条件の確認ができた。  
★上野西山(417峰)については前回に紹介した。旗振り場であるかどうかは不明であり、野登山の東側の支峰(燧ヶ岳、710峰)付近の可能性も捨て切れないが、標高や見通しを考えると、417峰に心は傾く。この山は、「2500分の1鈴鹿都市計画図(用途図)20」(平成10年測量)では標高426・2峰となっていた。筆者は平成13年5月1日に現地調査を行った。地形図にある東麓の登山口(道は南西方向に向かう)は間違いで道は存在せず、その東隣の南に向かう林道に入り、すぐ右折して中部電力の69番鉄塔への標識に従って登る。あとはほぼ地形図の山道とおりだが、ニカ所でピークの左側を捲いている。三方向に踏み跡が分かれる所では、真ん中の道をやや左手寄りにたどり、草を分けて不明瞭な踏み跡を経て、尾根伝いに進むとよい。道中は杉・楡林が続く、山頂だけがササにおおわれた小丘である。山頂では、西から北にかけて少し開けているが、東側は樹林が遮っている。当日は曇りがちで、県境の相場狼山の姿は確認できなかったが、見晴らしが良ければ西の尾根筋の

ピーク(406峰)のかなたに見えるはずである。東方の展望は最初の鉄塔で開けており、四日市の平野部がはっきりと見えた。旗振り場としての条件は満たしていると思われた。西庄内町の古老への聞き取り調査が行われて、旗振り地点が明確になることを願うものである。なお、西尾氏は「鈴鹿の山と谷」の8頁の地図で、417峰のすぐ西隣の406峰に相当する地点に「諸鹿」の地名を当てている。これを上野西山(筆者の坂巻の代わりに使うべきかもしれない。★筆者は、桑名に取引所ができた明治10年以降、その米相場の影響が大きくなる、桑名、垂坂山、上野西山、お経塚、伊賀上野、相場取山を経て、生駒山系から大阪へと伝えるルートが開発されたものと考える。詳細は、次回の奈良県内ルートで紹介しよう。  
★三重県内については送が多い。お気づきのことがあれば、筆者まで連絡ください。ければ幸いです。  
(平城13年5月22日成稿)  
(平成13年7月12日追補)

連載

三角点を訪ねて ⑫

# 紅葉尾から不老堂を経て水木野へ

鈴鹿

磯部 純

紅葉尾から東を見ると、茶屋川と神崎川に挟まれた所にひとときわ高くそびえ立つピークがある。不老堂と呼ばれる山である。さらにその後ろには不老堂より高く、鋭角に天を指している無名峰。Ca 930が連なっている。水木野の三角点は、この無名峰を東にくだった所に置かれている。

この三角点のことは以前から気になっていたのだが、西側から登る場合にはこの二つの山を越えて行かなくてはならない。また、東側からは、その地形の複雑さから簡単に行き着けるとは考えられず、登るのをのびのびにしていた。



不老堂・水木野付近略図

を立てて風が吹いていて、真冬のように寒さが身にしみる。とにかく登えがきて、身体が冷えぬうちにとすぐ出発した。のったその尾根には踏み跡が通っていて、どこから登ってきたものか、茶屋川のテーパーや赤のテーパーがぶら下がっていた。歩き出ししても、よほど冷え込みがキツイのか、なかなか身体があたたまらない。おまけに吐く息も白くなるほどで、ついきのうまで「暑い、暑い」と言っていたの

がうそみたいな寒さだった。登るにつれて杉の木がなくなり、自然林へと変わってゆく。やがて急斜面がゆるむと、馬酔木の木が目立ち始め、不老堂(845m)山頂へ到着。1時間25分の登りだった。山頂はミズナラやコナラの林で、馬酔木が境界を走り、下界を望むことはできなかった。わずかに木の間から見えるのは黒々とそびえ立つCa 930のピークだけ。この不老堂山頂から少し北へくだった所に、「塔の岩」と呼ばれる花崗岩があると聞いていたが、寒過ぎてそこまで往復する気にはなれず、ひと息入れたあと、すぐCa 930峰へ向け出発した。

細い尾根をくだって行くと、北方の木の間から御池岳・天狗堂が姿を見せてくれ、時折、密ヶ岳や静ヶ岳も顔を覗かせてくれた。1000峰ほどくだった小さなピークへ登ると、今度は南方の鎌子ヶ口連山を垣間見ることができた。この小ピークにはめずらしくも大きなモミが数本立っていた。

小ピークをくだり、再び急斜面を登る。たった標高差200峰程だったが、気が遠くなるほど高く感じる。「いく、登っ



紅葉尾から見る不老堂

少なくなつた。最近、この山を訪れた大津の彼から「水木野へは簡単に登れる」と聞き、あわよくば八風峠まで縦走する意気込みで出かけたのだったが……。メンバーは4ヶ月ぶりに歩く保田君とで3人。神崎川橋広場へ8時過ぎに到着。最近もの忘れが進んだのか、ストックを車に忘れて取りに戻る一帯もあって、出発できたのは8時20分。キャンプ場のトイレ脇から尾根に取りつく。

備歩きのない急斜面の登りは身体が馴れるまでが大変で、やっと足の痛みがとれたなと思うころ、額からは大粒の汗がしったり落ちてくる。右からの尾根にぶつかるところで二回目の休憩。まだ250峰程しか高度を稼いでいないのに身体が動かない。2人からは「ここが身体が悪いんじゃない」「検診に行ったら」と冷やかされる。この日は昔

でも頂上に着かないなあ」と思い始めたころ、傾斜がゆるくなり、やっと石楠花に囲まれたこの日の最高峰Ca 930峰の山頂へと到着した。展望は全くない。先程まで音を立てて吹いていた風も、密生した石楠花の木々に遮られ、無風状態で寒さは感じない。ただ、秋の日差しだけが暖かく降り注いでいるだけだった。

ピークを東へくぐると、杉植林の斜面に一変する。尾根を北へ振り再び東へ向かうと、若い櫟林の小高い所に紅白のポールが立っていた。水木野三角点(888.7m)である。先程の最高峰に三角点が設置されているが、もっと多くの人が訪れるのだろうか、何の変哲もない峰の肩では三角点マニアか、物好きしか訪れないにちがいない。

三角点はちょうど北東向き。きれいな三角点で、頭に真新しい紅白のポールを被っていた。近くの木には「割山」と標誌が下がっていたが、「水木野」と書かれたものはない。西尾さんによれば、「割山」は最近地図に使われ出した名称で、紅葉尾・黄和田地区ではないずれも「水木野」と呼んでいるとのこと。ただ、水木野という名称は山頂の名称ではなく



水木野三角点

このあたりの平坦な地を指していたことから、転じて山の名になったのだという。

すぐそばの檜林の日だまりで昼食とする。風はおさまったとはいうものの、寒さは相変わらず厳しい。山での食事も握り飯だけでは味気なく、温かいラーメンや味噌汁が恋しくなる季節になってきたようだ。すぐそばの雑木林はまだ秋の終わりを告げる紅葉は先のように、紅や黄色に彩られた葉は全く見ることができなかった。

下山路は三角点から東へ向かい、尾根越しに八風谷からカシコラ谷へ越える袖

た。古くは林業の人が入っていたものの、最近では全く用がなくなってしまうのだらう。

再びトラバースを続け右手の尾根のり、尾根の切れた所から左岸へ渡ると、今度は間道いなく立派な道が現れた。その谷道をくだると八風谷道への林道の道標のある所へ飛び出したのだ。

やはり予想どおり、尾根の一つ西の谷をくだっていたのである。地形図を見て、相当地形が入り組んでいるとは思ったが、地形図で読んだ以上に実際の地形は入り組んでいた。右へ折れるのを一つ進んだだけでこんな所へ出てしまうとは……。まだまだ地区の読み方が甘過ぎると、つくづく思い知らされた一幕だった。

登る前には一顧調だった八風峠まで探走する。なんて考えていたが、とんでもない話。そんな考えは谷へおり始めた時に頭から消え失せてしまった。

改めて林道におり立ったことで、いつの日にか水木野三角点を訪れるチャンスがあれば、スマイパノ谷の峠から水木野へ登り、どこでルートを開通したのかをしっかりと確認しようと心に誓ったのである。

道の終へ出ようというものが、地図を見ても地形が複雑で、谷と尾根が入り込んでおり、どれが尾根なのかわかりにくい。ともかくも東にあるコブまで行こうと歩き始める。東にのびる尾根には茨頭巾のテープや赤テープが付いているが、右に尾根を二つ見たあと、そのテープはやがて左の谷へと消えてしまった。それから先には踏み跡もテープも全くなくなっていた。

先程の斜面をくだったほうがよかったかとの考えが頭をよぎるが、予定どおりコブまで進むことにする。西尾さんの本に、「東の峠からは三角点まで立派な道がある」と書いてあったし、城陽の住人が、何故、正反対の方向にある水木野三角点へ出てしまったのかはわからないが「八風谷から釈迦岳へ行くのに間違っても水木野三角点へ出てしまった」と書いてあることからみても、数年前までは袖道があったのだろう。しかし、目を皿のようにして歩いていたら、歩く尾根の右方向に踏み跡らしきものは全くなかった。

八風谷林道から八風街道をくだって神橋橋広場へ戻った。道端にはミカエリソウ・アキチヨウジやアキノキリンソウが咲いていて目を楽ませてくれた。先程まで滑り落ちないかと苦勞して谷をくだっていたのがまるであうそのよう。

この日の土産は林道脇で見つけたスギヒラタケとアマタケだ。

(平成11年10月17日歩く)

#### △コースタイム▽

神橋川橋広場(1時間25分)不老堂(1時間10分)Ca930峠(15分)水木野三角点(1時間10分)八風谷道分岐(15分)八風街道(55分)神崎川橋広場  
△地形図▽2万5千1電ヶ岳・御在所山

拙文中の\*印はラテン語のmissa(おとせ、約)の略語で、「Ca930峠」は「およそ930m位」という意味です。地形図に標高が示されていない場合、等高線から読み取って筆者が予想した標高を表現する場合があります。

コブから東へ尾根をくだる。尾根が東にのびているので袖道に着けると思ったのが大間違。いやに尾根が細くなり、斜面が急になるなど気がついた時には遅かった。右手を透かして見ると、尾根を一つ挟んでその向こうに尾根が走っているではないか。どうやらくだる尾根を間違えたらしい。

地図をよく確認すると、コブへ着く前に南にある尾根へのらなくてはならないのに、そのまま直進してしまい、スマイパノ谷の一つ西の大きな谷へおりかけているようだ。登り返して戻ってもよかったが、現在地も確認でき、山腹には林道が控えているのがわかっていたので、そのままくだることにした。

一度谷へくだったものの、谷をそのままくだったのでは滝やその他どんな難所が待ち構えているかわからないので、右岸の急斜面をトラバース気味にくだることにする。やがて、谷は北を向き、いくつか小さな沢を渡ったのち平坦地が現れると、炭焼きの窯の跡があり、道らしい踏み跡も残っていた。もうこれでこの道をおくれば林道に出られると思ったのもつかの間、すぐ道はここへ消えてしまっ

## KOBEの登山専門店

風を背中感じます

●スナックザック……汗対策のザックです。



●ウオーキングスナックタイプ  
ベンチレーションサポートパッドにより背中は常に快適。バックパネル部がワンタッチで取りはずし可能。新案マグネットを装備、アルミフレーム内蔵。  
日帰りから一泊山行きに最適、かつ良きで定評のアタックタイプです。

●カラー：レッド×ブラック・ブルー×ブラック  
グリーン×ブラック  
●容量：28L ●重量：1.450g  
●素材：ナイロンUSコーデュラ  
●価格：¥14,000→超ハイキング価格

<http://www.h2.dion.ne.jp/~kobezac>

四季折々、季節を気にせず  
里山・低山・名山を訪ねます。



神戸ザック

〒653-0035 神戸市東灘区日宮町3-1-30  
TEL (078) 621-5851  
FAX 621-3528

# 朽木から蛇谷ヶ峰・富坂へ

秦 康 夫

比良山系の「北面の武士」・蛇谷ヶ峰は、地元朽木では小蛇谷山(オグラス山)という響きのよい名で呼ばれている。

十数年前まで安曇川側からの登山路としては、桑野橋からの西尾根ルートと、入部谷の林道から朽木スキー場を経由するルートの二つしかなかったが、現在はそのほかに、二、三の新しいルートが出来ている。いずれも、1988年にオープンした総合森林公園「グリーンパーク・想い出の森」を基地として、奥や朽木村によって開発整備された立派な登山道である。

今回はそのうちの一つ、距離は長いが変化があって涼しそうな、カツラの谷前に出た。この建物の中には自然林の模様や、さまざまな動物の葉の見分け方など興味を引く展示があり、時間があれば見学したいところだが、きょうは登山届けを出さず先を急ぐことにする。

遊歩道があちこちにある登山口がわかりにくい、「ふれあいの池」の横を通り「ふれあいの広場」を過ぎると、「カツラの谷の入口はここ」と書いた案内標識が見つかった。林のなかに、細い道が下り気味にのびている。両側から繁る松や雑木が木陰をつくり、うまい具合に陽射しをさえぎってくれる涼しげな道だ。



(登山地図では指月谷) ルートで蛇谷ヶ峰に登ることにした。

出町駅で時45分発「朽木村」行きの京都バスに乗車。終点の「朽木小学校前」には9時5分ころ着いた。ここから9時15分発「グリーンパーク・想い出の森」行きのシャトルバスに乗り換える。終点で降り、登山口まで引き返してくるつもりだったが、親切な運転手さんが「蛇谷ヶ峰登山なら、ここが近い」と言って、「多目的グラウンド」の東南の角あたり、蛇谷ヶ峰への案内標柱のある所で途中下車させてくれた。

カツラの谷ルートの登山口は「朽木いきものふれあいの里」である。道標に従っ

はるか下からの雑音を聞き消すような蟬の声を聞きながら、しばらくは散歩気分の、のんびり歩きが続く。「ジジジ」のアブラゼミに代わって、にわかにツクツクボウシが鳴き始めた。ニイニイゼミの声も混じっている。突然左上の山から落石らしき音。あわてて身をすくめたが、すぐ後ろにこぶし大の石が二、三個落ちてきた。見上げるそと森が数匹、ゆっくり走ったり飛び跳ねたりしながらこちらの様子を見かねている。威すつもりで、わざと石を落とすしたのかもしれない。

左から入ってくる小さな谷を二つ三つ横切り、「ふれあいの里センター」から20分程歩いた所で、道の真ん中に張ってある通行禁止のロープに出くわした。一瞬あれっと思っただけ、そのすぐ手前には左へ折り返して登って行く道があり、これが蛇谷ヶ峰への登山道になっている。ロープがなければそのまま行ってしまうところだった。ここまでセンターから1.5km以上は歩いたことになるが、蛇谷ヶ峰北西尾根の裾をぐるりと巻く起伏の少ないユリ道なので、高度にすればたかだか10分程程いい

蛇谷ヶ峰頂上



て舗装路を東に向かい、道なりに南に廻り込むと知善寺谷川に架かる吊橋が見えてきた。赤い支柱とブルーの手すりが見えやかな明るい橋だ。「オグラス山吊橋」という名がついている。橋の中央から、蛇谷ヶ峰の頂上と反射板のある西峰が遠望できた。

橋を渡って車道を登ると広い駐車場があり、すぐ「ふれあいの里センター」の

ただけである。

やっと尾根沿いの登りになった。ほぼ南東に向かう。ほどなく木製の階段道となり、右下には指月谷が見えてきた。尾根は東方向にずっと続いているが、道は尾根の右を巻いて南に向かい、また水平道になる。なかなか高度は上がらない。むしろ下り気味に谷に近づいてゆく。

「カツラの谷(り・ち・り)蛇谷ヶ峰へり・ち・り」の標識が現れ、階段をくぐってやっと指月谷におり立った。右岸沿いに少し歩き、支谷が右に二つ分かれる所に「ようこそカツラの谷へ」の立て看板がある。このあたり一帯を「カツラの谷」と名付けているようだ。なるほど見事に林立したカツラの木が多い。「二条に分かれた、小さいがきれいな滝もある。ここで休憩し、谷川の冷たい水を補給した。

流れを渡ると左岸沿いに道が続いている。大木に似合わず、かわいらしい丸い葉をつけたカツラの樹や、きらきらと白く光りながら落ちるいく筋の流。なかなかの渓流だが登りはかなり急である。

間もなく谷は二つに分かれる。右の小



カラツの大木

さいほうの谷を渡る。左の本流に懸かる流の上に山。そのまま左の谷の左岸沿いの道が続き、数分歩くと道案内の標識がある。「ふれあいの里センターから2・7km、蛇谷ヶ峰へ1・5km」。標高は520m。センターからここまで、山頂までの距離にすればおよそ3分の2は来たが、高さはまだ3分の1しか来ていない。

やっとここで谷を右岸に渡る。登山地図では、「カツラの谷」と表示された所で左岸に渡り、すぐ右岸に渡り返すようになっているが、実際は、すぐではなく20分程登ってから右岸に渡ることになる。渡った所には小さいが立派な洞があつた。

登山道は左に折り返して谷筋を離れ、山腹をぬって尾根に向かう。5分程で今

度は右に折れて尾根道となった。間もなく木製の階段が現れる。所どころ休憩用のベンチも置かれている。

「熊の出の森」から三、四本ある登山道は、いずれもきれいに整備されていてありがたいことだが、階段道の多いのがやや難点である。変化のある道道に比べると単調で退屈だ。ハードルをまたぐ要領で歩幅を合わせ、目の前の階段を一段一段、ひたすら消化するばかりである。時どき立ち止まって、右の樹間越しに見える蛇谷ヶ峰の稜線や西峰の反射板を眺めたり、道に落ちている大きなトチの実やドングリを拾ったり、何とか気を紛らせながら黙々と歩を進む。「天国への階段」と思ってたがまんするほかない。14名のメンバー全員がややうんざりした表情で、いつもの賑やかな笑い声は聞こえてこない。

長い階段道が終わって地道になり、「ヒダサンショウウオの谷」ルートの登山道と合流した。「蛇谷ヶ峰へ0・5km」の表示がある。両側から木の繁る木陰のなかの尾根道を歩いて朽木スキー場からの道と出合い、最後の登りをがんばって12時過ぎに蛇谷ヶ峰(902m)に到着

した。道中に風があつて虫もいないので、山頂でゆっくり昼食をとることにした。

やや薄曇りで伊吹山・鈴鹿方面の展望は全然ない。その代わり、リトル比良・武奈ヶ岳・蓬萊山など近くの山がモヤのかたにうっすらと浮かび、はるか遠くの山を眺めているような、ちょっと変わった雰囲気を感じることができた。下界は晴れている。双眼鏡でのぞくと、下山地点である宮坂奥の村道と鶴川に架かる橋がはっきり見える。薄緑色の屋根が鮮やかな小さい建物は、昨年新しくなった高坂口のバス停だ。

午後、雪のシーズンには苦勞して登る道も、きょうは快適な樹林帯の稜線下り、30分程で宮坂への分岐までおりにきた。

登山道がほぼ直角に右へ曲がる所、あと三、四分歩けば「滝谷の頭」という地点である。右に行けば「滝谷の頭」からボボダ峠方面だが、左へ入る分かれ道があり、これが宮坂への下山道になる。

入口からしばらくはササが生え込んでいるが、すぐ明瞭な道が現れた。尾根というより広い斜面につけられたジグザグの道が、ほぼ南東方向に続いている。落ち葉の積もるクッションのよい道だが、

何しろ人が通らないので荒れているのはやむを得ない。道を塞ぐ倒木も多い。南の流谷にかなり近づいたあと方向転換し、北東から東方向に向かう。

分岐から40分程おりにきた所で道は左右に分かれる。右は登りなので左の道をとって少しくだり、下から谷の瀬音が聞こえてきたあたりで、今まではっきりしていた道が突然消えてしまった。急な斜面のため、何年も前に崩れてしまったようだ。やむを得ず、左の谷をめぐりて斜面の歩きやすそうな所を選んで進むとケモノ道が現れ、これをたどって滝谷川へ北から入る支谷におりた。

右岸の草むらのなかにかすかに踏み跡がある。これを行けばよかったのだが、刈岸に見える道らしきものに惑わされてうっかり左岸に渡ってしまった。すぐにひどいブッシュで行きづまり、右往左往したあげく、もとの徒渉地点に戻ってきた。

右岸へ渡り返し、ススキをかき分けて踏み跡をたどると、細いが明らかな道となり、数分で大きな堤に出た。プランナーには「滝谷川荒廃砂防ダム・堤高14m・平成3年11月完成」と記されている。堤

堤の横を走り竹林に入るとまた道が消えたが、左下にコンクリート製の古そうな橋が見えた。崩れた急な斜面を慎重にくだってこの橋を左岸に渡り、草付きの土手をよじ登ると、そこからは工事用の広い林道が始まっていた。支谷が、右の流谷川本流と合流する少し上流のあたりである。

これでやれやれ、ゆっくり最後の休憩をとって、あとは林道を20分程歩いて宮坂の集落に出た。願証寺、玉津島神社の前を通り、蛇谷ヶ峰山頂から見えていた高坂口バス停には、15時30分ころ到着した。

きょうの下りのルート、約十年前に歩いたときは最後までしっかりした道があった。砂防ダム工事で地相が変化したのか、堤に近くなるあたりからは様変わりした荒れようだったが、登りに使ったルートとは正反対の、人工色の少ない趣のある自然道である。これからは何度か歩いて、わかりやすいトレースを付けておこうと思う。

(京都北山グループ例会・

平成12年8月27日歩く)

### ☆コースタイム☆

出町柳駅(京都バス1時間25分) 朽木学校前(シャトルバス10分) 多目的グラウンド(15分) いまのふれあいの里センター(25分) 尾根道入口(45分) カツラの谷(15分) 右岸への徒渉地点・洞(30分) 想い出の森への分岐(15分) 蛇谷ヶ峰(30分) 宮坂への分岐(40分) 砂防ダム(25分) 玉津島神社(10分) 高坂口(江若バス15分) JR近江高島駅

△地形図V2万5千II豊庭野・北小松  
○第37号(97年11月号)から、四年間にわたって連載してきた「比良を歩く」シリーズは、今回をもって一応終りま

す。  
地図上で足跡をたどると、比良山系のほとんどのルートをカバーしたことになりますが、まだ残っているルートも若干あります。また、山の友人に教えてもらって一度歩いてみたいな、と思う新ルートもいくつかあります。これらは「比良を歩く」シリーズの続編として、機会があれば不定期に寄稿したいと思います。永い間のご愛読ありがとうございました。

1等三角点峰(500m以上) 548座完全登の記録(第27回)

## 平成4年夏の北海道の山旅

坂井久光

平成4年7月8日、同行の山形氏の車で武利川沿いを南下すると武利岳の標柱があり、右折して下の川林道に入る。標高910mの駐車地に17時47分に到着。夕食後車泊。

9日、7時出発。天候は曇り、五合目8時30分。7合目の山頂まであと1km地点に9時8分15分。ここから岩稜となりハイマツ帯となる。10時に武利岳(1876m)登頂。展望はガスのため良くないが、近くの武華山や周辺の山が見えた。往路を下山すると雨になった。丸瀬布温泉に入って汗を流し、近くのいいこの森キャンプ場で泊まった。

10日、6時20分出発。瀬戸瀬山へ五十

一点沢林道から登頂を試みたが、以前に歩いたのに、その記憶が薄れ、ガスのためまわりもはっきりわからなくて引き返した。そして、瀬戸瀬温泉からセトセ林道に入り、終点からやぶ道を登った。遠軽宮林署小屋を経由して二年ぶりに901mの平坦な山頂へ14時25分着いた。瀬戸瀬山の三角点はやぶのなかの樺の腐材のそばにあるのが再発見できた。下山後、瀬戸瀬温泉に入り、駐車場まで車泊。

11日、8時出発。遠軽町から生田原町・留辺蘂町を経て、東相内から富里キャンプ場を通って仁頃山登山口へ9時50分着。林道が鎖で閉鎖のため、林道を歩いて登った。山頂(628m)へは11時15



ウコタキヌプリ山頂にて

分に到着したが、ガスのため展望は悪い。仁頃山へは二度目の登頂である。往路を下山して富里キャンプ場で、「昭和二十三年ごろ、京都市北区紫竹橋ノ木町十六の川端良三氏がこの付近一帯を単身で開拓した。その功績が北見市の本屋から出版されており、歌碑も近くに立っている」との話聞いた。北見市で登山靴と靴下を買い、活汲山(391m)へ16時に登っ

た。山頂には反射板があった。山麓の若松キャンプ場に17時27分着。一泊。

12日、6時55分出発。8時20分に林道の峠。8時16分林道。9時33分45分樺根山(958m)へ。晴れていたが周囲は林で展望なし。12時44分13時55分オロナイ川はうれい橋。鎖があり長い林道を歩いて尾山(605m)へ登頂。第二電々調子府ステーションが建っていた。林で展望なし。往路を下山して15時10分チミケツ湖(28m)へ。その後、足寄町へ行って買物をして、稲牛の公民館広場で車泊。

15日、5時27分出発。5時51分にウコタキヌプリ林道終点。7時頃ブル道終点。7時45分反射板の立つ鞍部。8時5分ウコタキヌプリ(745m)登頂。2人で万歳三喝。樺が立っていて展望は良好なのだが、この日はガスのため駄目だった。往路下山。悪路の道を山形氏の上手な運転で峠をいくつも越え、カーブの連続する上り下りを乗り切って白糠町鹿路川の大流の下流の流の下橋に12時10分到着。13時10分に出発し、ブル道をたどって高ノ上山(568m)へ14時30分に登頂。樺が立ち展望良好。付近の山は伐採が進

み、ブル道が走っているのが望見できた。駐車地に15時42分に下山。往路を二段へ戻り、舗装の国道を快走し、本別町で買物をしてから郊外の静内キャンプ場へ行った。樺の山溪閣温泉へ行き入浴。汚れ物を洗濯機で洗って一泊。

16日、久しぶりの好天で洗濯物の乾燥に時間をかけ、10時35分出発。林道終点駐車11時20分。暖内山(280m)登頂11時50分。ササのやぶ道でダニが多数付着した。往路下山。その後、山形氏が近くの2等三角点と間違えた賣賣台(133m)へ。池田町経由帯広市から中札内への国道を走り、15時35分に樺の立つ目的地へ妻畑を通って到着。また200m程先の2等三角点へも行き、彼の話を聞いた。17時17分にオルツンキャンプ場へ行く。十勝川温泉近くの林道を走って到着後、一泊。谷間の静かな所で管理人もおらず私たちだけだった。

17日、6時出発。池田町から南へ走り、十勝から左折して林道の峠へ。そこを左折して7時10分駐車。小田野山(226m)へ7時15分に着いた。周囲は林で林道から新しい切り開きがあった。以上の情報は当時の国土地理院長宮崎

大和氏と知り合い協力を得た成果であった。

次いで、十勝から国道を南下。浦幌町経由本別町への舗装を北上した。常室の奥山牧場を右折して林道の奥で駐車。新しい切り開き(標識あり)を登って8時46分常室山(255m)山頂へ。展望良好で小田野山が見えた。下山後、浦幌宮林署へ行き霧裏山への林道の鍵を借り、山頂(613m)へ11時7分に登頂。湖尻所があり、すぐ近くに樺もあって展望は良かった。山また山の北にウコタキヌプリや滝ノ上山等が望見できた。浦幌宮林署で鍵を返し、近くの食堂で昼食後別路への国道を走った。音別町で左折して北上し、橋を渡って池の畔を通り、八州社員と会い登路を聞いて尺別山(233m)へ。音別町へ戻り、海岸のパンクルキャンプ場(トイレの他は未完成)で車泊。

18日、6時17分出発。東へ向かい、白糠町で左折し北上。御礼部の専光寺橋で右折してオサツベ川林道をつめた。登路を降りて樺の立つ鹿路山(309m)へ7時52分登頂。下山後、白糠町を経て西へ。音別町・浦幌町を通って豊垣町の橋





い左へ入って昔清水へくだる。200mも山腹を伝うと、復元なった西行庵を中心とした公園に寄く。

西行法師が吉野奥の院に近い閑静なこの地に隠棲していたといわれ、その後、間口一間半、奥行一間の三廬を建て西行の木像を安置したという。

松尾庄頼も貞享元年(1684)9月(野ざらし)と、同五年春(友の)小文の二回も西行庵を訪ねている。西行庵から急階段をくだって金峯神社へ戻り、宝塔院跡で小休止する。鳳閣寺まで3kmの百貝岳中腹を伝う古道が西側に見える。



⑥ 百貝岳(鳥住岳) (黒流村鳥住)

鳳閣寺道から南西へ登る急坂混じりの百貝岳への登山道に入る。鳳閣寺まで中継道と同距離だが、百貝岳を経由すると30分は余分にかかる。黒流生まれの黒流小・中学校長を勧めた西浦教育長の話では、当時、遠足といえ百貝岳で鳳閣寺の良い気持ちのよい頂であったと聞くが、現在は樹木が成長して見晴らしが無く、小祠が坐るだけの神秘的な山頂である。

長居は無用と、鳳閣寺への狭い登山道を30分もくだると、尾根道となる。尾根の先に大経修験道を開いた理源大師(重三運)廟が鎮まる。

重文指定の総高2・4mの花崗岩製の石造宝塔は、鉄骨剛性の覆堂でおおわれ、大きな基壇と精密な技法と造形美のよい作風である。正平二十四年(1369)と藤原権守行長(伊豫系石工)銘が残る類の少ない貴重な宝塔として定評がある。

鳳閣寺で逝去(78歳)した聖宝は、平安初期に醍醐山を開いた天台宗の僧である。役小角の足跡を求め、松尾勘兵衛をつれて大峰山に入り、大峰修験道を開いている。

延暦九年(909)に入寂した聖宝を

しのび、弟子たちは百貝山中に宝塔を建てたと伝えるが、昭和二十九年に修理した現宝塔は南北朝時代建立の石塔という。

昭和十二年に村人が建立した宝塔手前の五輪塔は、聖宝と大幡入りをした奈良朝の松尾勘兵衛の供養塔である。

⑦ 百貝山鳳閣寺(黒流村鳥住)

宝塔から500mもくだると、吉野山を見下ろす露地に鳳閣寺がある。醍醐派から独立した真言宗鳳閣寺派宗務木庁の看板を庇裡に掲げ、中庭を挟んで二間半四方に正面向拝付きの本堂が西面する。三方に勾欄を廻らした濡れ縁付きの本堂は享保年間の再建で、寛延年間に修復され昭和五年に屋根を銅板葺とする。寺には如意輪観音・理源大師像など十体の尊像と聖宝には大蛇骨・法螺貝などがある。

寺の縁起では、白鳳六年(678)に役小角が勅命により、国家安泰祈願の道場として開山し、平安時代には弘法大師も巡錫したといわれ、聖宝が寺院を建立する。

百貝山の山号は、聖宝が法螺貝を吹き鳴らし大蛇を退治したという伝承によ

る。鳳閣寺から車道を少しくだと、左手山腹に鳥住の氏神春日神社が鎮座する。石段を上ると境内に別拝殿と社務所。正面土壇上の三社殿は中央が春日神、左側は稲荷神社で右側が八幡神社。社殿後背の神社森には見事なトチの巨木がある。

⑧ 地蔵峠(鳥住一殿尾)



覆堂でおおわれた聖宝(理源大師) 南

春日神社から鳳閣寺参道を丘分もくだ

ると地蔵峠で宝形造の地蔵堂がある。昭和二十四年再建の堂内には高さ1・1mの地蔵石像が安置され、堂前の享保十八年(1733)銘の道標に「従は大釜当開山理源大師堂江八町」とある。

県道48号線は新道の地蔵トンネルを抜けるが、地蔵峠から旧県道を南へくだると、すぐ先で新道沿いの脇川へ入る。

脇川から黒尾川沿いに県道48号線を30分も行くと寺戸で、県道138号線に交差する。黒尾川(脇川)が黒流川に合流する寺戸と中戸は黒流の中心集落で、役場は中戸、その他の公共施設と銀行・郵便局は寺戸へ集約された。

⑨ 河分神社(中戸・黒山戸)

黒流役場の南、黒流・川谷川合流地の県道に面して河分神社が鎮座する。杉・銀杏の巨樹が立つ境内の奥に四間に三間の拝殿、屋根付きの登壇で結ばれた四棟の春日造の本殿がある。赤流・中戸・脇川・寺戸・菅原・御吉野の座十神で、往古は原始信仰の社でその後春日四神を迎えている。明治五年に四社神社と改称し、翌年には黒流十三大字の指定神社、明治二十九年に河分神社と改称する。

境内右手の流道矢塗の稲荷社は、宇迦之御魂神をまつる農業神で、登廊の右手に村内最古の寛永十九年(1642)銘の石灯籠、社務所に寛永十八年銘の大造狛犬四対がある。河分神社前から川谷川沿いに小南峠越えは昔の山上参詣道。黒流川を渡れば赤流で、赤流峡谷にキャンブ場の「さららの森」がある。最終バスを待つ間に川戸バス停に近い光照寺を訪ねる。

⑩ 五雲山光照寺(中戸1字雲)

黒流川の大字には真宗本願寺派の寺院が点在するが光照寺が大きい。五間に五間半の広い本堂と庫裡・鐘楼と整備された寺院で、本堂右手に覆屋でおおわれた開基の塔といわれる無銘の五輪塔がある。寺屋敷から移したもので室町形式の総高1・3m、地輪に四方仏を刻んだ無傷の石塔である。江戸中期に少し東の寺屋敷の長谷寺末寺を現地へ移したという。最終バスは川戸バス停から10分で黒流バスセンターへ。20分も道の駅「吉野路」で過ごす、瀬川からの下市口駅行きバスが到着する。

# 「生駒の聖天さん」を訪ねて

松永恵一

## 生駒山宝山寺

大阪と奈良を隔てる壁、生駒山を中心に民間信仰トライアングルがある。東麓の生駒聖天、西麓の石切神社、南の信貴山。

生駒山宝山寺は商売繁盛の「生駒の聖天さん」として名高い寺。浪花商人の信仰が厚いところで、蟻が列になって歩く様子から「蟻の聖天さん参り」と言われ賑わってきた。今も参詣の人々の絶えることがない。

あめつちのめぐみはかみのおしへなれいこまのてらへまいるたのしき  
真言律宗に属する大本山で、役小角修行の霊蹟、般若窟に古く起源する。葛城修験の行場で、空海も若いころ修行した

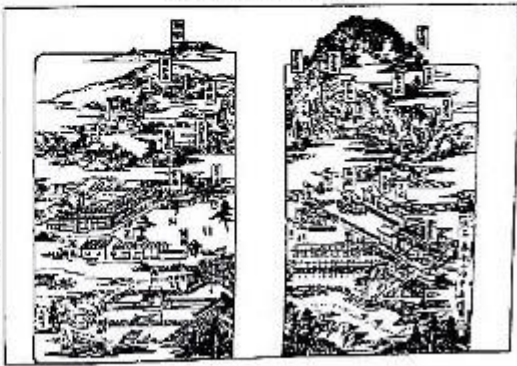
と伝える霊地。

延宝六年（1678）10月10日、湛海律師（1829-1718）は、故人の弟子と生駒山に入り、般若窟に弥勒菩薩を安置した。村人や郡山藩家老らの援助と協力で翌年正月、全願の八万枚護摩供を修した。当初大聖無動寺と号した。

その後、湛海は大聖敬喜天を山の鎮守に仰ぎ、益々の修行と理標の密厳浄土建設をめざした。仏像彫刻や仏画像制作の技術にも優れ、本堂の本尊はじめ多くの作品を今に伝えている。伽藍は十年では完成、名を宝山寺と改めた。多宝塔、奥の院は斜面を登り深い緑に吸い込まれている。

湛海律師は伊勢国津に生まれ、江戸は

「生駒山宝山寺縁起」



深川の永代寺で得度し、泉州の神威律師（奥・大鳥神社）に入って日忍律師の弟子となり、真の仏法とは何かを求めるところに目覚めた。

敬喜天の華水供・浴油供に通じ、不動明王への信仰も特に厚く、十万枚護摩供を修すること三十二度といわれる。郡山城主の要請で雨を祈り、八千枚護摩を修し、また高貴の親子誕生に験があった。聖天の信仰を集めた。

## 敬喜天

梵名ナンディケーシユヴァラ。大聖敬喜自在天・聖天とも呼ばれる。

古代インドのガナパティのことで、「ガナー」は軍勢・多数、「パティ」は主・所有の意味で、父であるシヴァの眷属を統括する神。

マラケラレツという王は肉を好み、牛を食い尽くし、死人も食い尽くし、ついには国民を殺して食べるようになった。国民は叛旗を翻し王を殺害しようとする

と、シナーヤカとなり飛び去った。その後、国は黒りに苦しめられ、十一面観音に助けを求める。観音はシナーヤカの女身となり、王に仏教守護を誓わせる代わり身を捧げた。王は女を抱き無上の歡喜を得たので敬喜天と尊ばれるようになった。その姿は、赤帛・裙をつけた象頭人身のものもあるが、男天と女天が抱き合う双神像が一般的。相手の足を踏み押さえている方が女神といわれる。

オン キリク ギヤク ウン ソウカ  
この真言を唱えれば、七代の富を一度に集められる。男女相合、子授けなどの功德がある。また七回唱え相手の名前を呼べば、その人を呼び寄せられる。

## 「生駒山宝山寺縁起」

内題に「般若窟記」と記されている。宝永三年（1706）3月下旬ころから

湛海律師が口述されはじめた。全四巻からなり律師の自叙伝ともなっている。

巻頭に山内図、ついで律師の影像が描かれている。御智隆成が生前の律師の姿を描きとどめたという。宝山寺蔵の絹本着色の画像から翻刻したもの。隆成は正二位・権大納言となった公家で土佐派の画風をよくしたという。

画像の題文は当寺に帰依していた大和郡山藩主種沢古里が記している。吉里は「宝山寺附山湛海律師画像記」の一文を寄せている。

第一巻は初巻心より生駒山入山当初の苦難のこと。第二巻は仮本堂での八万枚護摩供執行完遂から観音堂建立までのこと。第三巻は敬喜天（聖天）安置の由来と宝永六年（1708）までの修行のこと。第四巻は日本最初の霊地・神山としての当山のこと、岩船大明神・大乗滝寺の由来のことなどを記している。

木版摺りで料紙全五十三枚、文化十年（1813）第九世聖観和尙のときに開板された。

## 万燈会 9月23日（祝）

お彼岸万燈会。山門下の鳥居が立つ参道には、信者や参拝者等から寄せられた俳句や川柳が、行灯に墨書して展示されている。読みながら薫香漂う境内へと山門をくぐる人々の姿。

夕方5時、懺悔・滅罪・四恩（父母・國王・衆生・三宝）・先祖に日頃の感謝をあらわす法要が行われる。

通拝殿般若窟の岩屋木尊弥勒菩薩に灯明が灯される。奥の院への両側に並ぶお地蔵さんの一つ一つにも灯りが供えられ、燈火が帯のように連なる。美しい炎のなかに万燈会無行法要が行われる。僧侶に続いて手燭を持った参拝者が、本堂から奥の院へとお祈りをし、本堂へ戻ってくる。

夕暮れの光と献灯の明かりが境内・各伽藍を照らし出し、幻想的な雰囲気が出る。行灯の灯りひとつひとつが、満ちる人々の祈りを照らし出す。幽玄の灯りで彩られた万燈のなかに、参拝人たちが上へ上へと上って行く。

墨千家社中による万燈会茶会の無料接待が行われ、客殿では琴の奉納が行われる。



宝山寺参道

コース概観

奈良県の西部、大坂府との境をなす生駒山。中腹に「生駒の聖天さん」の名で親しまれる宝山寺がある。商売繁盛はもちろぬ病氣平癒・交通安全・入学・良縁等、現世における望みならありとあらゆる願いごとがかなえられるという「歡喜天信仰」のメッカ。どこぞの神・仏では、とうてい聞き入れてもらえそうにない願いごとを聞いてもらいに、詣でてみた。

近鉄奈良線または東大阪線生駒駅下車。南側へ出て2〜3分で、近鉄生駒ケーブルの烏居前駅に着く。大正七年(1918)に宝山寺への参詣客の交通手段として開業した、わが国最初のケーブルカーである。昭和四年には生駒山上までの延長線が開通し、現在も生駒山上遊園地へ行く人や夏の涼を求めの人々で賑わっている。この日本一歴史が古く、日本一長いケーブルには、小さいお子さんに大ウケ。行かれていて、小さいお子さんに大ウケ。走る様子を見ているだけでも楽しくなる。駅名の由来となった大烏居は現在、宝山寺境内に移されている。烏居前より宝山寺駅まで5分、徒歩10分程で境内へ。

生駒駅から宝山寺まで歩く。生駒山に向かっても分程進むと老人憩いの家に行く歩道がある。溪流橋の階段になった山道を登る。コナラ林を通り抜けると滝寺公園プール。プールから急な階段を上すると大乗滝寺境内に着く。宝山寺福祉事業団の施設群がある。本堂の裏には30層を超える大きな滝(清流)があり、通称滝寺と呼ばれる。観音堂場として古くから開かれていた。宝山寺第六世光善和尚によって再興され、以後宝山寺歴代の隠

居寺あるいは病僧の療養所となっていた。乗空和尚の時代に開設された広教学舎には、柳生藩の陽明学者岡村圃翁が招かれ、全人格的教育を目指し、近在はもとより山を越えて河内からも向学の士が日参したという。

滝寺を出るとすぐに元興寺文化財研究所がある。埋蔵文化財の研究、遺明寺の三ツ塚古墳の濠の底から発見された古墳時代の木ゾリ一修繕一の保存処置をした施設として名高く、現在は年間数千点の文化財が保存処置されている。

勾配をくねくねと登ると眼下に生駒の町並が望める。爽快感や征服感がいとも簡単に味わえる。宝山寺の駐車場に出る。参道の石段を登る。両側には宝山寺流の灯籠が立ち並ぶ。緑日には、護国が軒を連ね賑わう。ケーブルカーの宝山寺駅で下車した人とは、ここで合流することになる。

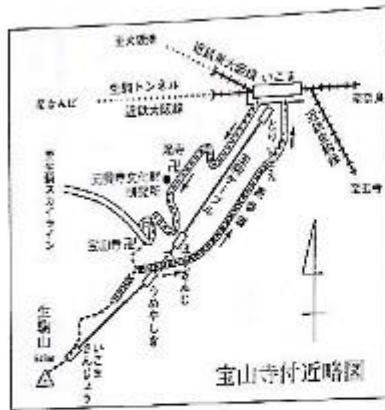
たくさんの階段を登ると宝山寺が見えてくる。本堂へ登る石段前にボディージュが二本植えられている。門をくぐり境内に入る。「ウッソー」と声をあげる。神がいて、仏がいて、槍皮書あり、多宝塔あり、和洋折衷建築ありという、何でも

ありのてんこ盛り、関西的な寺だ。

入ってすぐ左に休憩所がある。お茶が用意され、おまんじゅうが売られている。

右手に不動明王を中尊とする本堂と歡喜天をまつる聖天堂が並ぶ。本堂は重層につくられ重量感がある建物。軒が長く反り出して堂内は薄暗い。堂前には寄造された青銅製の立派な灯籠がある。

本堂の背後にある宝山寺般若窟は地質年代(約1000〜2000万年前)、生駒山の中腹に火山活動によって出来たもの。現在見られる突出した火山岩の露頭は当時の岩頭といわれている。岩石は磨石安



宝山寺付近略図

山岩である。七世紀頃、役小角が修行し般若經を岩窟に納めたと伝える。

参道を進む最初に目に入るのが多宝塔。小さな美しい塔は、昭和三十三年建立。高さ約14尺、本瓦葺き。平安・鎌倉の様式を取り入れた造りである。

奥の院への通路の両側にはお地藏さんがずらりと並んでいる。事務所には一円玉を数回回分給めた袋が用意されている。お地藏さん一休一休にお布施しながら通るためである。

境内に佇む重要文化財の獅子關は、明治十五年(1882)、住職の乗空和尚が宝山寺の客殿として大工棟梁の吉村松太郎に建築させた木造二階建ての洋風建築。正面車寄せにはコリント式の柱頭のアカンサスヘアザミにも似た裝飾が施されている。軒には蛇腹がこしらえてあり、一階のアーチ窓や二階の矩形窓には両開きの鐵戸を付けて、ベランダが設けられている。外観は洋風建築の影響が強く見られるが、内部は一室を除きすべてが和室。格天井と床の間を持つ部屋もある。境内には数少ない本格的な明治の洋風建築。百年の時を越え、今も寺の迎賓館として人々をもてなしている。

生駒山(642.3尺)の山頂へは、山門の前を左に登る。右に登り道が始まる。左に山頂へのケーブルカー線路が続く。かなり直線的に登る。辻子谷越の道は山上遊園地の北側を越し、さらに大坂側の石切にくだっている。

お参りを済ませて、表参道の石段をくぐると、鳥居の外に出るとすつと下まで石段が続く。両側には門前町として栄えたこの地らしく、何軒かの「後祭」の看板を見る。「生駒芸者さん」がいて、旅館・料亭などが階段の途中に並ぶ。旅館街が住宅街、そして商店街に変わると目の前が近鉄生駒駅。寺から駅まではほんの直線。これはどわかりやすい道も少ない。

- ▲コースタイム▼
- 近鉄生駒駅(30分)滝寺(2分)元興寺文化財研究所(30分)宝山寺(40分)近鉄生駒駅
- ▲地形図▼2万5千11生駒山
- ▲費用▼
- 近鉄奈良線・生駒駅 390円
- 烏居前駅・宝山寺駅 280円
- ▲問い合わせ先▼
- 宝山寺 0743(73)2006

### 熊野山中の孤高の秘峰

## 大倉畑山

中級コース (★★★)  
西尾 寿一

熊野は、現在でも信じられないほどの山の奥にまで人が住んでいる。今は生活改善のために各村に自動車道路(軽トラック用)がつくられているものの、少し昔までは山越えの道が網の目のように通じていて、人々はその道を使って一日数十kmの距離をもっともせずに歩いて生活物資を運び、収穫の少ない田畑を耕して暮らしてきた。

熊野川町の小口もそんな所である。小口からはさらに数本の支流を遡って多くの村落がある。水清く鮮烈な巨淵の続く溪流をたどって行くと、肥きよき時代の田舎の姿が胸裏によみがえってくる。川遊びに一日中打ち興じていた少年の

ころ、そのままの記憶の像が目の前に展開している。そんな自然の真只中に大倉畑山はある。しかし、登りがたい山である。長年計画倒れになっていたのを一気に片付けるべくバイクで小口に入る(新倉駅から熊野川町管バスがあるが、不便でマイカーがベストである)。

小口の食料品店で情報を仕入れようとする。向かいのJAへ持ち込まれて話が大きくなった。大勢が地図をのぞき込んで勝手な昔話をするので耳々に引き上げる。帰り際「粮むから迷わないでほしい。過去何人も迷った人がいるから」と念を押されてしまった。

深瀬は無人。ザレ山峠への道は荒れて草深く、わかりがたい、との話だった。ところが深瀬の手前でハヤ捕りの老人がいたので話を聞くと、簡単に行けると言う。しかも少し行くと学校があるからテントも張れる、と言うのである。

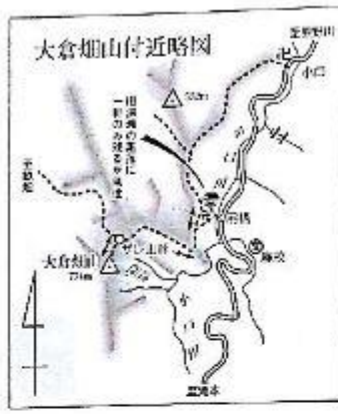
これはありがたい。吊橋を確認して学校まで行くと、2人の老人がいてテントの許可をもらう。テントを校庭に張り終えると先のハヤ捕り老人が帰ってきて、2人の老人と合わせて3人兄弟だとわかった。上が七十代、下が五十代で、下の2

だ。これは子どもどころから傾り上げられた技術なのだろう。

夜、彼らは夕食に呼んでくれた。粗食ではあるがうれい晩餐である。

翌日5時起きで大倉畑山をめざす。吊橋を渡り、深瀬の一軒家も今は杉の植林のなかで廃れるのを待っている。先祖が長い年月を費やしてつくった水田も杉林と化した。墓もあれば、「紅雲禪定尼」天明七年十月廿七日の地蔵尊もあり、ミカンが一個そなえられていた。女性の行者が行き倒れたのだろうか。

急登30分で、小口から来る道に合す。水半道に近いがよい道だ。尾根を廻り込んで行く角に丸太のベンチがあつてよい



休み場だ。

道はそこから悪くなった。細くなり崩れた所もあり、倒木や枝、楯の落ちた所もある。それでも昔からの道は立派に機能している。

やがて、二本目の尾根を捲いて深谷の源流に入り込むと、いちだんと悪くなった。崩れて危険な通過所が二ヶ所あり、覗くと何も見えない空間が広がっている。しかし、その空間から大倉畑山の堂々とした雄姿が見える。シャッターチャンスはそこだけである。

ヤマツツジの枝がのび放題で、クモの巣もあって人もしばらく通っていないようだ。ようやく深谷の水源近くで地形も安定し、杉植林のなかを通過するとガレ場がむき出しのザレ山峠に着く。名のおりの峠だ。一名「辞職峠」と呼んでいる。その昔、分校の新人教師が赴任する折、あまりの深山に辞職を決意したから、というのだが、全国の僻地に同名の由来をもつ峠(け)して生名ではない)があるから、人里遠い土地を表現する一種の流行だったのだろう。平家伝説と共に時代を経て感説語伝説は生きているのである。ザレ山峠で道は二分する。右は吹畑へ、

登路から大倉畑山を望む



人が家族と分かれて故郷の土地に帰って暮らし、子どもどころから親しんだ山や川を相手に遊んでいるという。

ハヤを捕るのは「毛ガニ」(モスクガニのこと)捕りのカゴに入れる。四に使うためだと言う。さっそく川へ出かけると言うので、軽トラの荷台に乗せてもらい見に行く。脂ののった大きなハヤが大盆に捕れた。カニ捕りカゴに入れて十ヶ所程仕掛ける。9日程して引き上げるらしい。彼らは年齢も忘れて、喜々としてまるで軽業師のように振舞っている。足が短いのにトロトロのへつりは見事なもの

左の尾根は大倉畑山である。最初から岩場で、強引に登って二二三のピークを越えると、思ったより小広い山頂であった。三角点がすこし低い所にポツンとある以外は何もない。山名表示もテープもないところがすばらしい。

ただし、帰りのルートの入口には注意が必要である。山頂から東に派生する尾根にも同様の踏み跡があるからで、できれば三角点をなでまわす前に自分の来た方向に三印を付けておくことよ。

この山は迷って谷に入り込むと厄介なことになるからで、地元民が心配することになる。下山は往路をたどるが、深谷の源流はむろんだが、それが終わるころ、シダが深く茂っている所では赤テープが三つあるのでよく確認すること。山慣れた中級者には十分満足できる山だと思ふ。(平成11年10月歩く)

- △コースタイム▽
- 吊橋(15分) 深瀬の一軒家(15分) 小口からの道(1時間) ザレ山峠(35分) 大倉畑山(20分) ザレ山峠(1時間20分) 吊橋
- △地形図▽ 2万5千11紀伊大野・新宮

(里山シリーズ4 木之本)  
城跡と峠越えの道

### 柳ヶ瀬山(中尾山)

一般コース(★)

長宗 清司

現在、福井県の敦賀市から滋賀県木之本町へ抜けるには、北陸自動車道を利用すれば簡単に通過できる。しかし、車のない時代、人馬はどこを越えたのだろうという、単純な疑問から尋ね歩いた倉坂越え(刀根越えとも)は、若狭から國境を越えて近江に抜ける最短のコースであった。

天正十一年3月12日、柴田勝家は橋木峠が雪に阻まれたので、木之本峠から敦賀に出て、この刀根越えをして柳ヶ瀬に入った。このとき勝家が、内中尾山に本陣を置いて、さらに行市山から林谷山を結ぶ尾根に強力な砦を築き、羽柴秀吉との長期戦に構えたという。歴史的に

も有名な幾ヶ岳の合戦の直前のことである。

JR敦賀駅から、JRバスで刀根に向かう。終点で下車して、そのまま東へ県道を歩く。右手上部には北陸自動車道が走っている。川と自動車道からむよように橋や高架下をくぐって、さらに進むと、旧道の「柳ヶ瀬トンネル」の西口地点に出る。道の対岸に「玄蕃尾城」の標識がある。信号待ちの場(これは一車線のトンネル入り口の信号で、歩行者には関係ない)に注意して向かい側に渡る。高架下を出た所にも城跡への標識があり、アスファルト道を進む。足下に巨道のトンネル、頭上に北陸自動車の高架といった複雑な地形の所をC状に廻り込んで南下し、林道に取りつく。

ゆるやかな勾配の道の脇には、小さな地蔵の祠があったり、谷川の流れるのどかな谷づめの林道である。やがて道が二分する。右の道は谷奥に向かう林道で、やがて行き止まる。倉坂峠や城跡へは左の砂利道に入る。しばらく歩いた先は駐車場である。車はここまでで、あとは右の斜面に取りつき、つづら折れの道を登る。

し、山道はなく踏み跡程度を歩く覚悟がいる。

柳ヶ瀬にくだる道は、どの季節も爽快である。道幅も広く危険な所は一カ所もない。主要な箇所には標識や案内(説明)板もあり、歴史も学べる家族向けのルートである。

ただ、懐しいことに、敦賀・刀根間のJRバスに座線の動きがある。計画の時点で、十分調査していただきたい。  
(平成12年5月8日)

平成13年4月15日歩く

#### △コースタイム▽

JR敦賀駅(バス20分) 刀根(15分) 柳ヶ瀬トンネル口(15分) 林道分岐点(5分) 駐車場(20分) 倉坂峠(20分) 玄蕃尾城跡(15分) 倉坂峠(40分) 柳ヶ瀬登山口(10分) バス停(バス28分) JR木之本駅

△地形図▽2方5千11中河内・木之本

△問い合わせ先▽

JRバス(西日本つるが派出所)

0770(22)1407

福国バス(長浜出張所)

0749(64)1224



私達におまかせ下さい。待っています!



詳しくはホームページをご覧ください。

登山用品専門店

とスキーのヨシヨシ  
〒543-0054 大阪市天王寺区西河堀4-70  
TEL 06 (6772) 7231



http://www.di.dior.ne.jp/~hyoshimi

JR天王寺駅北出口  
より東へ徒歩5分

倉坂峠から玄蕃尾城跡へ



倉坂峠は、切り通しのような感じの鞍部である。玄蕃尾城跡へは、標識に従い、左の高みに向かって瀬木帯とササ原の道(尾根で県境)を北上する。

途中、ササ原のなかに4等三角点の標石が落葉どきのみ確認できる。春はタムシバやツバキの花が咲き、秋は落葉樹が色づいて美しい山道だが、夏はササが生い茂り、冬場は暴雪地。茂ったササ原や

大峰前衛の静かな山

白六山と高野辻

中級コース(★★★)

金谷 昭

大峰山脈の最高峰八ヶ岳より西に派生した尾根は途中、頂仙岳・天和山・滝山等を起こし、十津川にまで伸びているが、その最後の高まりが白六山である。

かつて山頂付近はすばらしいブナ林であったが、送信施設や林道と植林事業により昔の面影は少なくなっている。しかし、開かれたお陰で付近の山々の展望が楽しめ、一部には今なおブナの原生林も残っている。

人工物の多くなった白六山だけの登山では少し物足りないから、白六山へは北麓の殿野口より登り、稜線を東に縦走し高野辻に至れば、大峰山脈と奥高野の大

展望が堪能できる。林道をゆっくりと殿野口に戻れば、充実した一日が得られるであろう。

交通手段はバス便数と山行時間を考えるとマイカーに頼らざるを得ない。

五条より国道168号線を南下、辻堂の大塔村役場の所で左に折れ、宮谷川に沿って右岸の辻堂・篠原林道を通る。

唐笠山の山腹にある殿野への取付道路の分岐で下車。左岸に渡った所の、以前は学校林への道標のあった登山口は、三年前の土砂崩れで莫新しいコンクリート擁壁となっている。道標は無いが、その右端が登山口である。低い擁壁の上部の土砂崩れ防止の草付斜面にかすかな踏み跡が付いている。

これを登り切ると、電力会社の送電柱の管理道路となっているので、踏み跡もはっきりして来る。杉植林の急斜面のジグザグを繰り返すと送電柱に達する。ここからは学校林への案内と、それまでの距離を示した道標が出てくる。登るにつれ、三カ所の分岐が出てくるが、いずれも山腹を捲いて行く右の道は見送り、上部に向かう左の道を行く。やがて「学校

白六山山頂三角点



林へ300mの道標を過ぎて5分程行くと、道は右の山腹を捲きながら左の谷におりてゆく。ここで道を離れ、雑木林の下生えのない急斜面に取りつき、山頂からの支尾根稜線をめざして急登する。稜線に出ると登りはややゆるやかになる。稜線東側は檜植林、西側は雑木林の疎林で、見通しがきく。その境界を登って行くと、ヌタ場が出てきたり、往時は原生林だった面影が出てくる。標高約1000m付近から再び檜植林となり、ササやぶが出てきて踏み跡もあやしくなる。ともかく稜線を上部に向かって登ればよい。東側に雑木林が出てくれば頂上は近い。

登り着いた主稜線には林道が来ており、また送信施設が出来ている。頂上へはこ

の林道を5分程たどり、一番高いと思われる所を右に入ってやぶをこげばすぐである。

頂上(1168m)は、3等三角点標石を中心とした小広場となっている。北側は杉林、南側は雑木林で展望は良くない



ものの、ひっそりと静まり返っている。

山頂をあとにして、山頂の北面を捲いている先の林道におり立ち、東へたどる。林道脇にアンテナや木材集積場跡が出てくるが、この付近からかつてのすばらしいブナ林の名残が出てくる。

二つ目の集積場跡を過ぎると、林道は東南方向に主稜線の南面山腹を捲いてくってゆくが、これを行って、林道篠原・殿野線に出て、左に折れて高野辻に出たほうが距離は長いかわかりやすい。もしやぶこぎを覚悟するなら、林道左側の杉林のなかのかすかな踏み跡を行き、尾根分岐で左に折れば、最後は階段が出てきて高野辻におり立つことができる。

高野辻(殿野辻)は大塔村のヘリポートとして開発され、昔日の古街道の面影は、ヘリポート北端にたたずむ無の地蔵にわずかに残るのみである。

しかし開発のお陰で、大峰・奥高野・紀伊山地の大展望台となっている。東を望むと大昔野岳・八ヶ岳・釈迦ヶ岳の大峰山脈の巨峰の山並が、振り返ると目の前に唐笠山・白六山、その奥に奥高野、紀伊山地の果てしなく続く山並の大観は

まさに息をのむ思いである。

なお、三角点・高野辻(1168m)標石・殿野(へは峠の地蔵よりやぶをこいで、かすかな踏み跡をたどり、小ピークを二つ越えると、約20分で達する。しかし、雑木と檜林に囲まれて展望がきかない。深路は高野辻からの大展望を思い出しつつ、林道を殿野口に戻ればよい。

また、時間と脚力に余裕があれば、高野辻から尾根の踏み跡を忠実にたどる。約2時間30分位で唐笠山に達することができる。山頂手前の送電柱の管理道路をたどって殿野口におり立つことができる。

(平成10年3月21日、平成12年10月7日歩く)

コースタイム

殿野口(2時間) 白六山(1時間20分)

高野辻(1時間40分) 殿野口

△地形図 2万5千 南日本堂

\* 送コースは白六山の下りの尾根分岐が

わかりにくく、おすすりできない。

\* 駐車場は殿野口の橋を渡った川側にある。

関西百名山

だけもりやま はんさくれい  
嶽ノ森山と半作嶺

山形 歳之

最近の登山界は百名山ばかり。「日本百名山」を始め、各地方ごとに百名山が選ばれている。近畿地方でも「近畿百名山」「近畿の名山百」「関西百名山」等々、賑やかである。

ところで百と限定して山を発表されると、つい今まで登った山を数えてしまい、その結果登ってない山が気になるものがある。少しナンセンスなところもあるが、人間とはそういうものかもしれない。  
さて、ここに関西百名山の山々がある。調べると、ほとんどの山はすでに登頂している。あと数山で完登である。それなら登ってしまおうということになった。

目の前には下ノ峰の鋭い岩峰がそそり立ち、南には峰ノ山あたりの山稜がのびる。展望はすばらしいが、山頂は鋭峰で狭く、周囲が鋭く落ち込み、休んでいても何か落ち着かない。三角点のないのは寂しいが、たくさん登頂板がぶら下がっていた。これも百名山に取り上げられたからだろう。本来は、隣の峰ノ山のほうが一等三角点があるのでよく知られている。下山時のナメ谷の、濡れている所は慎重にくだらう。  
(平成12年10月18日歩く)

▲コースタイム▼

登山口(1時間) 嶽ノ森山  
▲地形図▽20万1田辺 5万1江住  
2万5千1三尾川

半作嶺(3等 点名・半作峠)

大阪からは同じように阪和自動車道経由で田辺市に至り、国道311号線の中辺路に向かう。大塔村の站川で村役場に立ち寄り、登山道の様子を尋ねる。半作嶺はいろいろ資料もあるのだが、林道がどんだんのび、手持ちの地図の登山道も

嶽ノ森山(三角点なし)

一般(★)

大阪から阪和自動車道経由で御坊下車。国道42号線を半本に向かつて走る。和深から国道と分かれて七川への県道に入る。狭くて曲がりくねった県道だが、中本廻りより距離が半分以下である。

三尾川で国道311号線に合流し、下流半本に向かつてくだる。やがてトンネルを抜けると古座川の「一枚岩」である。名勝と言われるだけあって、巨大な岩壁は一見の価値がある。川岸はキャンプ場で、駐車場と水場があり、よい休憩場になる。レストランが一軒と、国道脇にトイレ合があり、ここにも415台駐車できる。

登山口はトンネルの入口で、広い空地があり、ここにも車が駐められる。空地の奥から登山道がのびている。



国道にも登山口の標示があり、それに従って分岐の車道に入ると、砂利置き場の森山山頂所に案内板が立っていた。  
朝、大阪を出て、到着した時はすでに午後もだいぶ廻っていたけれど、1時間余りの登山タイムなので、そのまま登りに入る。



道標は新しいのに、道には夏草がいっぱいにかぶさっている。道を見失うことはないが、やぶごぎに近い所もあり、全く手入れされていない。鹿避けのネットをくぐって沢沿いの植林のなかを登ると、やがて岩盤の谷に出る。水のないナメ谷に刻まれたステップ(足場)を一步一步登る。谷が終わると若木の植林帯の急登で、稜線に取りつく。稜線にも鹿避けネットがあり、合計五カ所のネットをくぐった。ここからは左へ最後の登り。やせた岩場を乗り越すと狭い嶽ノ森山(360)の山頂に到着した。

変わっていく。案の定半作嶺の林道はすでに山を貫通し、百間溪谷側に接続していた。半作嶺の直下をトンネルで貫通していて、登山口はトンネルの北側500m程の所にある、とのことだった。  
ところで大塔村は全く同名の村が奈良県にもあり、勘違いしそуд。役場でもそのとおりです、と話していた。



役場のある田川から一山越えて日置川溪谷にくだり、合川で岩水池を渡る。今度は支流の熊野川を百間溪谷に上がり、麓口で半作嶺の林道に取りつく。林道はどんだんと高



度を上げて、山頂下のトンネルを抜ける。トンネル口から300m程の所に登山口を見つけ、前の空地に駐車する。林道は広くて新しく、下の県道よりよほど走りやす。トンネルは1998年9月完成となっていた。  
植林のなかを半作峠に登る。峠には二体の石仏が鎮座し、東の展望が広がる。春だというのに小雪が舞ってきた。ラジオは真冬並みの寒波と報じている。三ツ森山への縦走路を見送り、稜線の道をたどると、最後はやせた右横となり、岩登りの状態で登り着いた。数人しか立てない狭い山頂(360)は360度の大展望で、見渡す限り山また山。3等の三角点は新しい金属標でめずらしかった。  
これも百名山のためいくつもの登頂板があり、多くの登山者があるようだが、最後の登りは少し注意したい箇所だ。  
(平成13年3月30日歩く)

▲コースタイム▼  
登山口(20分) 半作峠(40分) 半作嶺  
▲地形図▽20万1田辺 5万1栗栖川  
2万5千1合川

続・近江側から登る鈴鹿の山々①

白倉谷から

# イハイガ岳・綿向山回遊

中級コース(★★★)

磯部 純

「近江側から登る鈴鹿の山々」の詳細ルートは、岩野氏が「新ハイキング関西の山」第20号から第40号にかけて、70ルートを紹介されている。これらはそれぞれに独立したルートになっているが、地域によってはそれらを組み合わせることで、より興味深い山行を楽しむことができるだろう。

岩野さんの新ハイ例会「鈴鹿を歩く」シリーズは、本誌に紹介されたルートを主に歩き、この4月で115回を数えるに至った。私が岩野さんの例会に参加するようになってから二年しか経っていないが、このほかにも、本誌に載っていないすばらしいルートも数多く歩かせても

らった。これらのルートを参加した人だけのものにしておくには惜しいと思ひ、岩野さんの諒解を得て、読者の皆さんに今号より続編ということできくつかのコースを紹介することにする。

ここに紹介するルートもそんなルートの一つで、平成12年6月の例会で歩いたルートである。白倉谷から大峠へ登り、岩野さん独自のルートからイハイガ岳を攻略し、稜線を綿向山へと向かう。下りは南尾根から白倉谷へ戻ろうというもので、鈴鹿中央部に横たわる山々の姿を心ゆくまで眺め、また、ブナ林のすばらしさが堪能できるルートである。

鈴鹿スカイライン(国道471号線)を大河原から野洲川ダムに沿って車を走らせると、ダムの東はずれに深山橋がある。この白倉谷林道分岐が取付点へ向かう入口である。林道に入り、ダム湖の北側をクネクネと走り、橋を渡って最初の林道分岐を右にとる。しばらく走ると再び林道分岐となる。右へ向かうと岩野さんの雨乞岳への清水谷特別ルート(新ハイ26号49・51頁)の取付地点へ行き着くが、今回は左の白倉谷を渡る。道は荒れているが、慎重に走ると焼尾谷手前の広場に

綿向山東尾根のササ原を登る



着く。駐車スペースは10台程。ここが今回の出発点となる。ここまで歩いてもう1時間が以上も戻るような林道歩きを強いられることになるだろう。

広場に車を置き、焼尾谷を渡り右岸にのびている林道を奥へつめると、小さな谷の手前で林道は終点となる。谷の踏み跡をさらに進み、次の谷分岐の中間尾根

を登ると、本谷の堰堤の上へと出る。沢沿いに谷を渡り返しながら上流へと向かうと谷分岐。地形図の破線はこの中間尾根を登るように記されているが、ガレ場の崩壊が進み、この破線路は廃道になってしまっていて踏み跡さえも残っていない。

新しいルートは右の谷から直接大峠へ登るようになると変わっている。谷の奥には林業の名残の炭焼き窯の跡が数多く残っている。その窯跡を踏み越え小さな尾根に取りつき、急坂をジグザグに登って行くくと大峠に至る。歩く季節によっては、林道、谷ともにヒルが迎えてくれる。こ

ルの嫌いな人にとっては、歩きたくないルートかもしれない。

大峠から西にあるピークを巻いて尾根にのると、南斜面はガレ場になっている。木々の間から南方の山々を覗き見することができ、細い尾根はシャクナゲの林で、歩く足元はイワカガミのじゅうたん道。春であれば十二分に花を楽しめるにちがいない。やがて、右からの尾根に出合くと、その尾根を北へ少しくだり、左のツルベ谷源頭におり立つ。これが岩野さん独自のルートだ。このあたりは明るいとは言えないが、二次林の趣ある林である。谷に沿って暗い



白倉谷からイハイガ岳・綿向山付近略図

林間を西へ進めばイハイガ岳の北尾根の鞍部へ出る。この谷では、時期が合えば思いもかけない幻の花を見ることもできるかもしれない。この鞍部の両にはイハイガ岳の荒々しいガレ場がそそり立っていて、東には雨乞岳・清水ノ頭から大峠へ至る、うねった尾根を目

の前に見ることが出来る。

鞍部からガレ場の左急斜面を直登してイハイガ岳へ登る。イハイガ岳は水木山とも言い、点名は視ヶ岳という。人によっては視ヶ岳と呼んでいるようだ。標高964・1mで、山頂は狭く展望はほとんどない。ただ、小さな広場に三角点があるだけだ。

尾根を西へくだり、細尾根から雑木の尾根を登って行くと、ゆるい斜面のササ原へ飛び出す。その境あたりに水溜まりがあり、オタマジャクシが泳いでいるが、シジミが見当たらないことから、その道の話によると池とは呼ばないらしい。この広いササ原を登って行くと、鈴鹿山脈の山々を背に、高原を歩いているような気分が湧き出せる。高度が増すにつれ次第にササの背丈が高くなり、そのやぶをかき分けて登ると、やがて竜王山への登山道へ出る。ここから左へ綿向山まではひと登りだ。

綿向山(1110m)の山頂には馬見丸、綿向神社の奥の院に当たる天穂日命がまつられた大高神社の社があり、その東には地元の子供たちによって建てられた(1970年)「百年の塔」の大ケルン



# 沿線ハイキングガイド

近鉄 京阪 阪急 南海 神鉄 山陽電車 叡電・京福  
公開ハイク 歩け歩け大会 文学散歩 歴史散歩 その他

**近鉄**  
▽駅長お薦めフリーハイキング  
「伊賀まちかど博物館に郷土史跡を訪ねて」 9月8日(雨)大決行  
①(集合) 伊賀神戸駅前  
9時30分〜10時30分(コース) 伊賀神戸駅→蓮華寺→明徳橋→大村神社→山崎酒造博物館(参道)→歴史博物館(青山町駅)→約9.5km(38) 13004  
▽歴史散歩のらく道「源氏物語のまち」 9月9日(雨)大決行(延期の場合9月11日祝) (集合) 寺田駅10時〜10時30分(コース) 寺田駅→正法寺→向道→山城総合運動公園→平等院→宇治神社・源氏物語ミュージアム→宇治橋→小倉駅(約14.5) 参加自由・無料(拝観料等は別途) 営業推進本部大阪ハイキング係06(67775)  
35666  
▽きんてつバス&ウォーク「初秋の一日大台ヶ原コース」 9月9日(雨) 11日(雨)・20日(雨)小南決行  
(集合) 阿倍野駅近鉄阿倍野駅前7時30分・上本町駅近鉄近鉄阿倍野駅前バスセンター8時(コース) 阿倍野・上本町(バス) 大台ヶ原駐車場→

生石ヶ原・生石・尾鷲江等放棄  
大台ヶ原駐車場(バス) 阿倍野・上本町(約7.5) 参加費平日7000円休日8000円(朝食ナンディング、昼食非別付) 定員各日共160名(電話申込制) (申込先) 近鉄観光バス06(67775) 35666  
▽近鉄・南海・朝日合同企画「二上山パノラマハイキング」 9月15日(雨)小南決行(荒天中止、中止の場合11日(雨)又は18日(雨)に延期) (集合) 近鉄上ノ太子駅前8時30分〜9時30分(コース) 上ノ太子駅→六甲→二上山展望台(船尾)→竹内峠→小野妹子墓→寂福寺→上ノ太子駅(約13.5) 参加自由・無料(拝観料等は別途) 営業推進本部大阪ハイキング係06(67775) 35666  
▽近鉄徒歩ハイキング「三輪明神・山の辺の道を歩く」 9月16日(雨)中止 (集合) 桜井駅前9時30分〜10時(コース) 桜井駅→三輪明神→松原神社→長生寺→石上神社→大塚(約16.5) 参加自由・無料(拝観料等は別途) 営業推進本部大阪ハイキング係06(67775) 35666  
▽近鉄徒歩ハイキング「文帝の飛

鳥を旅しよう」 9月24日(雨)大中止(集合) 橿原駅前(東口) 9時〜9時30分(コース) 橿原駅前→時下道→河内→丸山古墳→八咫鳥神社→植山古墳→高津池古墳→飛鳥寺→飛鳥京池田→万葉文化館→飛鳥寺→飛鳥京池田→橿原駅前(約9.5) 参加自由・無料(拝観料等は別途) 橿原駅前教育委員会文化財課長橋本北村彦彦氏(67775) 35666  
▽駅長お薦めフリーハイキング「下市の古寺を訪ねて」 9月29日(雨)大決行(荒天中止) (集合) 橿原駅前8時30分〜10時30分(コース) 橿原駅→いがみ権太一霊廟→國酒神社→百合ヶ峰遺跡→立興寺→札の辻→随行寺→上醍醐寺→下市口駅(約8.5) 参加自由・無料(拝観料は別途) 近鉄下市口駅074775(2) 24992  
▽近鉄・南海・朝日合同企画「大和葛城山パノラマハイキング」 10月1日(雨)中止(集合) 11月11日(雨)又は18日(雨) (集合) 富田林北出口改札前8時30分〜9時30分(コース) 富田林駅(バス) 平石→磐船神社→高貴寺→持尾城

がある。その内部には2020年に開けられるというタイムカプセルが埋められている。塔の東に立つと、東方に広がるダイジョウから雨乞橋への尾根、御在所岳・鎌ヶ岳、鎌尾根と山々がうねり、その姿は庄巻としか言いようがない。  
下山路は止頂から南にのびる踏み跡をくだる。斜面が急になる手前で左のナサ原をくだり、左に尾根を見て、さらにくだると平坦な情緒豊かなブナ林へおちる。ここはブナの木平と呼んでいる所で、表参道七合目の行者堂付道と線向山山頂の北斜面一帯と共に、ブナの原生林が現存

する山城だという。そこにはヌタ場もあり、獣の臭いがプンプンしていて、うまくすれば通行手形を見つけることができるだろう。静かなひとときを過ごすには最高の場所である。  
そこから尾根を東南へ歩き、ちよっとしたピーク(・992)から真東へ1000m程進んだあと、方向を東南へ変えて細い尾根をくだると、静かな広い尾根の林に変わる。こんな所にこんな林が……と思うほどに情緒ある林である。  
広い尾根から急斜面の細尾根へ変わると、左は植林斜面。小さなピークを二つ

越え、尾根なりに北へ向かうと大きなモミの木が立っていて、その先は標高差300mもある急斜面。駆け落ちそうな道なき斜面を木や草につかまりながらくだり、杉の林を突っ切って林道へ出ると、ちよっと、そこが車を置いてある熊鷹谷手前の広場である。  
▲コースタイム▼  
深山橋(車30分) 鎌尾谷手前広場(55分) 大峠(55分) イハイガ岳(1時間) 線向山(2時間) 鎌尾谷手前林道広場  
▲地形図▼2万5千1土山・日野東部

## 新ハイキング選書

一等三角点は、山のダイヤモンドだ。それぞれの山の上で輝いている。第9巻、第18巻、第20巻の3冊で一等三角点の山260座がそろう。

◀第4巻▶ 改訂第2版  
**一等三角点のすべて**  
多摩雪雄 編  
B6判・360頁・定価1880円(税込)  
都道府県別に一等三角点を地図上に明示。一等三角点の詳細な解説、高度順100階一覧表など、一等三角点研究の決定版。

◀第9巻▶ 第3刷  
**一等三角点の名山100**  
安藤正義/市川静子/多摩雪雄  
/富田弘平/松本浩 共著  
B3判・336頁・定価1632円(税込)  
100山すべてをコース図と写真入りで実用性が高い。新ハイキング社の一等三角点の本は、どれを見ても良い山が多い

◀第18巻▶ 改訂2版  
**一等三角点の名山と秘境**  
安藤正義/多摩雪雄/富田弘平  
/松本浩 共著  
A5判・340頁・定価1837円(税込)  
全国一等三角点の地方別の配置図と全国の一等三角点の総覧が付いている。一等の山100座を紹介。地図が大きく見易い

◀第20巻▶  
**一等三角点の山々**  
山口ゆき子/横山 隆/高柳生雄  
/川越はじめ/岡村美邦 共著  
A5判・310頁・定価1680円(税込)  
一等三角点の山シリーズ、260山の総索引と高度順一等三角点100座が付いている。50座を紹介、有名な山が多い

●本誌添付の製作用紙でのご注文は送料当社負担  
発行所 **新ハイキング社**  
〒114-0023 東京都北区滝野川117-6-13  
電話/FAX 03-3915-8110

降・持尾北ノ高城山(解散・約15分)・ロープウェイ・バス)近鉄御所駅・参加自由・交通費等は実費、貸車進本大阪ハイキング係06(6775)3566

**南海**

▽汐見橋・住吉東駅長推薦「初秋の蒲子小動船から錦織公園を歩く」9月12日(雨天)午前9月19日(雨)集合)りんかんサンライン・千代田駅10時30分(コース)千代田駅・伏見栄大橋・西野々古墳・難谷不動尊・錦織公園・金剛駅(約9分)参加自由・無料(拝観料等は別途、南海テレホンセンター106(6643)1006

▽南海・近鉄・朝日合同企画「泉南飯盛山パノラマハイキング」9月30日(雨天)中止(雨天予備日11月11日)又は18日(日)(集合)みさき公園駅9時10時30分(コース)みさき公園駅・堤灯講山・泉南飯盛山・孝子礼立分岐・札立山・平井峠・紀ノ川駅(約13分)参加自由・無料(南海テレホンセンター106(6643)1005

▽北野田駅長推薦「万葉の道から恋し野の里を歩く」10月7日(日)

雨天中止(集合)りんかんサンライン・橋本駅10時30分(コース)橋本駅(バス)東土バス停・飛び越え石・念仏寺・中野の森・恋野公民館・糸のかげ橋・門前バス停(バス)橋本駅(約10分)参加自由・バス代等は実費、南海テレホンセンター106(6643)1005

▽陸奥ヘルシーハイイク「爽やかな森林コースを歩く」10月13日(雨天)中止(集合)河内長野駅8時30分(コース)河内長野駅(バス)金剛山ロープウェイ前・五条林道・千早峠・杉尾峠・紀伊峠・紀見峠(約12分)参加自由・バス代等実費、南海テレホンセンター106(6643)1005

▽加太駅長推薦「鉢巻山から水平線を望む、淡路神社を訪ねる」10月17日(雨天)中止(予備日10月24日(休)集合)加太駅10時15分(コース)加太駅・山田池・鉢巻山・少年自然の森・淡路神社・加太駅(約7分)参加自由・無料、南海テレホンセンター106(6643)1005

▽陸奥ヘルシーハイイク「天野街道を歩く」10月27日(雨天)中止(集合)りんかんサンライン・千

代田駅10時(コース)千代田駅・寺ヶ池公園・天野街道・陶器山・金剛駅(約10分)参加自由・無料(南海テレホンセンター106(6643)1005

▽堺駅長推薦「紀ノ川筋を一望しながら秋の旧高野街道に沿って歩く」10月28日(雨天)中止(雨天予備日11月4日(日)(集合)高野下駅10時20分(コース)高野下駅・作水・土石橋・河原峠(散策)ゆめさきトンネル・如意寺・学文院(約9分)参加自由・無料(南海テレホンセンター106(6643)1005

**京阪**

▽スボニチファミリアハイイク「静原・箕粟ヶ岳」9月2日(雨)小雨決行・雨天中止(集合)叡山電車駅馬車9時30分10時(コース)鞍馬駅(受付)一薬土坂・静原・村松分岐・箕粟ヶ岳・笠貫坂・尾根道・叡山本駅(約12分)参加自由・無料、京阪電鉄ハイキング担当06(6947)370

2

▽比良連峰アタック「寒風時・釈迦岳」9月16日(雨)小雨決行、雨天中止(集合)JR近江宮駅9

時10時(コース)近江高島駅(バス)寒風橋・寒風峠・ヤケ山・大石・タンヤマの頭・ヤケ山・フジハゲ駅運送カラ后山・比良ロッジ・山ノ根(比良ロープウェイ・リフト)山麓駅(バス)JR比良駅(約10分)参加自由・参加費大人2000円小人1000円(往復バス代、ロープウェイ・リフト代含む)、京阪電鉄ハイキング担当06(6947)370

2

▽スボニチファミリアハイイク「高野・清滝・嵐山」10月7日(雨)小雨決行、雨天中止(集合)三条駅地上コンコース(京都市バス)9時10時30分(コース)三条駅(バス)西山宮前・月輪寺分岐・清滝・養台(バス)止野念仏寺・尊徳前・鶴山公園・渡月橋・松尾大社・月読神社・鈴虫寺・京都バス古寺駐車場(バス)三条駅(約13・5分)参加自由・参加費大人7000円小人3500円(往復バス代含む)、京阪電鉄ハイキング担当06(6947)370

▽比良連峰アタック「打見山・金蕨峠」10月14日(雨)小雨決行、雨天中止(集合)JR志賀駅8時40

分19時40分(コース)志賀駅(バス)山麓駅(ゴンドラ)山頂駅・打見山・木戸峠・比良岳・嵐川・鳥谷山・嵐川越・南比良峠・金蕨峠・山麓(ロープウェイ・リフト)山麓駅(バス)比良駅(約6・5分)参加自由・参加費大人2700円小人1350円(往復バス代、ゴンドラ・ロープウェイ・リフト代含む)、京阪電鉄ハイキング担当06(6947)3702

**比良ロープウェイ**

▽比良山平日ハイキング「小川新道・ススキのコヤマンボ」9月20日(休)・28日(雨天)の場合短日に順延(集合)JR比良駅8時45分19時15分(コース)比良駅(バス)山麓駅(リフト・ロープウェイ)山頂駅(リフト)山麓駅(バス)比良駅(約6分)参加費2500円(リフト・ロープウェイ・バス代含む)定員各日共100名(1ヶ月前より電話申込制)(申込込)比良ロープウェイ事業課077(596)0516

▽比良山平日ハイキング「紅葉の約薬岳・武奈ヶ岳」10月18日(休)・24日(雨天)の場合短日に順延(集合)JR比良駅8時45分19時15分(コース)比良駅(バス)山麓駅(リフト・ロープウェイ)山頂駅(リフト)山麓駅(バス)比良駅(約7・5分)参加費2500円(リフト・ロープウェイ・バス代含む)定員各日共100名(1ヶ月前より電話申込制)(申込込)比良ロープウェイ事業課077(596)0516

**江若交通**

▽エビジヤクMtハイキング「ススキのキノコと藤・赤坂山」10月5日(雨)雨天中止(集合)JR安曇川駅9時(コース)安曇川駅(バス)馬河林道口・明王丸・不動尊・赤坂山・フナの本平・マキノ高原(バス)近江金津駅(約10分)参加費1700円(バス代含む)電話申込制(1ヶ月前より受付)(申込込)江若交通本社077(573)2701

▽エビジヤクMtハイキング「江

栗の若生・フナ原生林散策」10月17日(雨)雨天中止(集合)JR安曇川駅9時(コース)安曇川駅(バス)若生跡出合・ナクボ峠・三國峠・長谷合作事務所・新の本平・地蔵峠・生杉(バス)安曇川駅(約8分)参加費3000円(バス代含む)電話申込制(1ヶ月前から受付)(申込込)江若交通本社077(573)2701

**京福電鉄**

▽京福ハイイク「比叡山・雲母坂」10月28日(雨)雨天中止(集合)ケール八幡遊園駅前10時(コース)ケール八幡遊園駅前・御膳神社・赤山神社・きさら橋・水鏡対岸(約9分)参加自由・無料、京福電鉄管理課075(80)5315

**叡山電車**

▽北山ウイークターハイキング「山幸橋・夜泣峠」9月5日(雨)雨天中止(集合)市原駅9時30分(コース)市原駅・山幸橋・雲々畑分岐・夜泣峠・大岩分岐・富士神社(二ノ瀬駅)約8分)参加自由

由・無料、叡山電鉄鉄道部076(781)5121

▽北山ウイークターハイキング「アソガ谷・扶養橋」10月3日(雨)雨天中止(集合)貴船口駅9時30分(コース)貴船口駅・貴船神社・奥宮・奥貫御所・アソガ谷・旧花井峠・百井別荘・扶養橋・鞍馬(約11分)参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(781)5121

5121

▽北山ウイークターハイキング「静原・瀬原湖山」10月31日(雨)雨天中止(集合)鞍馬駅9時30分(コース)鞍馬駅・奥土坂・静原・江文村・養台峠・瀬原湖山・上高野分岐・八幡前駅(約11分)参加自由・無料、叡山電鉄鉄道部075(781)5121

**京都バス**

▽京都北山三角点トレック「雲取山・天狗ヶコース」10月8日(雨)雨天中止(集合)大井町(大)に延期(集合)京阪中出前橋駅コンコース8時10時30分(コース)出前橋駅(バス)花苅高原前・寺山峠・雲取山・三角点・丹生・旧花井峠・天狗ヶ三角点・花井峠(バス)

出町駅(約10分)乗換(同) 定員各  
日共300名(1ヶ月間)電話  
申込制)参加費無料(バス代別添  
(車込先) 京都バス運輸部営業課  
075(871)7521

**阪神電鉄**

▽朝日・五枚線リレーウォーク  
明石海峡望海ウォーク第3弾21  
世紀から太古へタイムスリップ  
9月23日(祝)定期(短距離の場合  
は9月24日) (集合) 須磨浦公  
園(山陽須磨浦公園駅下車すぐ)  
9時~10時30分(コース) 須磨浦  
公園東広場→官公橋→平磯緑地→  
マリンピア神戸→アジュール舞子  
→五色塚古墳→若菜公園→大蔵山  
遺跡公園 あかし大蔵海岸→明石  
天文科学館→山崎丸内駅(約13  
分) 参加自由・無料(入場料等は  
別途、阪神電鉄運輸部営業課0  
6(6457)2222

**神戸電鉄**

▽神鉄ハイキング「紅葉谷と六甲  
山カンツリーハウスハイク」 9  
月16日(雨)中止(集合) 鼓ヶ滝  
公園9時30分(有馬温泉駅南約1  
km) (コース) 有馬温泉駅→紅葉  
谷→極楽茶屋→カンツリーハウス

一(八甲ヶ原)山上駅(約8分)一  
般回)参加自由・無料 神鉄観光  
事業課078(621)0321  
▽神鉄ハイキング「御所大蔵摩  
供ハイク」 10月8日(雨)中止  
(集合) 線が丘駅10時10分(コー  
ス) 線が丘駅→青山→宮家の金水  
→とっこいさん→千体地蔵→御所  
院→神姫バス御所院口→線が丘駅  
(約19分) 一般回)参加自由・無料  
神鉄観光事業課078(621)  
0321

**山陽電鉄**

▽神鉄ハイキング「こもり谷と  
丹生山ハイク」 10月21日(雨)天  
中止(集合) 藤原駅9時30分(コー  
ス) 藤原駅→藤原古遺→藤原→こ  
もり谷→シビレ谷→丹生山(丹  
生神社)→丹生宝庫→市バス丹生  
神社前→箕谷駅(約13分) 熟練者  
回)参加自由・無料 神鉄観光事  
業課078(521)0321

**山陽電車**

▽山陽ハイキング「巖坂山からお  
らら山へたそがれを歩く」 9月  
2日(雨)中止(集合) 須磨浦山  
上展望園前(須磨浦公園駅下車  
18時30分(コース) 須磨浦山上展  
望園前→旗茶山→鉄拐山→おらら  
山→須磨寺(横中電灯必携、約5

※家族回)参加自由・無料、須磨  
浦展望園ハイキング係078(73  
1)2520  
▽山陽ハイキング「明石海峡を望  
海し明石西公園へ」 9月16日(雨  
天)中止(集合) 平磯芝生広場  
(乗車水駅下車) 10時(コース)  
平磯芝生広場→マリンピア神戸→  
アジュール舞子→大蔵海岸公園→  
明石港→萬の相違→明石西公園→  
西新町駅(約11分) 一般回)参加自  
由・無料、須磨浦展望園ハイキング  
係078(731)2520

▽山陽ハイキング「御津町イモ掘  
りハイク」 9月30日(雨)天の  
場合10月7日(同) (集合) 山陽網  
子駅下車西約0.3km 福保川河川  
敷右岸10時(コース) 福保川河川  
敷右岸→高松神社→成山新田(い  
も掘り)→龍門寺→大覚寺→山陽  
網子駅(約10分) 家族回)参加自由・  
無料、須磨浦展望園ハイキング係0  
78(731)2520

▽山陽ハイキング「日岡山公園と  
新井緑道ハイク」 10月21日(雨)  
天中止(集合) 高松駅下車北東0.5  
km 聖川河川敷公園10時(コー  
ス) 加古川河川敷→水宮橋→日岡  
山公園→新井緑道→浜宮大神社→  
浜の宮駅(約15分) 一般回)参加自

# せせらぎ

題字・小林政三

「花を求めて」  
5月4日、飯田トンネル西口か  
ら峠に登り、花を求めて焼尾山ま  
で歩いた。岩壁には少し早く、岩  
間隙には少し遅かったため、一面  
の花とはいかなかったが、なかな  
かの静寂だった。石楠花が見頃で、  
花の下でお経をした。片栗や山蒲  
蕪等の花の他、種が飛んだあとの  
草花や蘆荊草の葉も見られた。  
5月13日、水越峠から霞城山に  
登った。さすがに車が多く、午後  
には大森側の車道入口まで駐車車  
両が詰っていた。松取を朝6時半  
に出で正解だった。急峻には、藤・  
銀杏・吊花・花菱などが咲いてい  
た。峠道の段の高さには閉口し  
たが、ほぼ満開の裏面には大満足  
だった。

5月20日、吐山の輪廻を見に行っ  
た。少し早かったが、可愛い雲形  
の花が開いているのもあった。鳥  
見山展望台から、いつか登りたい  
と思う山々を眺めながら、お昼ご  
飯を食べた。(鈴木伸人)

5月初旬、六甲山系の摩事山へ  
登った。天狗道経由であるが、今  
回二度目にして初めて三角点の存  
在を確認した。この三角点は、無  
線中継所の広場から右手に登った  
所にあり、縦土路から離れている  
し道標もない。それ故訪れる人も  
少なく、静かに山頂気分を味わう  
ことができた。

登る途中で、すれ違う登山者た  
ちに在り場所を聞いたのだが知る  
人はいなかった。これは大阪・奈

鳥居境の生駒山登山でもそうだっ  
た。生駒では、最後に山上遊園地  
の係員に聞いて、三角点の存在を  
確認することができた。

三角点を撮ろうとする時、困る  
のはグループ登山に遭遇したり、  
団体登山に加わった時である。

京都大原三山の焼杉山では、頂  
上を占拠しているグループにお願  
いして三角点に載せてある荷物を  
返してもらったり、鈴鹿連峰の雷  
ヶ岳では、団体登山の全員が立ち  
去るのを待ってシャッターを切っ  
たりした。後者では、三角点と、  
少し離れた所に立つ小地蔵を一枚  
に収める構図に執着したからであ  
る。その代わり、最後尾となって  
係員に迷惑をかけた。

一國変わった三角点としては、  
京都愛宕山のもの挙げられる。  
小さい百景製の円盤であり、めず  
らしい形式として注目させられ  
た。

最後に、九州阿蘇山五岳の、火  
口東の高岳・山岳と火口西の黒帯  
子岳に登った時のこと。荒々しい  
溶岩石が堆積し、登山者も多かっ  
た前者とは対照的に、秀麗な山容  
を持つ黒帯子岳では、しつとりと  
した千道のおたやかな登り。キリ

由・無料、須磨浦展望園ハイキング  
係078(731)2520

**三岐鉄道**

▽鈴鹿の山を歩こう「秋桜ハイキ  
ング」 10月20日(雨)天中止(集  
合) 近鉄富田駅9時09分発三岐鉄  
道乗車(電車) 梅戸井駅9時31分  
受付(コース) 梅戸井駅→東員町  
役場前コスモス畑→徳島神社→  
平野神社→伊坂ダム→睦学園前駅  
(約15分) 参加自由・参加費20  
0円、三岐鉄道鉄道部運輸課05  
93(64)2143

○新ハイ関西サービスチェーン

|                                                                                                                                                       |                                                                                                                               |                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                       |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>名簿：二岐山 小戸森→大由森→甲<br/>子→岩手への登山道<br/>の駅連絡所(愛宕山) 須磨浦展望園と内務</p> <p>福島・二岐温泉<br/>日観連 大和館</p> <p>〒730-0303 福島市<br/>電話 0248-6412204<br/>F 0248-6412204</p> | <p>富士登山・京十五福<br/>東山自然歩道<br/>石切山・ハチマキ神社</p> <p>二岐山の駅<br/>マンション ロットンテール</p> <p>T401-0500<br/>山梨県南都郡山中瀬村平野<br/>電話 0555-18515</p> | <p>大森・須磨浦展望園から須磨浦展望園<br/>(須磨浦展望園あり)<br/>バス30分(山)下車徒歩10分</p> <p>山小屋 福子やん荘</p> <p>T401-0303<br/>山梨県山中瀬村平野<br/>電話 0555-14179215</p> | <p>尾瀬 平ヶ岳尾瀬と約りの山小屋<br/>尾瀬三山(尾瀬公園内)<br/>清四郎小屋</p> <p>4人もの三行そば(尾瀬は<br/>海)</p> <p>T346-0000(新橋)<br/>尾瀬三山(尾瀬公園内)<br/>電話 0995-22222<br/>尾瀬外(11月14日)は<br/>0995-92215020</p> |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

シマツツジを眺めながら到着した狭い頂上の中央では、二角点が遠いところまでさうこまで通えてくれた。そして遠くこのない展望を満喫しながら三角点に手を付いてあいさつし、頂上標本板を背景として一緒に撮った写真は、山歩きの大記念となった。

(東谷 忠)

6月の上高地は、昔りんご畑を作る夢を持った地元の人々によって、台木として植えられた小梨(ヌミ)の花が満開だった。徳本峠から霧沢岳を眺望を兼ねて登った。山頂からは、雲を散りばめた穂高湖峰が目の前に広がった。

山麓でみたサンカヨウやニリンソウの白い花々も初夏ならではの美しさである。

山をおりた後は、梓川ほとりの岳沢が見える場所まで登り、カラ松の梢越しの星空もよかった。

地元の人と話をしたら、4月頃には、河内橋から沢をつめて六百年へ登り、霧沢岳まで「ちよっとと散歩」と言わくそうだった。

翌朝、ウニストーン広場から霞沢岳と六白山を見上げた。

霧沢岳に初めて登った時は、目の前の八右衛門沢からだった。とても懐しく思われた。爽やかな風を感じながら、バスターミナルへと向かった。

(藤井典子)

6月2日、三方所山へ登った。早春の花と初夏の花の咲き期で、花と結実には種類に多くはなかったが(60種程)、初見が数種あった。

小生は60歳までに登りたい山が五つあるが、その一つ霧ヶ岳が北に見えていた。

他の四つは三国ヶ岳・白山の三ノ峰・三俣連華岳・三回山である。

山好きの方ならもうお気付きだろうが、小生の住む岐阜県と環境を接する三俣連華の山々である。

三俣連華はもつと二つあるが、遊覧・三重の三回岳は既に登っているし、要知・三重の境は長良川の川中で山はない。

毎年一山は登りたいと思っていて、今年には秋に三回ヶ岳へ夜叉ガ池から登る予定である。

(山田明男)

「幸せしてあげね」

月山山をおりたとき、2人の女性の会話が耳に入ってきた。そう、私も幸せしてる。きょう山に来れたことがとっても幸せ。

5月の美濃の山はほんとうに素敵だった。開きかけのハウチワカエが赤い花を付けている。青空に透き通る匂い葉。「赤ちゃん、葉っぱは赤いのね」「人間の赤ちゃんも赤いよね」

一つ一つの思いをそっと言葉に出し合っている心弾ませ歩く春の山。仲間と喜びを分かち合うことで、喜びが風船のようにふくらんで胸がはじけてしまおう。一人歩きもいけれど、みんなと歩く山は最高。

昼食時は食べ物が飛び交う。人様のご馳走をいただき顔はほころびっぱなし。

山をおおう芽吹きのおくらみ、真っ白なタムシバが、私たちに幸せを運んでくれた。大きな樹の水もね。

7月25日、中庄谷直「日帰り縦走」(ナカニシヤ田原)のコース。あしがれの伊吹北尾根の縦走が簡単にできるというので歩いた。地図は「美東」。

(小田妙子)

7時12分JR京都駅発、8時50分開ヶ原駅から近鉄バスに乗り、9時37分にはあつげなく伊吹山山頂に着く。山頂お花畑をゆっくりめぐり日本武尊像を見る。

10時45分霧ヶ原に取りつき、11時2分P1149に、途中15分位で食事を済ませ、12時50分御座峰1070・15分到着、13時22分大元山1038に、14時00分国見岳1126に、14時50分国見峰と小気味よく歩けた。北尾根ではクサフジ・ノリウツキ・キツリフネ・ウツボグサが見られ、ヒメオドリコソウの群生に百匹以上乱舞していたのはスジグロシロチョウかな。

16時33分本バスの時間まで1時間以上あるので峠でゆっくり休んだ。アスファルト道を歩き出す。道はクネグネ曲がっていて趣い趣い。「ウワー! 開道合わぬー!」徐々に早足になり、ついに走り出す。

バスは16時33分の次は18時26分までない。そこへ遅く軽トラックが通りかかり、乗せてもらって合間にシガミついてようやく間に合った。

拙文を読んでおこうと思われる

方は、前掲のコースタイムを静馬ヶ原から30分ずつ繰り上げていた。ついでながら17時17分近鉄大原駅、17時54分JR大垣駅、19時49分京都駅となる。

(湯浅康夫)

山行短歌

4月30日 入谷・権現谷  
入谷はミヤマハコベにイカリソウ  
男兜隠しにはシヤクヤクの花  
5月12日 栗嶺  
山のお花畑はクマガイソウ  
深山秘境現に遊び  
5月20日 御池岳  
丸尾やお花ヶ池やおオイタヤ  
メイゲツリンの新緑は映え  
5月27日 霧ヶ岳・水鏡池  
鏡原はツクバネウツシロヤシオ  
ペンマウダンにイワカガミ吹き  
大台のテラスに仲間を誘え  
6月2日 大元谷・道ヶ岳  
アッシュと切り戻の空が  
霧ヶ岳末路の屋根は西経回  
モヤマカンスゲ萩を覆い  
6月10日 船岡山・奥草山

船向のブナの樹林を丸かじり  
原生林やブナの木平  
山脈は緑の尾根がももこと  
風に吹かれて野洲川ダムへ  
6月24日 磐石の丘・日本コバ  
山脈は秘境の温泉の中  
緑あざやか樹林の中へ  
吹き上げるカスミの切目日傘を上げる  
明神岩の大パノラマが

(若野 明)

山行短歌

4月19日 大和葛城山  
雲々袴をつけてヤブを突っ走る  
武闘派も武装の歩をゆるめ  
4月25日 朝北雲洞谷山  
山よ君は誰のため若葉織り初む  
誰のものでもない空の下で  
4月28日 美濃山  
雪はまだ消えずに神の眠り寝む  
遠き頂上へコブいくつ越ゆ  
4月28日 美濃大杉山  
夕日に染まる野を友と想らん  
過去形の中の一筋の道を  
5月8日 日野嶺掛谷  
石棚花と薄いずれが君に似合う  
雨上がり花園をめぐり来て  
5月17日 大和葛城山  
あした天気になれと祈りし頃の  
紅の霞を去しく霞せてまれ

ハイカーの密・池の平温泉  
ナガサキロッジ  
百名山を二つ登れる山小屋  
黒沢池ヒュッテ  
〒949-1210 新潟県中  
頸城郡妙高町池の平温泉  
0255-1612261

休養食入浴も欲  
10名以上マイクロボスで送迎  
福 島 館  
〒250-0631 神奈川県足  
柄下郡根府川町根府川1-3-1  
0460-149941

「甲斐駒ヶ原」の静寂 レトロな宿  
眼下に河津川の清流  
湯ヶ野温泉 湯ヶ野荘  
バス運行時間外は送迎いたしません。  
天城峠・土池・河津駅等  
〒413-0507  
静岡県賀茂郡河津町湯ヶ野83  
05528-2517225

四重峠りなす葉巻温泉のハイク  
上宿地・乗鞍岳へ 冬はスキー  
けやき道り味の宿・日鏡連  
温泉旅館 けやき山荘  
〒380-1500  
長野県上田郡安曇村葉巻温泉  
02663-1912655

さわやかな宿  
霧大風呂 山吹の湯  
湯田中温泉(穂波)  
日野屋旅館  
〒381-0400 長野県上  
野市日野山内町湯田中温泉穂波  
02669-333578

標高2000m以上の温泉  
霧の丸高峠自然休養林  
ハイキングにXCSキー  
高 峰 温 泉  
〒384-0000  
長野県小谷町高峰温泉  
02667-2512000

ハイキングにノスキーにノ  
志賀高原 石の湯ロマジ  
バス 熊の湯温泉床草車  
0269-342421  
東京本社・東京都新宿区新宿3  
1-20-15(新大塚ビル)  
時スポーツウェアビス  
03-5341-0211

根府川温泉・八方根まで車7分  
白根村内全通バス  
スノーシュー&歩くスキー開催  
大人たちのメソッド  
白馬・ウイナルマ  
〒370-0601  
〒370-0601  
長野県白馬町白根温泉高野原  
0266-341111  
http://www.yukinoyaki.com/

5月21日 奥蔵冠山

ブナに吹く風がタクリの花の群

縦峰へつづく恋しき尾根よ

5月28日 大石有馬山

無為の日々連れ来て木々仰げば

明るい未来へ励ますうた

6月1日 北嶺有馬山

花鳥歌吹き始めてもうすぐ梅雨

池のほとりて愛いに沈む富士

6月7日 伯耆大山

ブナ林越えれば無彩色の木道に

霧は空と地の境目を無くし

6月17日 北直見登山

ササユリ咲く道端の見える尾根

はほ笑みかける風は恋人

(木村太郎)

山は、生きものたちの活動の季節を迎えている。

私は、ハチの中でクマバチ(クマバチ)がとも好きである。肉食性で集団生活をなし、しばしば人間が襲われてニュースとなるスズメバチ類と異なり、クマバチは単独生活で花から花へと蜜を求めて飛翔する。黒毛に被われた大きな体に似合わず性格も溫和で、いわば、気は優しく力持ちというイメージのクマバチが吸蜜する姿は、大変愛らしい。

ボチボチと賑やかに歩き続けたいものである。(須藤岡 稿)

名古屋から電車を利用しての日帰りの山も、東海の山となると、関西からは大垣駅までなら来れるが名古屋駅までは集客時間間に合わないということもあってか、少人数での山行が続いている。少人数だからといって山が平凡なのかというとそうでもない。7月8日の二河の明神山は愛知の山ではめずらしく、岩場・鎖場・鉄梯子を登れば馬の背の岩尾根などがあり、岩稜と岩稜が縦く登りがいのある山として知られている。

この明神山に6名で行ったのだが、関西からの名乗てくれました。この2人は、お金よりも明神山の持つ山の魅力に引かれて来たのでしよう。砂原さんは前日の暮見リーダーの夜叉ヶ池のあと大垣で泊まり、緒力さんは京都から新幹線で来ました。

新幹線が名古屋駅に着いてから東海道線への乗り換えが6分しかなく、うまく乗り継げるかどうか心配で南出口で待っている間、時

貴、ハイキングの最中にクマバチに出会うや喜々として飛び回り、他のメンバーはただ呆然として眺めていたという事件(?)を起こしたこともあった。

本誌の山行計画欄の自然観察山行の案内には、いつも「自然観察と写真撮影に伴う不規則な歩き方が苦にならない方を参加ください」という注釈をつけている。時として(へい?)、歩くペースが参加者の予想より速いときがあり、看板に湧きありという苦情をいただくことがあるが、このもっともらしいコメントも、実のところ、前記のような事情が隠されていると理解していただければ幸いである。

また、山行に参加された方のなかには、植物名などがなかなか覚えられないと自然にされる方もおられる。確かに、自然と親しくするために(草木など)の名を覚えることが必要だが、単に物知りになるのではなく、相手を通して自然の摂理の面白さ、不由縁さに感動し、そういう中で名前を知ることが大切だと考えている。その一つの手立てとして、いつもルーペを携帯することをとお勧めする。

計ばかり見ていた。緒力さんを持っていく間、これは市での山行ではけっして経験できないドキドキハラハラの、今にして思うと楽しい一瞬だったと思う。

思い出ば山を歩くだけとは限らないで、こんな小さなことでも心に残っていくんだなあと思いた。

(小出良善)

ずぶ濡れでくたくたでようやく今夜の山小屋到着。そんなときに知り合った山小屋のA・Mさんからの温かい手紙です。この度は昨夏の北アルプス縦走上巻の難関にきて、冬道での登山を楽しんで頂けたことと書いています。そして美味しいチョコロールを今年も頂きありがとうございます。早速スタッフ皆で頂きました。お礼の手紙が送れましたが、先日六月十一日に荷揚げのヘリコプターで届きました。

今こうしては新緑で新芽が芽吹き美しい緑色の山に変わってきました。また山頂には草花がありすが、赤い花のつぼみはつぼみばかり夏山に変わってきています。今はまだ毎日のんびりした日々

めする。(暮見守康)

近ごろ、歳について考えることがあった。これまでも他人ごとであったのが年毎に歳が増してくると、ボチボチ自分がこととして考える時期がきたのではないかと。

年に数回「新ハイの山行」案内をさせてもらって思うに、先輩も多くいらっしゃるのに、それを感じさせない雰囲気がある。参加される仲間には、体力的な衰えはいたしたくないとして、日々の努力が街行く同輩をしのぐ若さを感じさせるのである。

なぜ、と問われると困るが、歩く昨日までのストレスが消えてしまつたと、ご飯が旨い。仲間ができ、お喋りに花が咲く。次の山行計画を練り実現への努力と夢がある、などが若い雰囲気を感じさせているのである。この仲間と一日を共に過ごすことで、われにプラスすることを十分に感謝している。昔から英気をいたただけでなく、これからは朝の爽やかなあじまつ山行のスタートに、他人を思いやる気持ちでいたい。すでに野山を駆け回る脚力はない、

を越していますがもう三週間もしたら夏山シーズン到来です。昨夏に出会った時のようにお客さまから喜んで頂けるようなお手伝いのできたらと思っています。

この仕事に限らずですが、大変な時もあります。自分の行きずりでも、その笑顔と語りで私たちは心が和みます。そんな気持ちから私たちが和みます。お客さまからの笑顔で、「ありがとう、頑張ってください」というその言葉が聞けることでその日大変だったことは忘れ、また頑張ることが出来ます。また山歩きでのエピソードや感動したことなど聞かせてください。私は秋の小底閉めまで登山はできませんが、それ以降で歩ける山へ行こうと計画中です。でもその頃には甲が恋しくなるかもしれません。

それでは毎日の健康管理に十分気をつけてこれからも楽しい山歩きを続けてください。

某山小屋・A・Mより (南 響子)

塩の道 千園街道 百八十七体「観音原」ホテル

白馬フランチエ 〒399-0900

塩野北安曇郡白馬村いわたけ 02661-72-4462

八ヶ岳南麓北の中心地 59年秋新築の豪華な全館個室 木の香気の新浴室養生木造湯

オーレン 小屋 1泊2食付き 6000円 4月〜11月大浴敷

〒399-0213 茅野市豊平2720 小車勇夫 02666-72-12279

北八ヶ岳の登山基地 冬はスキー JR茅野駅、北八ヶ岳登山口まで送迎します。

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

茅野市 茅野市 茅野市 茅野市

### 山行計画 (9・10月)

新ハイキングクラブ

このページの山行計画には、「会員に限る」と特記してあるのは、会員外の方でも参加できます。一人ずつ往復ハガキに記入例によって必ず出発の7日前までに到着するように申込み先に申し込んでください。電話・FAXでの申し込みはお断りします。「費用」のほかに参加費としてその他の資料代費をいただくことがあります。山行申し込み後参加できなくなった場合はすぐ係に連絡してください。休日の悪い方、幼児と飛び入りはお断りします。例会の参加者全員に傷害保険がかけられています。出発直前の際、係に保険料日額50円と救援対策費日額50円合計100円(夜行日帰りの場合は2日になり200円)を支払っていただきます。傷害保険特約内容は次の通りです。(安山火災海上保険会社と契約)

- 死亡・後遺障害保険金額 1000万円
- 入院保険金 5000円
- 通院保険金 日額 2500円

保険の対象は集合時から解散時まで。事故があった場合は解散までに係に申し出て下さい。この保険に該当しないものは次の通りです。①ビッケル・6本以上のアイゼン・ザイル・ハンマー・ワカンを持参することを明記した山行 ②スキー使用の山行 ③沢・岩・氷雪登山を目的とした山行 ④荷揚げ場の事故 ⑤病死の発生(詳細は係まで)

### (記入例) (往復ハガキを使用)

**山行き申込み書**

山行名 (正確に記入すること)

期日

住所 〒

氏名

会員番号  
(会員でない方は会員外と記入)

電話番号

生年月日

緊急時の連絡先 TEL  
(山行中の連絡先を記入)

返信ハガキの宛名欄にご自分の住所氏名と「様」までを記入してください。

**自然観察山行**  
美濃・魚金山(一般向き)  
期日 9月1日出 日帰り  
集合 JR大垣駅8時40分  
コース 大垣駅(バス)のりこし 高尾山・魚金山・高尾山のりこし(バス) 大垣駅(解散)  
費用 約3500円(大垣駅からバス代等)  
地図 2万5千・樽見・谷汲・谷合  
係 ◎警見守康  
申込み 〒504-0888 各務原市蘇原村雨町1の10の5 警見守康まで  
\*定員30名

奥美濃の入口にあたる山。峠から少しやぶを削いで歩きます。自然観察と写真撮影に併う不規則な歩き方が苦にならない方ご参加ください。小雨決行

六甲・有馬三山(一般向き)  
期日 9月2日(日) 日帰り  
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分/②JR福知山線三田駅南出口10時05分  
コース 神戸電鉄三田駅(電車)

**山行例会の実施について**  
山行例会は保険を掛けたり、登山届けを提出しますので、実施日の7日前までに上記記入例の通り、必ず往復ハガキで申し込んでください。人数により前もって、バスなどをチャーターする必要もあります。また山ではいかなる事態が発生するかも緊急連絡先など、記載すべき事項はもれなく記入ください。申し込みの返信案内は細目が決まり次第、山行日の10日前頃からします。早くに申し込みされた方はそれまでお待ちください。定日のある計画は先着順に受け付けます。

記載のグレードは、常日頃山歩きに親しんでおられることを前提にしています。

- (初心者) やさしいコース
- (初級) どなたでも歩けます
- (一般) ハイキングの標準コース
- (中級) かなり経験者のコース
- (やや難関) ・(難関) は、危険な所があり、キツイ登りや下りが長く続くコースと、ご理解ください。

**有馬口駅・東山橋・仏谷**  
一仏谷峠・湯涌谷山・灰形山・落葉山・有馬温泉 駅(解散15時30分)  
費用 約3200円(温泉付き)  
地図 2万5千・宝塚・有馬  
係 ◎小山良春  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

**昭文社「比良山系」**  
◎秦 康夫  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

坊村から比良を横断するあたりで比良駅まで(本誌40号参照)。  
雨天中止

**鈴鹿を歩く126**  
太尾・電ヶ岳(健脚向き)  
期日 9月9日(日) 日帰り  
集合 421号線石神峠の西・白谷越道分岐(道) 踏道のミラーの支柱にテープと表示あり) 8時30分  
コース 広場(口谷峠) 太尾ヶ岳 0時15分 白谷峠 白谷峠 白谷峠 白谷峠 谷源頭ガレ場 電ヶ岳西 道面ミヤマカスゲ 藤林 電ヶ岳 石神峠 分岐(解散)  
費用 交通費各自  
地図 昭文社「雲仙・伊吹・阿蘇」  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

**比良を歩く4**  
南比良峠から釜湯岳・北比良峠  
期日 9月9日(日) 日帰り  
集合 JR柴田駅タクシーのり 徒歩8時40分  
コース 柴田駅(タクシー) 坊村 一牛コバ 大橋小滝 南比良峠 釜湯岳 金葉峠 北比良峠 大ケ道 一牛谷口(バス) 比良駅(解散)  
費用 約2400円(京都から) 2万5千・花背・比良山・北小松

太尾の長池に遊び、未踏の電ヶ岳西斜面をトラバースしてミヤマカスゲの疎林から電ヶ岳に突き上げる修験の特別コースです。やぶあり。雨天中止

**湖南アルプス**  
太神山から笹間ヶ岳  
期日 9月9日(日) (一般向き)  
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時35分/②JR石山駅8時50分  
コース 石山駅(バス) 新免・天狗岩 不動寺 太神山 八宮ヶ岳 笹間ヶ岳 上関(バス) 石山駅(解散)  
費用 約1000円(温泉付き)  
地図 2万5千・朝宮・瀬田  
係 ◎小山良春  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

新免からの太神山ルートは、樹林の続く静かなコースです。歴史ある不動寺から八宮ヶ岳に登り、展望のすばらしい笹間ヶ岳まで足をのびします。雨天中止

**ダイヤモンドトレール1**  
二上山から大和葛城山  
期日 9月9日(日) (一般向き)  
集合 近鉄二上神社口駅8時30分  
コース 二上神社口駅 上神社口 分岐 一上山(鐘岳) 一鐘岳 一平石峠 一岩橋山 一本松分岐 葛城山 一権羅ノ滝 葛城山ロープウェイ 一上(バス) 近鉄御所駅(解散16時55分)  
費用 約1400円(大塚から)  
地図 昭文社「葛城山系・二上山」  
係 ◎西上利和  
申込み 〒610-0121 城陽市寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

登り下りの変化あるロングコースですが、葛城山原に涼を求めて360度のパノラマを築む。今回から二回に分けてダイヤモンドトレールを歩きます。雨天中止

近鉄百名山に登る(第31回)  
三層・白猪山(一般向き)  
期日 9月15日(日) 日帰り



集合 近鉄八木駅8時00分  
コース 八木駅(バス)阪内・林道分岐→大塚杉→占猪山→石尊大権取→矢下道分岐→都一郡→大石幼雅園前(バス)八木駅(解散18時30分)

費用 約4000円(貸切バス代)  
地図 2万5千→大河内・橋野  
係 ①村岡智哉 ②長尾裕美  
申込み 〒610-0121 葛城山寺田大群10の10 村岡智哉まで

★キョウやオミナエシの咲く白猪山はびんとした菅原で、大展望が満喫できます。小雨決行

鈴鹿百山21  
雨乞岳・七人山(健康向き)

期日 9月16日(日) 日帰り  
集合 近鉄湯の山温泉駅9時25分

コース 近鉄湯の山温泉駅(車)→武平峠駐車場→沢谷峠→那境尾根→山入山→東雨乞→雨乞岳→七人山→クラ谷→沢谷峠→武平峠駐車場(車)近鉄湯の山温泉駅(解散17時頃)

費用 交通費各名(車代500円)  
地図 2万5千→御在所山  
係 ①山田明男 ②志原孝彦  
申込み 〒503-0535 岐阜県海津郡南濃町松山62の19 山田明男まで  
\*定員25名  
\*マイカーの方はその旨記載ください

鈴鹿第二の高峯南を佐(那境尾根)から登り、尾路に七人山(寄り)ます。雨天中止

三河・鞍馬山から若古谷山(一般向き)

期日 9月16日(日) 日帰り  
集合 ①JR名古屋駅中央改札口7時00分 ②JR豊橋駅飯田線ホーム8時12分

コース JR飯田線本長巻駅→清崎→津津温泉→鞍馬のノル→鞍馬山→コル→御殿岩→若古谷山→堤石峠→和市→田口→木長巻駅(解散) ③須藤 ④須藤  
申込み 〒671-1126 2 姫路市余部区上余部50の2の11 須藤 様まで  
初秋の風や風景を見ながら、のんびりと歩きます。小雨決行

費用 約5500円(背広ワイド使用・名古屋から)  
地図 2万5千→田口・海老  
係 ①小山良春

申込み 〒610-0121 葛城山寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

コースは東海自然歩道ですが、後線からは小川クワのアップダウンが続きます。なかなか行けない山です。雨天中止

近畿自然歩道  
山陽路コースを歩く(一般向き)

期日 9月16日(日) 日帰り  
集合 JR三宮駅東口神姫バス待合所8時20分

コース 三宮駅(バス)→新原→八幡神社→成道寺→志久ノ峠→大池池→北地蔵堂(バス) JR三田駅(解散17時頃)

費用 約2000円(大塚から)  
地図 2万5千→有馬・淡河  
係 ①須藤 ②須藤  
申込み 〒671-1126 2 姫路市余部区上余部50の2の11 須藤 様まで  
初秋の風や風景を見ながら、のんびりと歩きます。小雨決行

期日 9月18日(日) 日帰り  
集合 近鉄原野駅南口10時00分  
コース 橋原駅南口(バス)高井→仏隆寺→唐戸峠→天王橋→腰折れ地蔵→室生寺→室生寺前バス停(バス)近鉄室生寺口大野駅(希望者は、室生寺から東海自然歩道を近鉄室生寺口大野駅まで歩く。解散16時頃)

費用 約2500円(大阪から)  
地図 2万5千→大和天野  
係 ①池本廣治 ②前川和博子  
申込み 〒610-0121 葛城山寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

彼岸花の咲く室生寺道へのんびりと歩きます。仏隆寺では、赤・白・黄・ピンク等の彼岸花を見る事ができます。室生寺の五重塔も立派に修復され、昔の面影を彷彿とさせます。この機会に奥の院まで足をのびたいですね。雨天中止

平日水曜ハイク44  
六甲  
蓬萊峠から座頭谷・護国山(一般向き)

鈴鹿を歩く127  
静ヶ岳・セキオノコバ・鏡ヶ岳(健康向き)

期日 9月18日(日) 日帰り  
集合 阪急宝塚駅バスのりば8時15分

コース 宝塚駅(バス)座頭谷→蓬萊峠→座頭谷→東六甲→緩走路→蓬萊山→岩倉山→阪急宝塚駅(解散15時30分頃)

費用 約1000円(大阪梅田駅から)  
地図 明文社II「六甲・森耶・有馬」  
係 ①岩野 ②岩野  
申込み 〒569-1133 高槻市川西町1の18の20 岩野 氏まで

天下の奇蹟、蓬萊峠(二船さん)の鉄道の舞台となりました。を訪ねますが、登りません眺めるのみ。雨天中止

ファミリーハイク4  
河内・神津峠(一般向き)

期日 9月20日(日) 日帰り  
集合 近鉄奈良駅南口駅前すぐ枝間神社前10時00分

コース 枝間公園→神津峠→万葉集植物園→大塚山→川崎→千光寺→掃地塚→近鉄元山山口駅(解散)

費用 約1000円(近鉄難波駅起点交通費)

地図 2万5千→左駒山・信貴山  
係 ①木村太郎 ②中村友昭  
申込み 〒610-0121 葛城山寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

神津峠の道をたどり府民の森に遊ぶ。牛駒信貴線沿道の鴨川峠を越えて女人山の上の千光寺へくだる。雨天中止

三重の山58  
大杉谷・仙千代ヶ峰(中級向き)

期日 9月22日(日) 日帰り  
集合 ①道の駅・奥伊勢おたのしい(多気郡大台町・国道42号線沿い)8時00分 ②道の駅(重)宮川村・久豆(重)道の駅(遊憩)

コース 仙千代ヶ峰→千丈山→仙千代ヶ峰→倉元橋→久豆(重)道の駅(遊憩)  
費用 1500円  
地図 2万5千→宮川村水池・大杉谷  
係 ①尾崎英正 ②藤田逸夫  
申込み 〒519-0311 鈴鹿市大久保町2065 藤田逸夫まで

都合によりコース変更あります。雨天決行

鈴鹿・天狗堂(一般向き)

期日 9月23日(日) 日帰り  
集合 ①JR名古屋駅中央改札口6時15分 ②JR近江八幡駅近江鉄道ホーム8時15分

コース 近江八幡駅(電車)八日市駅(バス)永源寺車庫(バス)君ヶ畑→赤井橋→登山口→天徳堂→アカマンの台地→共同アンテナ→大宮地蔵神社→君ヶ畑(バス)永源寺車庫(バス)八日市駅(解散16時45分頃)

費用 約2000円(名古屋から)  
地図 2万5千→竜ヶ岳  
係 ①小山良春  
申込み 〒610-0121 葛城山寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

木地師發祥の里にそびえる天狗堂へ。山頂の六角亭からは雄偉の山々の展望がすばらしい。雨天中止

鈴鹿を歩く127  
静ヶ岳・セキオノコバ・鏡ヶ岳(健康向き)

期日 9月24日(日) 日帰り  
集合 茶屋川林道・折戸トンネル手前静ヶ岳のヘリポート8時30分

コース ヘリポート(車)→文治谷→手前静ヶ岳→623号1814号→1047号→静ヶ岳→セキオノコバ→鏡ヶ岳→静ヶ岳→茶屋川林道→茶屋川林道→広場(解散)

費用 交通費各名  
地図 明文社II「茶屋川・伊吹・藤原」  
係 ①岩野 ②山田賢三  
申込み 〒610-0121 葛城山寺田大群10の10 新ハイキング関西まで

茶屋川林道から尾根に取りつき、静ヶ岳とセキオノコバの二つの池を越えて、鏡ヶ岳から静ヶ岳林道へくだる。すばらしい樹林の山旅です。(32号53ヘリ参院)。雨天中止

北山ちよつと歩き25  
川登橋から松尾林道・高嶺へ

(一般向き)

期日 9月26日(日) 日帰り  
集合 京都駅正面JRバス嵐山  
行きのりば8時00分(8  
時10分発に乗り)

コース 京都駅(バス)川登橋―  
奥山谷―松尾林道―高雄  
―東海自然歩道―清滝  
(解散16時頃)

費用 約1500円(京都から)  
地図 関文社「京都北山」  
申込み 610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

重要なお知らせ  
海自然歩道を清滝まで歩きます。  
雨天中止

自然観察山行2  
木曾・御嶽山(中級向き)  
期日 9月29日(土)30日(日)  
1泊2日

集合 29日 JR岐阜駅8時  
50分  
コース 29日 岐阜駅(バス)  
田の原―土流原上―剣ヶ  
峰―梵明堂(泊)  
(30日) 梵明堂―二ノ池  
―三ノ池―飛騨頂上―瀧

費用 約2800円(交通費各  
自)

地図 5万2千尺  
申込み 寺井恒夫 ○川上夕佳  
〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

河温泉(バス)岐阜駅

費用 約2000円(岐阜駅  
からバス・宿泊代等)

地図 関文社「御嶽山」  
申込み 504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名(8月31日ま  
で)

王滝口から登峰・御嶽に登り、  
瀧河温泉にくだります。3000  
歩を超える独立峰の大展望と高山  
の秋を楽しみます。

雨天中止(コース変更あり)  
生駒・生駒山上から大原山  
(一般向き)

期日 9月30日(日) 日帰り  
集合 ①近鉄名古屋駅北口6時  
30分/②近鉄生駒駅中央  
口9時55分

コース 生駒駅―宝山寺―生駒山  
上―大阪府民の森なるか  
わ園地―大原山―鳴川峠  
―千光寺―元山上口駅  
(解散15時30分)

費用 約4900円(名古屋か  
ら)

東濃根・横根・西濃根  
―摩栗谷林道―五瀬集落  
(各車)各集合(解散16  
時頃)

費用 交通費各自(年代1000  
0円)

地図 2万5千尺  
申込み 山田明男 ○高尾芳彦  
〒503-0535  
岐阜県津市南濃町松山  
624の16 山田明男まで  
\*定員25名  
\*マイカーの方はその旨  
記載ください

紅葉にはまだ早いでしょうか。  
爾降越えの五瀬峠には自動車が  
できて風情を失いましたが、山は  
昔のままです。雨天中止

比良・藻葉山から雲山山  
(一般向き)

期日 10月7日(日) 日帰り  
集合 ①JR名古屋駅中央改札  
口6時35分/②JR湖西  
線志賀駅9時40分

コース 志賀駅(バス)びわ湖パ  
ー前―金比羅峠―蓬萊  
山―小女郎峠―小女郎ヶ  
池―小女郎峠―蓬萊山―  
雲山山―東原(バス)

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

2万5千尺信貴山

申込み 610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

生駒山上までが少し急ですが、  
あとゆるやかな尾根に沿ったアッ  
プダウンがある程度で、どなたで  
も歩けるコースです。雨天中止

地図 関文社「御嶽山」  
申込み 504-0828  
各務原市蘇原村雨町1の  
19の5 鷺見守康まで  
\*定員20名(8月31日ま  
で)

王滝口から登峰・御嶽に登り、  
瀧河温泉にくだります。3000  
歩を超える独立峰の大展望と高山  
の秋を楽しみます。

雨天中止(コース変更あり)  
生駒・生駒山上から大原山  
(一般向き)

期日 9月30日(日) 日帰り  
集合 阪急芦屋川駅北広場9時  
00分

コース 阪急芦屋川駅―分岐―高  
尾山―若槻子―荒地山―  
風吹山―ロックガーデン  
―高座の滝―阪急芦屋川  
駅(解散)

費用 約5400円(大阪から)  
地図 2万5千尺西宮・宝塚  
関文社「六甲・森邸・  
有馬」

申込み 塚元一彦 ○中村 登  
〒536-0008  
大阪市城東区関目4の14  
の9の901 塚元一彦まで  
\*先着30名(9月28日ま  
で)

わに駅(解散16時頃)  
費用 約4000円(鉄道記念  
きっぷ使用・名古屋から)

地図 昭文社「比良山系」  
申込み 小山良彦  
〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

樹林と静かな池、そして大展望  
の縦走路を歩きます。雨天中止

東濃・富士見台から恵那山  
(中級向き)

期日 10月7日(日)8日(日)  
1泊2日

集合 7日 京都駅八条口近  
鉄改札口付近7時30分  
7日 京都駅(バス)  
神坂峠―富士見台―  
万寿荘(泊)

費用 約18000円(バス・  
宿泊代等)

地図 2万5千尺中津川・伊那  
駒場  
申込み 村田智隆 ○安全止藤  
〒610-0121

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西支部合同

変化に富んだ荒地山からロック  
ガーデンを歩いて地形図とコンバ  
スの使い方の勉強をします。シル  
バー型コンパスと指定の2万5  
千の地図を持参のこと。雨天中止

朽木・経ヶ岳(健脚向き)  
期日 9月30日(日) 日帰り  
集合 朽木村小山橋8時30分  
コース 小山橋(車)桑原橋―経  
ヶ岳―桑原橋(解散)

費用 交通費各自  
地図 2万5千尺久多  
申込み 610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止

新ハイキング関西まで  
岩倉山は展望の良い所、敦賀の  
海がきれいに見えます。インテ  
ィアン平原はササとスキの原がさ  
わやかです。雨天中止





費用 約2800円(大阪から)  
地図 2万5千1野洲  
係 ◎豊元一彦 ○中村 登  
申込み 〒536-0008  
大阪市城東区関4の14  
の9の901 塚元一彦まで  
\*先着30名(10月18日まで)

新ハイキング関西支部合同  
古今集に歌われた近江路の里山  
を歩いて地形図とコンパスの勉強  
をします。下山路の野洲には田中  
山道の面影を残す街道があります。  
シルバー車型コンパスと地形図の2  
万5千の地図を持参のこと。  
雨天中止

鈴鹿を歩く129  
鎌ヶ谷・深谷山・鎌子  
イブネ・ダイショウ(往同向き)  
期日 10月21日(日) 日帰り  
集合 藤切谷旧林道入口7時30  
分

コース 旧林道入口(車) 風越谷  
林道広場 鎌ヶ谷川 水  
舟の池 大峠 深谷山  
フナコボ 鎌子 伊ブネ  
一 佐月峠 アゲンキョー  
ダイショウウーダイショウ  
の池 藤切谷林道 旧林

道入口(車) 風越谷林道  
広場(解散)  
費用 交通費各日  
地図 昭文社「御在所・鎌ヶ  
谷」  
係 ◎吉野 明 ○山田 三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

風越谷林道から鎌ヶ谷川に登り、  
佐月小谷の源流の様子を走り込ん  
でダイショウから藤切谷林道に  
入る。秘境の原根歩き特別ルート  
のロングコース。雨天中止

美濃・燕山(一般向き)  
期日 10月21日(日) 日帰り  
集合 ①JR名古屋駅中央改札  
口7時20分 ②JR岐阜  
駅7時30分  
コース 新岐阜駅(バス) 21世紀  
の森 杉杉 野田製糖  
ス合流点 ロボット雨量  
計小屋 燕山 野鳥観察  
コース 21世紀の森(バ  
ス) 岐阜駅(解散17時30  
分頃)

費用 約5200円(名古屋か  
ら)

係 ◎小出良春  
地図 2万5千1上ヶ瀬  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

巨大な杉林を見て、隠れに取り  
つけば妖怪のよい種木と落ち葉  
の道になる。雨天中止

奈良  
吉野山から鎌ヶ谷山・南岳  
(一般向き)  
期日 10月23日(日) 日帰り  
集合 桜井駅南口バス停8時40  
分

コース 桜井駅南口(バス) 下尾  
口 下尾登山口 下尾  
登山口 吉野山 鎌ヶ谷山  
大宇陀町本郷(解散)  
一 西山岳 岩室バス停  
(バス) 近鉄橿原駅(解  
散16時頃)

費用 約2500円(大阪から)  
地図 2万5千1古市  
係 ◎早本 誠治 ○前川 和博  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
桜井から寺田への古道を巡って  
吉野五山のうち三山に登ってみま

す。古い道ですのだからなくなっ  
ている所もあります。やぶ漕ぎも  
覚悟で参加ください。雨天中止  
北山ちよっと歩き26  
養生講習会・トロッコ道  
(一般向き)  
期日 10月24日(日) 日帰り  
集合 京都駅八条口近鉄改札口  
付近7時00分

コース 京都駅(バス) 佐々里味  
一 藤村成野 トロッコ道  
一 カツラ小屋 一 七瀬谷  
カツラ小屋 一 藤村成野  
須後(バス) 京都駅(解  
散18時30分頃)

費用 約3000円(バス代)  
地図 昭文社「京都北山2」  
係 ◎美山 繁三  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

若生流密林・トロッコ道の水平  
道を紅葉を満喫しながら歩きます。  
雨天中止  
奈良・二上山(一般向き)  
期日 10月26日(日) 日帰り  
集合 ①近鉄名古屋駅北口5時  
30分 ②近鉄関西駅9時

コース 40分  
関西駅 屯鶴峠 穴白峠  
一 二上山 雄岳 雄岳馬  
の背 石光寺 当麻寺  
当麻寺駅(解散15時30分  
頃)

費用 約4200円(名古屋か  
ら)

地図 2万5千1大和高田  
係 ◎小出良春  
申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで  
歴史に包まれた二上山に屯鶴峠  
から登ります。雨天中止

河本  
三國峠(三國岳) から野田畑峠  
(往同向き)  
期日 10月28日(日) 日帰り  
集合 生杉の奥・ブナ原生林駐  
五地9時00分

コース ブナ原生林駐車場 三國  
峠(車) 野田畑峠 シ  
ンノボ 杉尾峠 上谷  
中山 長谷谷作茶小屋  
地蔵峠 原生林駐車場  
(解散)

申込み 〒610-0121  
城陽市寺田大群10の10  
新ハイキング関西まで

ハイキングではなく、麓山行  
になります。頭の中に地形をたた  
きこんでの山行です。深まりゆく  
秋を麓山行で実感します。地図・  
コンパス必携。雨天中止

平日水曜ハイイク45  
奈良  
日蓮山(吉野山) から燕山  
(一般向き)  
期日 10月31日(日) 日帰り  
集合 JR京都駅西口7時37  
分発に集合

コース 近江高麗駅 日吉神社  
登山口 見張山 とうだ  
谷 鳥越峠 オーム谷  
岳山 吉野登山口 近江  
高麗駅(解散15時30分頃  
から)

費用 約1800円(京都駅か  
ら)

湯浅次男まで  
紅葉を期待して、比良の穴場  
(一般向き)を歩きます。  
後半はリトル比良の縦走路を行き  
ますが、足音音が無くなってか  
ら道は少し荒れています。  
雨天中止

週末ハイイク36  
大峠・奥高尾ルート  
行仙岳から前鬼(往同向き)  
期日 11月3日(日) 4日(日)  
1泊2日

集合 ①3日 近鉄大和八木駅  
ロータリー広場8時00分  
②4日 大和八木駅(バ  
ス) 白谷トンネル東口  
行仙岳 飯法峠 平治  
の宿 又は持経の宿(避難  
小屋、分宿)

コース ①4日 小屋 証書熊鷹  
岳 窪形谷 地蔵峠 天  
狗山 太古の辻 前鬼  
林道車止めゲート(タク  
シ) 大和上南沢(解散)  
②タクシー・小屋代等

費用 約12000円(バス・  
タクシー・小屋代等)

**山行報告**  
(5・6月号)  
新ハイキングクラブ74期

**播磨・阿含利山と高尾**

4月28日(日) 29日(月) 1泊2日  
(28日) 晴。1日総集行集合9・30(バス) 阿含利山集合11・40  
引原分岐12・00(昼食) 12・40  
一町尾根13・40 阿含利山14・00  
15・波道越14・50 阿含利山  
落16・15(バス) 福知沢谷休養センター(夕食・入浴) 三万支所

5月3日(日) 小山良香  
\*雨天のため中止しました  
\*雨天のため中止しました  
イブネ・高尾・クラシ・熊子  
(総集を歩く1〜7)  
5月9日(日) ◎岩野 明  
\*雨天のため中止しました

美濃・高尾山  
5月3日(日) ◎小山良香  
\*雨天のため中止しました  
\*雨天のため中止しました  
イブネ・高尾・クラシ・熊子  
(総集を歩く1〜7)  
5月9日(日) ◎岩野 明  
\*雨天のため中止しました

美濃・伊吹北尾根  
5月6日(日) ◎岩野 明  
\*雨天のため中止しました

**北山・焼杉山**

5月6日(日) くもり時々晴れ  
京都地下鉄北大路バスターミナル集合8・50 9・10(バス) 小出石10・01 15 ショクナゲ尾根入口10・35 528 11・46 昼食13・00 鉄塔13・18 24 百井分岐13・36 焼杉山14・34 45 一車道出合15・50 大原バス停16・05(解散)  
ショクナゲ尾根では花を鑑賞しながらの地図読みの軌道 焼杉山

5月6日(日) くもり時々晴れ  
京都地下鉄北大路バスターミナル集合8・50 9・10(バス) 小出石10・01 15 ショクナゲ尾根入口10・35 528 11・46 昼食13・00 鉄塔13・18 24 百井分岐13・36 焼杉山14・34 45 一車道出合15・50 大原バス停16・05(解散)  
ショクナゲ尾根では花を鑑賞しながらの地図読みの軌道 焼杉山

5月6日(日) くもり時々晴れ  
京都地下鉄北大路バスターミナル集合8・50 9・10(バス) 小出石10・01 15 ショクナゲ尾根入口10・35 528 11・46 昼食13・00 鉄塔13・18 24 百井分岐13・36 焼杉山14・34 45 一車道出合15・50 大原バス停16・05(解散)  
ショクナゲ尾根では花を鑑賞しながらの地図読みの軌道 焼杉山

5月6日(日) くもり時々晴れ  
京都地下鉄北大路バスターミナル集合8・50 9・10(バス) 小出石10・01 15 ショクナゲ尾根入口10・35 528 11・46 昼食13・00 鉄塔13・18 24 百井分岐13・36 焼杉山14・34 45 一車道出合15・50 大原バス停16・05(解散)  
ショクナゲ尾根では花を鑑賞しながらの地図読みの軌道 焼杉山

(参加者) 松尾正敏 中尾美智子 藤本桂吉 藤原邦 前田芳久 宮下洋一 森 晴代 名倉マサ子 小田潤子 佐野直江 中嶋日出男 米谷健治 谷 守 高岡真美子 和田直樹 森澤照子 加藤匡計 神野孝九 菊池佳子 ◎中村英雄 ◎宮村孝次郎 ◎小山良香 (計22名)

松本中雄 辻 行子 中尾紀代子 白根啓子 村上高子 太間 隆 竹田善英 中村啓香 岩本彩子 谷 守 菅生孝子 真田明子 角江朝子 加藤匡計 藤原正 湯淺康夫 平政英子 光川 美子 眞匠久子 ◎青木 雄 (計22名) ◎湯浅次男 (計12名)

吉藤孝次 家人敏光 砂原忠美子 三浦弘幸 高木 晋 石井忠美子 森本 謙 森本淳子 山尾美智子 前田 一代 緒方由子 加藤浩一 ◎前川和佳子 ◎島本廣治 (計22名)

沖 伸 小田彩子 草野智雅子 朽名生石 藤原 邦 六戸寛久江 中尾和子 中村幸子 船木裕巳子 中村啓香 中谷孝子 宮村孝次郎 細野敬也 松村祥子 松上美代子 夏山孝子 渡辺輝子 森本真智子 ◎山本宜治 ◎菅見守康 (計22名)

**北山・鎌倉山から峰床山**

5月9日(日) 晴れ  
JR盛岡駅集合8・10 26(バス) 坊村9・10 尾根道平ナナ平10・00 鎌倉山11・05 オグロ坂12・03(昼食) 13・00 峰床山13・25 45 14 14 08 伊賀交子有保 14・35 一萬川学校前15・35 40 (バス) 盛岡駅16・03(解散)  
雨上がりで少し蒸すので合(イマナ忠)は敬遠して尾根道を登った。新緑にすがすがしさを感じ、序近くではシクナゲが満開 峰床山では展望が即け、行分に楽しんで一日でした。

5月10日(日) くもり時々晴れ  
近鉄大和朝倉駅集合9・10 20 1 登山口9・40 二輪山10・35 45 奥不動寺11・00 10 白山11・15 巻向山11・45(昼食) 12・25 1 等間13・00 草王山13・25 45 長尾寺14・40(解散)  
五月晴れとはいえないまでも、まあまあの大候に恵まれ、新緑の薫る大和古国固定公園の、3等三角点(座標)と2等三角点一連に登ることができ、各所から眺める金剛・高城・生駒の山並は、天候のせいかわさく晴んでおり、眼下に大和三山や笠置古墳等の土壇群を見ながらの山行だった。

3月12日(日) 晴れ  
JR大垣駅集合8・40(バス) 長者の里9・45 55 二段の高11・35 15 東尾根分岐点12・00 1 月山12・30(昼食) 13・40 東尾根分岐点14・15 第一リフト分岐点15・30 40 地蔵堂高原百ヌキ 場15・10 20(バス) 大垣駅17・20(解散)  
快晴で気温が高くとも大気は比較的澄み、奥美濃の山々とともに白山・栗嶽・御正が望めた。草木の花も予想より多く、山肌はタムシバの花がいっぱい。遅くまで雪が積ったためか、ホンシクナゲの花の下にイワウチワが咲いていた。積雪の南部の月山山にはオオバキスマイルが咲いていたのは驚かされた。

5月13日(日) 晴れ  
JR彦根駅集合9・10(タクシー) 佐目バス停9・45 1 峰山11・05 1 丸山11・20 高尾山12・10(昼食) 13・30 合尾山13・17 高尾山13・35 1 杉原山14・40 55 杉原山15・10 1 八坂山16・20(タクシー) 彦根駅16・45(解散)  
福岡さんが一枚のコース地図を持ってきたので、丸山から合尾山まで足をのばすことができた。杉原山では彦根で遊覧をしている人に、杉原山からのルートを教えてもらった。春ならば多くの花が咲いているルートのように思えた。

**美濃・高尾山**

5月6日(日) くもり時々晴れ  
京都地下鉄北大路バスターミナル集合8・50 9・10(バス) 小出石10・01 15 ショクナゲ尾根入口10・35 528 11・46 昼食13・00 鉄塔13・18 24 百井分岐13・36 焼杉山14・34 45 一車道出合15・50 大原バス停16・05(解散)  
ショクナゲ尾根では花を鑑賞しながらの地図読みの軌道 焼杉山

5月6日(日) くもり時々晴れ  
京都地下鉄北大路バスターミナル集合8・50 9・10(バス) 小出石10・01 15 ショクナゲ尾根入口10・35 528 11・46 昼食13・00 鉄塔13・18 24 百井分岐13・36 焼杉山14・34 45 一車道出合15・50 大原バス停16・05(解散)  
ショクナゲ尾根では花を鑑賞しながらの地図読みの軌道 焼杉山

5月6日(日) くもり時々晴れ  
京都地下鉄北大路バスターミナル集合8・50 9・10(バス) 小出石10・01 15 ショクナゲ尾根入口10・35 528 11・46 昼食13・00 鉄塔13・18 24 百井分岐13・36 焼杉山14・34 45 一車道出合15・50 大原バス停16・05(解散)  
ショクナゲ尾根では花を鑑賞しながらの地図読みの軌道 焼杉山

○中村英雄 ○福岡 章  
○小出良春 (計19名)

雲仙山から小女郎峠 (比良を歩く)

- 5月13日 晴れ
- J.R.和道駅集合9・05(バス)
- 妙道会館地9・25(40)
- 雲仙山東
- 南尾根10・02(10)
- 雲仙山10・45
- 55(2)
- 東原からの縦走路出合11・15
- 23(1)
- 梅里山12・00(10)
- 水分
- 神社分社12・15(昼食)12・50(1)
- ホッケ山13・08(15)
- 小女郎峠13・34
- 小女郎池13・38(55)
- 小女郎峠14・00(薬師ノ滝15・05(15)
- 2(2)
- 蓬萊駅16・00(解散)
- 本誌連載「比良を歩く」シリーズの第一回。比良山系の南の端、雲仙山からスタートした。2回目以降はリレー式に北上して、最北端の蛇谷ヶ峰まで歩く予定。
- (参加者) 中村啓一 佐々木敏明 宮下淳一 辻 行子 白根淳子 坂口貴司 武部 剛 川北重美子 大谷幸子 里見純生 馬籠忠男 山口博弘 越井洋子 中川正敏 本田博子 ○江副光一
- ◎秦 康夫 (計17名)

○勝ヶ岳・竜ヶ岳(鈴鹿白山山)

- 5月13日 晴れ
- J.R.関ヶ原駅8・20(三枝大宏 9・00各集合(車)宇賀屋社中場 9・20)
- 25(1)
- 林道終点9・50
- 谷分岐10・30(セキオノコバ12・00(昼食)12・35)
- 峠ヶ岳12・45(セキオノコバ13・05)
- クラ分岐13・30(竜ヶ岳13・45)
- 14・00(中道 20)
- 林道分岐15・00(五輪池15・00)
- 林道終点15・50(宇賀屋社中場16・10)
- (解散)
- 快晴の天候で汗はかいたが、ほぼ予定時間まで歩け、勝ヶ岳の池も一カ所水が溜まって三つになっていた。花はカタクリ・イワカガミ・シロヤシオ・シヤクナゲ等で、めずらしいものではワチガインソウも見られた。
- (参加者) 平塚明美 吉藤孝次 本間 隆 湯浅謙夫 湯浅みや子 山藤美英 吉村 昭 草野智穂子 栗木敏夫 岩田育士 島田京子 俣谷礼司 木下朝子 伊藤重美子 西村文男 尾下由子 伊藤寛久男 三井敏一 北川慧子 去戸喜久江 安田良剛 西内正弘 落合ひろ子 原 光一 原 光子 山野志保江 山村善男 井上 幸 島田信彦
- ◎高原芳彦 ◎山田明男(計17名)

- 中峠11・30(水島岳11・55(昼食)12・45)
- 根の平峠13・05(タケ谷出合13・45)
- 大瀬14・15(ヒロ沢出合15・15)
- 天狗滝15・45(白尾谷出合16・15)
- 林道終点17・00(解散)
- すがすがしい五月晴れの心地よいこの日。のなか、白尾谷からハト峰・金山・水島岳へ。360度の大展望を楽しむ。下りは根の平峠・タケ谷出合から神崎川峡谷へ。溪谷の清流に映える鮮やかな新緑を満喫。そして増水した清流を四回連続したのが楽しい思いで、ロングコースも無事元気に踏破した。
- (参加者) 武村千鶴 森本 勝 森本淳子 小林 稔 奥野太一郎 高津賢美 吉岡 仁 的場たか子 大石俊美 桑田勝利 網木美重子 寺井恒夫 永谷鉄治 石田慎由美 田尾 肇 高杉 博 ○後藤敬幸 ○中野孝允 ○谷 守
- ◎山田雄二 (計20名)

大和郡城山 (ファミリー(ハイク))

- 5月13日 晴れ
- 近鉄大和郡城山集合8・40(バス)葛城ロープウェイ前9・30(葛城山)
- 5月13日 晴れ
- J.R.関ヶ原駅8・20(三枝大宏 9・00各集合(車)宇賀屋社中場 9・20)
- 25(1)
- 林道終点9・50
- 谷分岐10・30(セキオノコバ12・00(昼食)12・35)
- 峠ヶ岳12・45(セキオノコバ13・05)
- クラ分岐13・30(竜ヶ岳13・45)
- 14・00(中道 20)
- 林道分岐15・00(五輪池15・00)
- 林道終点15・50(宇賀屋社中場16・10)
- (解散)
- 快晴の天候で汗はかいたが、ほぼ予定時間まで歩け、勝ヶ岳の池も一カ所水が溜まって三つになっていた。花はカタクリ・イワカガミ・シロヤシオ・シヤクナゲ等で、めずらしいものではワチガインソウも見られた。
- (参加者) 平塚明美 吉藤孝次 本間 隆 湯浅謙夫 湯浅みや子 山藤美英 吉村 昭 草野智穂子 栗木敏夫 岩田育士 島田京子 俣谷礼司 木下朝子 伊藤重美子 西村文男 尾下由子 伊藤寛久男 三井敏一 北川慧子 去戸喜久江 安田良剛 西内正弘 落合ひろ子 原 光一 原 光子 山野志保江 山村善男 井上 幸 島田信彦
- ◎高原芳彦 ◎山田明男(計17名)

美濃・五輪池山と蕎麦粒山 (自然観察山行8)

- 5月19日(日) 20日(月) 泊2日
- (19日) 晴れ 大垣駅集合8・40(バス) 西原谷出合9・50(16)
- 05(1)
- 林道終点広尾山10・05(15)
- 登山口(蕎麦粒山との分岐)11・25
- 五輪池峠12・40(五輪池山13・05)
- 10(1)
- 五輪池山13・35(昼食)14・15
- 登山口15・00(バス) 西原谷出合17・00(20)
- (20日) 晴れ 旅館6・30(バス) 西原谷出合8・40(45)
- 林道終点広尾山7・45(8・25)
- 登山口(五輪池山との分岐)8・35(1)
- 村境尾根10・05(蕎麦粒山11・10(昼食)12・00)
- 登山口13・50(14・25)
- 西原谷出合15・40(バス) モリネリ峠16・55(八倉)17・35(バス) 大垣駅18・15(解散)
- 五輪池山と蕎麦粒山の連続登山は地元ハイカーも嘆息する厳しいコース。リッターとしては正直なところ心配だったが、全員無事に登頂できた。昔さるのガンバリに感謝。美濃の山々のど真中に位置する五輪池山は自然はきわめて豊かで、蕎麦粒山山頂からの眺めは絶景だ。
- (参加者) 岩田育士 網木美重子 近江秀子 関安紀雄 萩野美紀雄 沖 伸 堅田 弘 草野智穂子 小林 桂 田辺聡子 佐々木敏明 夏山哲子 原 文字 砂原重美子 松尾穂子 宮本真幸 船本倫子 横井 徹 横井裕子 松上英代子 山本直治 安田文美江
- ◎三井敏一 ◎菅野孝彦(計27名)

近畿自然歩道 山尾路コースを歩く3

- 5月13日 晴れ
- 能勢電口生中央駅集合9・30(35(バス) 銀山口9・50)
- 銀山分岐10・20(ソノエ谷11・20)
- 万福寺11・50(昼食)12・30(茶室明命)
- 神社13・25(波豆神社14・15)
- 十列ダム16・30(J.R.追分駅17・00(解散))
- 天気良かったので、田植の終わった田圃風景を楽しむながら里道を歩く。参加者の頑張り次第でコース、千列ダム湖畔を歩き、堰堤の石組のすばらしさに感動。
- (参加者) 佐田次男 眞田久子 大和 敏 三宅 明 船越みよ子 小田潤子 太田幹子 大前千代子 住田親隆 秋田龍夫 野里マン代 保田 正 野間越夫 小林優子 三輪浩子 岡田 昇 岡田重美子 小山 輝 小林 桂 松島千佳子 今津司 美村孝治 小野典子 兼田幸子 岩崎賢司 岩崎穂子
- ◎須藤慶 暢 (計27名)

寺山峠から旧花背峠・天狗杉 (京都北山歩き96)

- 5月13日 晴れ
- 京都山崎町柳駅バスターミナル集合
- 8・40(バス) 花背原前9・40
- 寺山峠10・30(86)
- 12・00(昼食)13・00(旧花背峠13・30)
- 40(1)
- 天狗杉13・50(木津原14・00)
- 30(1)
- 花背峠14・45(15・15(バス) 出町柳駅16・15(解散))
- 寺山峠から尾根を進行して旧花背峠へのやぶ漕ぎを楽しんだが、ササは以前より少なくなつた。途中分岐を間違えてしばらく行つたが、気がついて修正できた。時間が余って休憩が多かつた。
- (参加者) 杉本 高 中村桂子 高木忠夫 辻河幸裕 小松生治 森本哲雄 飯田愛子 加納由紀子 洲田 京 西村耕一 中嶋日出男 菅生幸子 宮本真幸 宮本成子 西村篤行 磯部直治 岡田史一郎 岡田勲子 渡部達郎 西野加代子 佐野信江 長尾節子 中村智香 青木一雄 高橋徳治 高橋由紀子 林 陽子 栗生 哲 ○長比裕美
- ◎村田智俊 (計30名)

三重・獅子ヶ岳 (鈴鹿を歩く118)

- 5月13日 晴れ
- 近鉄伊勢市駅集合9・35(40(タクシー) 注連寺10・20)
- 獅子ヶ岳登山口11・07(尾根取付11・33)
- 弁岩12・33(シンシ岩12・50)
- 獅子ヶ岳13・07(昼食)13・30(林道14・23)
- 山尾路15・07(タクシ) 伊勢市駅15・30(解散)
- 慶合アルプスの中の一山で、さすが周囲はすべて山だった。注連指から出合橋の山越えのルートを歩いたが、シンシ岩からの展望はすばらしかった。
- (参加者) 中村英雄 中尾美穂子 松村雅子 黒田昭子 疋 すみ子 高岡信男 朝倉利巳 ○長沢佑美 ○多賀久子 ○小出良春(計10名)
- 北嶺・るり溪から深山 (北山ちよと歩き21)
- 5月25日 晴れ ◎山田雄二
- \*雨天のため中止しました
- 比良・こめかい道から蛇谷ヶ峰 (平白ふれあいハイク26)
- 5月24日(日) くもり
- 京都山崎町柳駅バスターミナル集合7・35(バス) 野田駅8・55(9・05)
- ひじき滝10・25(旅館



中島隆 田中善雄 田中真知子  
辻村幸祐 森本 勝 森本淳子  
高津賢美 武部 剛 武部美奈子  
白根淳子 下村啓三 下村啓子  
辻 一行子 福岡 章 井林秀孝子  
中村静香 東山禮夫 長谷尾節子  
吉藤孝次 多賀久子 増谷孝一  
加藤元彦 緒方由子 中上紀代子  
山田昌三 磯部 純 小山賢美  
渡辺次郎 岩崎啓司 平田義男  
佐田次男 加藤浩一 高岡富美子  
原 孝子 谷 守 東 美智子  
今村 貞 ○具比佐美  
○安井止勝 ○村田哲俊 (計31名)

比良  
木戸峠から比良岳と鳥谷山  
(平白水曜ハイイク11)  
6月6日(祝) ◎湯浅次男  
\*雨天のため中止しました

冠山 (自然観察山行6)  
5月9日(出) くもり時々晴れ  
JR大垣駅集合8・40(バス) 冠  
峰11・10→20→冠平12・30→冠山  
12・40→50→冠平13・10(昼食)  
14・00→冠峰15・00→20(バス)  
大垣駅18・00(解散)  
冠峰付近から、また登山道から  
遠望する冠山の姿はいっ見ても魅

了される。野鳥のさえずりも響き  
渡り、ブナ林のやわらかさと高涼  
状の冠平のすがすがしき、絶壁を  
登りきって立った山頂の快楽さが  
冠山の想い出を久くつづてくれた。  
(参加者) 上田久子 猪野美枝子  
葉田孝子 吉藤孝次 藤野天紀  
夏山春子 幸田正栄 幸田富美子  
藤本桂吉 布施清美 加納由紀子  
若松 寛 若原朝子 草野雅子  
安田文英江 松上美代子  
○三井雄一 ◎菅見守康 (計18名)

美濃・郡家  
6月10日(出) くもり一時雷雨  
JR大垣駅集合8・30→9・00  
(電車) 木更駅9・45(タクシー)  
八谷10・30→林道集合12・45(昼  
食) 13・15→林道14・30→40→林  
道集合15・40→八谷17・20(タク  
シー) 樽見駅18・00(解散)

隠れた名山と言われる雲見 林  
道出合まではコアジサイとブナ林  
の静かなコースだった。林道から  
は猛烈なブッシュとなり、降り出  
した朝とヒルに悩まされながら雷  
倉に駆け抜け、雷雨となり、それが  
またいっそう思いつ深い山になっ  
た。  
(参加者) 岡安紀征 中西雅樹好

川島賢美 渡辺淳子 山本すま子  
松尾昭子 村上高子 岡本美子子  
大谷繁子 沖 伸 中尾美智子  
坪口和子 木下朝子 伊藤美奈子  
森 晴代 小谷朝子 森澤恵子  
伊下由子 ○幸田 弘  
○高代 猛 ○中島日出男  
◎小田良香 (計22名)

近畿自然歩道  
6月10日(出) くもり  
山陽道コースを歩く4  
JR道場駅集合9・35→神鉄二  
駅10・55→神戸北インター12・00  
(電車) 12・35→天狗岩入口13・00  
10→中大沢バス停14・00→右筆寺  
15・40→北郷温泉バス停16・20  
(バス) Jニニニ駅(解散)

雨のなかの行進を覚悟するが一  
日中くもりで推移。雨傘が巨傘に  
なり、自由気ままにコース後半の  
石室寺へ。雲と新緑、寺内を吹き  
抜ける涼風で疲れをいやし、最後  
の小峠を越えて全員完歩。  
(参加者) 小山 輝 野間起夫  
小林徳子 河野妙子 野里マツ代  
石田賢二 宮下淳一 住田潤隆  
小田賢子 保田 正 加来昌子  
大和 勉 岡田 昇 岡田富美子  
秋田博師 三輪淳子 森 環代

岩崎啓司 占部信成 岩崎恵子  
前出幸子 眞田久子 眞田百合子  
白鳥昌子 佐田次男 今津昌司  
吉根 清 松本忠雄 砂原恵美子  
美村孝治 ◎須藤岡 暢  
(計31名)

水無山・綿向山・奥草山・政子  
(釣鹿を歩く120)  
6月10日(出) 晴れ  
かもしか江集合8・30(車) 水無  
林道広場8・55→尾根9・30→水  
無山頂10・20→綿向山11・15  
→ブナの木平11・40(昼食) 12・30  
→大塚のカレ12・50→8→14  
→30→奥草山14・20→政子14・40  
→野洲川ダム15・35→かもしか江16  
00(解散)

雨前に入り、風がなく蒸し暑い  
水無の登りはつらかったが、金明  
水で元気を取り戻した。綿向山の  
ブナの原生林を見てササ原を一気  
にくぐり、ブナの木平で昼食。も  
こもことどこまでも続く山並を風  
に吹かれて、奥草山・政子から野  
洲川ダムへ。未踏に近い尾根はや  
ぶの全然ない楽しい山旅となっ  
た。  
(参加者) 後藤康幸 安田良剛  
高津賢美 森本 勝 森本淳子

小林 稔 結川敏雄 結川真知子  
池田繁美 田尾 肇 武藤山美子  
上田政子 林 一夫 伊藤久男  
高杉 博 吉本泰之 網木美恵子  
谷 守 神野孝允 落合ひろ子  
磯部 純 山村恭男 石田真由美  
高原芳彦 原 光一 赤戸鉄治  
西村文明 ○山田昌三  
◎石野 明 (計29名)

六甲・有馬三山  
(ファミリーハイイク2)  
6月14日(休) ◎木村太郎  
\*雨天のため中止しました

湖北・三國山から赤坂山  
(週末ハイイク32)  
6月16日(出) くもりのち晴れ  
JRマキノ駅集合9・30→35(バ  
ス) 白谷10・10→奥道集合10・30  
→黒野峠登山口11・10→25→三國  
山12・20(昼食) 13・05→赤坂山  
13・50→14・00→ブナの木平14・  
50→湖子ヶ滝15・30→45→マキノ  
高原16・10→20(バス) マキノ駅  
16・40(解散)  
予報より天候の回復が遅れたた  
め、種樹は甚のなかで疲労がなかつ  
た。三國山への登山道には白やレ  
ンクのササユリがちらほら見られ、

湿原のキンコウカも咲き始めてお  
り、花の山道を楽しむことができ  
た。下山が少し早かったので、水  
量豊富な湖子ヶ滝見物に寄り道を  
した。  
(参加者) 岩田吾士 前川和佳子  
宮西和子 吉藤孝次 松上美代子  
原 文子 三浦幸華 森 環子  
菅見守康 朝長明美 森 環子  
橋本 進 植木徳子 酒井芳子  
青木一雄 前田一代 秋田博師  
高橋隆治 本間 隆 本間徳子  
大橋元造 森 晴代 砂原恵美子  
小田洋子 小林 桂 中尾美智子  
北川慧子 細野敬也 ◎竹野東彦  
(計29名)

小女郎峠から蓬萊山・打見山  
(比良を歩く2)  
6月17日(出) 晴れ時々くもり  
JR聖田駅集合8・40(バス) 坂  
下9・10→25→ヘク谷分岐10・00  
→小女郎峠11・25→35→蓬萊山12・  
05(昼食) 12・50→クロトンノハゲ  
13・25→30→天狗岩14・05→15→  
JR志賀駅15・05(解散)

今が盛りだペニドウダネと、散  
り落ちて登山道を埋めるサラサド  
ウタナ、可憐に咲くササユリなど  
眺めながら、のんびり歩いた。

(参加者) 小林 稔 森本幸雄  
長尾一命 馬籠忠男 佐々木敏明  
中山正敏 武部 剛 森崎貞義  
橋本隆治 橋本秀子 磯野清治  
天岡 茂 増田國宏 岩本いすゞ  
山口喜弘 白根淳子 加納由紀子  
小松志信 西 穂子 岩本健一  
岩本彰子 中川光郎 ○宮下淳一  
◎秦 康夫 (計24名)

湖東・美作山  
6月17日(出) 晴れ  
JR近江八幡駅集合9・20→40  
(電車) 市辺駅9・50→船岡山10・  
07→13→11・00→岩山11・10  
→小麻山11・25→元作山11・47→  
瓦屋山12・20(昼食) 13・00→太  
郎坊山13・15→太郎坊宮13・30→  
50→太郎坊新14・10(解散)

地元の松本紳さんにコース案内  
を頼んで、歴史に包まれた山を歩  
いた。樹木もなく歩きやすくなっ  
たなあと感じていたら、トツン集  
団が片付けていてくれた。われな  
がら気楽なリーダーだと思っただ  
(参加者) 野間起夫 小松さゆ子  
大江 湖 松尾昭子 石井恵美子  
森 晴代 土井隆夫 岡本美子子  
原 文子 松本 勝 岡田富美子  
中尾美智子 二井千鶴子

松上美代子 渡辺美代子  
◎市野博文 ○中村美雄  
◎小田良香 (計18名)

三重・柳坂山  
(笠懸百名山に登る30回)  
6月17日(出) くもり時々晴れ  
近鉄八木駅集合8・00→10(バス)  
松阪森林公園10・10→20→東原  
聖台10・30→観音岳11・50→12・  
00→木陰広場12・10(昼食) 13・  
00→柳坂峠13・30→柳坂山14・10  
→30→帯母谷林道15・50→松阪森  
林公園16・10→30(バス) 八木駅  
18・40(解散)

ササユリの咲く森林公園の整備  
された道を歩いた。柳坂山からの  
眺望はかすんでいたが、遠くに同  
々の山頂が見え、次に行く予定  
の白猪山もすぐ近くに見えた。  
(参加者) 沖 伸 宮村孝次郎  
高岡起男 松原香織 高田久美子  
中谷美子 片山克雄 片山悦代子  
遠藤 幸 小谷和子 中西規彦  
辻村幸祐 白根淳子 松野雅子  
福岡 章 東山禮夫 奈須那子  
保田 正 長塚恵子 長尾節子  
松尾正敏 河内東洋明  
三輪正敏 加藤浩一 砂原恵美子  
青木一雄 秋田博師 中嶋日出男

高代 録 黒田靖子 佐野信江  
磯部 純 家人敏光 家人親子  
山口一夫 山口富子 大西幸孝  
大西千鶴 渡辺誠哉 多智周一  
宇野弘幸 松本忠雄 鈴木恵美子  
小林 桂 中谷善多 ○女貞正勝  
○村田賢俊 (計47名)

鬼ヶ牙・長坂の頭・白竹岳  
(鈴鹿吉山山荘)  
6月17日(日) くもり時々晴れ

JR亀山駅集合8・55(車) 石水  
溪・船石林道分岐9・20(40)鬼  
ヶ牙三箇登山口9・45(鬼ヶ牙二  
峰)10・15(鬼ヶ牙最高峰)10・45  
(長坂の頭)1・20(長坂の頭北の  
尾根)11・45(昼食)12・35(黒城  
尾根)7・56(12)・55(白竹岳)13・  
55(白竹岳)14・20(駐車地点)14・  
55(15)15(解散)

亀山の石水溪・安楽川沿いの、  
地図にないルートを一廻りした。  
鬼ヶ牙二峰の山頂と488m最高  
高の岩が「おっばい」に見えて  
おもしろく、黒城の尾根では「エ  
コ」の花の白い繊維がとでもきれ  
いだった。

(参加者) 三井敏一 網木美由子  
春見重美 宮崎美智 瀬戸内伸子  
尾崎光子 藤本桂吉 山野志保江

(参加者) 川島勝美 吉谷久江  
三井千鶴子 岡本美千子  
◎小出良香 (計5名)

西山・唐櫃越

(北山ちよこと歩き22)  
6月27日(日) 晴れ

JR山陰線新堀駅集合9・10(15)  
一登山口9・45(みす山)10・45  
一王ヶ辻11・35(昼食)12・35(一  
ヶ辻山)13・30(山田破れ)15・15  
(解散) 一坂急上り

野鳥の森の敷類類の小鳥のさえずりに耳を傾けながら、唐櫃の晴れ間の雑木林歩きを楽しんだ。  
(参加者) 近藤 恭 柳川常雄  
馬籠中野 吉橋孝次 松本文文  
本郷光夫 西村耕一 木村 豊  
吉藤 清 本間 隆 本間繁子  
中村 保 中村英雄 松原千代子  
今井 悟 西 寛子 堀田輝子  
清水昭三 魚江朝子 白附紀子  
妹尾一正 谷 守 成川みさお  
加藤園子 菅生孝子 堀江八重子  
高木 晋 長沢友美 山崎主孝子  
辻 行子 白根清子 中嶋日出男  
土井隆夫 細井和子 波多野美子  
武田晋司 武田和巳 小川晴美  
竹田隆英 ◎山崎三三 (計46名)

西内正弘 山村恭男 伊藤恵美子  
栗本敏夫 中尾和子 武藤由美子  
鈴木 浩 鈴木友子 穴戸善久江  
小林隆子 佐治光江 佐古田文子  
原 光一 原 幸子 吉村 昭  
◎原原芳彦 ◎山田明男 (計25名)

八ヶ岳  
新山山荘 (自然観察山行会)  
6月22日(日) 24日(日)

前後発一泊2日  
(22日) 晴れ 岐阜駅33・50(バ  
ス)  
(23日) くもり 美濃河口5・50  
(朝食) 6・30(美濃河口山荘)  
30(45)赤坂峠分岐9・20(40)麻  
黄岳11・25(昼食)12・25(横岳  
13・40(14)00(赤岳)横岳15・  
15(山)

(24日) 雨 赤岳展望9・10(一  
地蔵尾根)行者小屋9・50(美濃  
戸山荘)11・20(45)美濃戸口12・  
20(昼食)13・00(バス)原村も  
みの湯13・15(入浴)14・00(バ  
ス)岐阜駅17・30(解散)

新ハイキングクラブ関西  
入会の案内

当会は雑誌「新ハイキング関西  
の山」(隔月刊・年5号発行)の  
定期購読者を中心としたハイキン  
グの集いです。

この雑誌は紀行文やコースガイ  
ドなどで、関西のハイキングコー  
スや山の情報を発信しています。  
山の知識を深め、情報豊かで健康  
な身体をつくり、自然のなかを歩  
く喜びをともに広めましょう。

「新ハイキングクラブ」は昭和  
25年発足以来、東京を中心に50年  
間も好評のうちに活動してきました。  
関西は平成3年発足で10年目  
に入りますが、すでにたくさんの方  
が活動しています。

会費は当会の山行例会に優先し  
て参加できます。この山行例会を  
通じて正しい山歩きを、楽しい山  
仲間たちと味わいませんか。  
リーダー(株)はすべて無償の  
奉仕で、各自で切符を買い茶代を  
払い、宿泊料もすべてワリカンで  
す。

会費には毎号「新ハイキング関  
西の山」をお送りします。  
四季の自然に触れながら歩き、

台風2号の影響で嵐の規模。縦走  
を断念し小屋で待機。コース状況  
を検討し、9時過ぎから下山。地  
蔵尾根を無事くぐり、皆さんのガ  
ンバリとチームワークに感謝。  
(参加者) 石川 敏 猪狩美枝子  
岩城豊子 若田青子 荻野美紀恵  
岡田直規 猪方由子 加納田紀子  
小林 桂 後藤俊幸 佐古田文子  
佐藤繁治 田中 明 砂原恵美子  
夏山孝子 松原隆子 林 えい子  
三井敏一 森 晴代 鈴木裕己子  
山崎隆美 山本宜治 松上英代子  
若松 寛 ◎狩野東彦 (計26名)

笠石の丘・衣掛山・日本コバ  
(鈴鹿を歩く121)  
6月24日(日) くもり

愛宕町道の駅集合8・25(車)衣  
掛山登山口9・05(笠石の丘)10・  
05(衣掛山)10・35(衣掛の泉)10・  
55(日本コバ)11・35(昼食)12・  
20(18)97(13)00(叡神)13・  
25(大蔵)14・40(恵)林道入口15・  
00(解散)

どしゃ降りのなか、急井峠を越  
えると小降りになり、林道入口に  
着くとほとんど止んだ。笠石の丘  
は深い霧のなか、しかし鈴鹿の山

若々しい心と健康をいつまでも持  
続するのはすばらしいことです。  
これから始めてみたい人も、すで  
にベテランの方もみなさんご入会  
いただけます。

入会金 5000円(バジッ代)  
年会費 3000円(送料共)  
入会の中し込み(随時)はこの  
雑誌に挿入の振替用紙をご利用く  
ださい。氏名(ふりがな)及び第  
一回号からの送本をお忘れすに記  
入ください。

なお、定期購読をご希望される  
方も会員になっていただきますと、  
毎号随時にお手元に届きますので  
便利です。

切手500円分をお送りになれ  
ば、「新ハイキング関西の山」見  
本誌1冊送ります。

無償の奉仕ですが、やりがいも  
あり、楽しいものです。経験のある  
方や、やってみたいと思われる  
方は、新ハイキング関西までご連絡  
ください。マニュアルリーダー  
必須」を送ります。

並を描いた大看板に納得。霧の混  
原と深い樹林は幻想の世に死 日本  
コバにはナサユリが咲き、明徳岩  
では一時的に霧が消え眺望を楽し  
んだ。  
(参加者) 安田良剛 森本 勝  
森本孝子 栗本敏夫 吉岡 仁  
高原友彦 磯部 純 関野太一朗  
古橋孝次 東山澄夫 伊藤善久男  
福岡 章 榎田勝利 原 光一  
原 幸子 谷 守 池田繁美  
加藤園子 高尾吉吉 森田和子  
渡倉節江 神野孝允 石田貞由美  
堤 良男 谷 久雄 武藤由美子  
水谷俊之 水戸鉄治 小林 実  
西村文男 ◎山口三三 (計32名)

尾張・岩屋山から山屋山  
6月24日(日) 雨のち晴れ

JR名古屋駅集合7・20(電車)  
系尾瀬登山口9・20(岩屋山)30  
一五石果9・55(山屋山)10・07  
一白竹11・07(中津橋)12・00(合衆  
12・30)静養橋13・25(古刈)14・  
10(山屋山)14・37(高尾山)15・24  
一JR定光寺駅16・15(解散)

○新入会員紹介  
新しいお仲間のみなさんです。  
会費番号4511番から4556  
番まで

- 【愛知】 大石将美 池ノ谷美子
- 【三重】 奥野民藏 奥野富美
- 高野かへ子
- 【福井】 高島伸浩
- 【滋賀】 堀 春江 加納健生
- 加藤愛子
- 【京滋】 小田洋子 矢野紀美子
- 渡辺利子 小寺美子 上野美智子
- 大槻穂子 田中清子 後藤多津子
- 酒井俊子 西村信夫 堀江八重子
- 田中洋子 牧 和夫
- 【大阪】 田中隆子 渡 廣子
- 盛 敏子 伊藤隆子 伊東ナナ子
- 高島善巳 加藤美紀 山田あさみ
- 松本隆子
- 【奈良】 長瀬範之
- 【兵庫】 原 雅子 土井あつ子
- 土井明夫 イッ降生 三下雅美恵
- 磯山真一 四方隆二
- 【愛媛】 石川晴生 (40名)

訂正とお詫言

59号(5頁)39ページ下段の  
A参考タイムの「JR北江今津駅  
は近江宮原駅が正しい」  
(編集長)